

池A-80

叢A

119

6

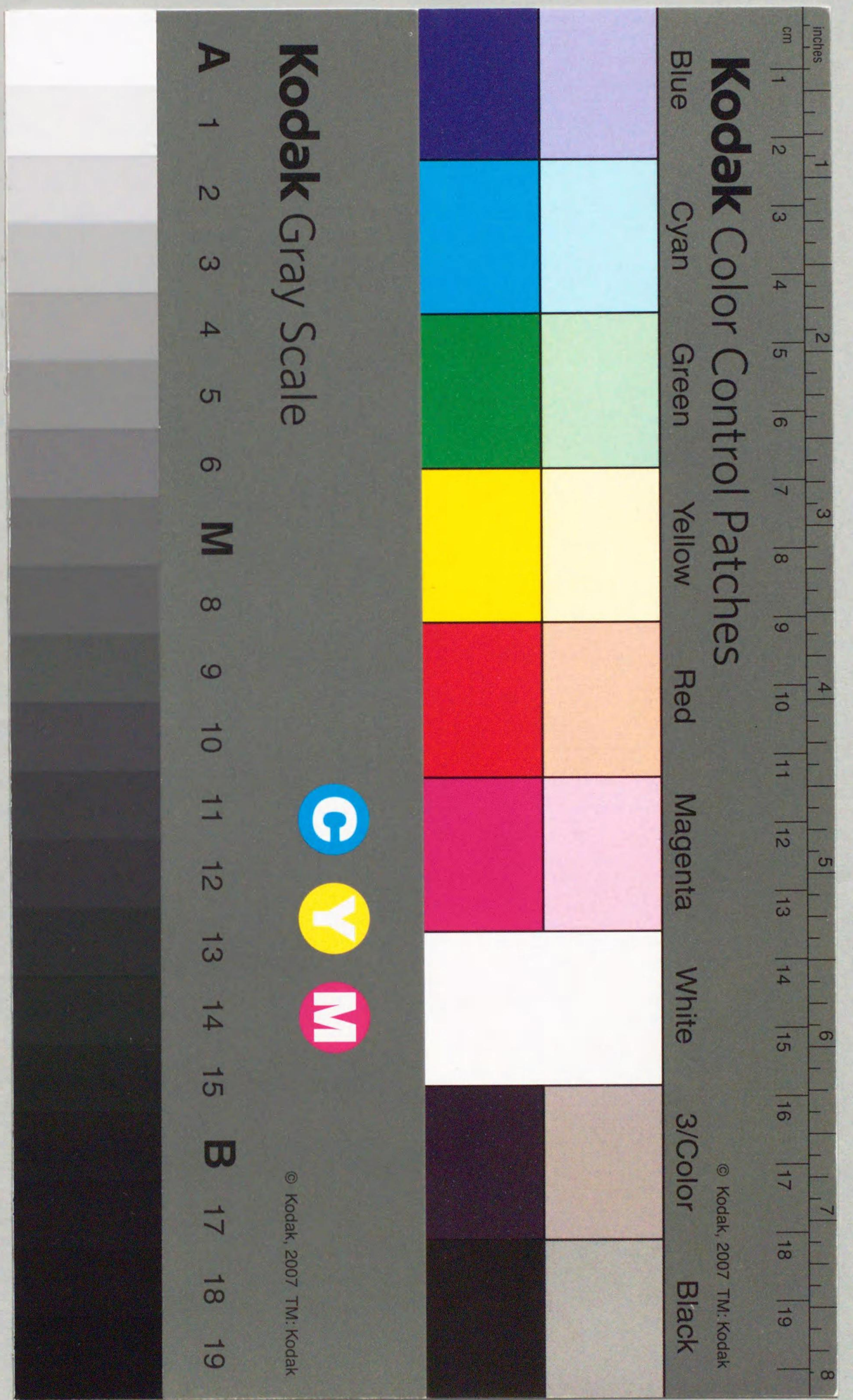
餘剩勞力消化ニ關スル方策

經濟更生資料第六輯
昭和十年六月

秋田營林局



10. 7. 15



inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak

DM535

20



81W44225

~~835972~~

序 言

國有林野所在町村ニ於ケル餘剩勞力ハ頗ル大ナルモノアリ之ガ消化固ヨリ當局署ニ於ケル各種業務施設ニノミ俟ツ能ハズト雖モ可及的之ガ生産化ヲ企圖シ且地方的季節的分配ノ適正ヲ期スルハ一面國有林野管理經營ノ要締タルノミナラズ他面地元町村經濟更生ニ資スル所多大ナルモノアリト思料ス

本輯ハ本年五月二十七日ヨリ三日間開催セル營林署長會議ニ際シ本年度事業計畫ノ範圍内ニ於テ右餘剩勞力消化ニ關スル具體的方策ヲ諮問セルニ對シ管下三十二營林署長ノ答申セルヲ其儘集録シタルモノニシテ執務上參考タルベキモノアリト認メ騰寫ニ代ヘ印刷ニ附セルモノナリ

昭和十年六月

秋田營林局長

島 田 春 夫

秋田營林署	一六九
和田營林署	一七五
本莊營林署	一八三
大曲營林署	一八九
角館營林署	二一七
生保内營林署	二二九
横手營林署	二三九
湯澤營林署	二五一
酒田營林署	二五七
鶴岡營林署	二七一
眞室川營林署	二八三
新庄營林署	三〇一
舟形營林署	三一五
橋岡營林署	三一九
寒河江營林署	三三五
山形營林署	三四五
米澤營林署	三五三

諮問事項

餘剩勞力消化ニ關スル件

曩ニ實施セル經濟調査ノ結果ニ鑑ミルニ國有林野所在市町村ニ於ケル餘剩勞力ハ頗ル大ナルモノアリ之カ消化ハ固ヨリ營林局署ニ於ケル各種業務施設ニノミ俟ツ事不可能ナリト雖モ可及的之カ生産化ヲ企圖シ且季節的地方的分配ノ適正ヲ期スルハ一面地元市町村經濟更生ニ資スル處アルノミナラス他面國有林野管理經營ノ要諦ナリト思料ス右ニ就キ其ノ署管内各地元市町村經濟ノ實情ニ即シ既往ノ業務ノ實績ニ徴シ本年度事業計畫ノ範圍内ニ於テ之カ消化ニ關シ左記各項ニ付實行シ得ヘキ具體的意見ノ開陳ヲ求ム

- 一、國有林野各種事業實行上考慮スヘキ事項
- 二、國有林野各種制度竝施設ニ就キ擴充刷新スヘキ事項
- 三、地元市町村經濟組織ニ適合シ指導助長スヘキ農山村工業及副業ニ關スル事項
- 四、其ノ他參考事項

一、本市下林業振興會之設立、建設利便ノハ、本島山林工業興隆ノ第一
 二、本市下林業振興會之設立、建設利便ノハ、本島山林工業興隆ノ第一
 三、本市下林業振興會之設立、建設利便ノハ、本島山林工業興隆ノ第一
 四、本市下林業振興會之設立、建設利便ノハ、本島山林工業興隆ノ第一
 五、本市下林業振興會之設立、建設利便ノハ、本島山林工業興隆ノ第一
 六、本市下林業振興會之設立、建設利便ノハ、本島山林工業興隆ノ第一
 七、本市下林業振興會之設立、建設利便ノハ、本島山林工業興隆ノ第一
 八、本市下林業振興會之設立、建設利便ノハ、本島山林工業興隆ノ第一
 九、本市下林業振興會之設立、建設利便ノハ、本島山林工業興隆ノ第一
 十、本市下林業振興會之設立、建設利便ノハ、本島山林工業興隆ノ第一

高田町

花輪營林署

署長 黒柳恒吉

一、國有林野各種事業實行上考慮スベキ事項

(一) 昭和十年度國有林野各種事業出役人夫數調ハ次表ノ如シ

收	穫	造	林	斫	伐	土	木	境界測量	計
七六人	一〇、七〇人	一一、六八人	一、〇四八人	八三	一一、〇三三				一一、〇三三

前述ノ各種事業ハ事情ノ許ス限り適當配分シ餘剩勞力ヲ利用セントス即チ縣町村營事業ノ進行ノ狀況並農閑期ヲ考慮シテ事業ヲ實行セントス尙ホ事業實行ノ際ハ極力生活困難者ヲ使役シテ生活ノ安定ヲ計ラントス
 即チ撫育事業ニ關シテハ左記計畫ニ基キ實行セントス
 其ノ他ノ收穫、斫伐(運炭)土木、境界測量モ前述ノ通り差繰リ實行セントス

撫育事業計畫

當署管内ニ於ケル撫育手入事業ハ從來赤松ノ一部ハ六月ニ實行シ其他ハ全部七月ニ實行シ來タリシ處本年度ニ於テハ赤松ハ全部農村田植直後閑散タル六月ニ實行其他事業ノ内一―三回手入ハ七月第四回手入以降ハ八月ニ繰延ベ以テ農村餘剩勞力ノ適當分配ヲ考慮セリ

記

國有林事業

擔當區	六月(アカマツ)		七月(一―三回)		八月(四回以降)		計	備考
	面積	經費	面積	經費	面積	經費		
柴内	六・五 ^{ha}	七三 ^円	四・三 ^{ha}	四九 ^円	二・三 ^{ha}	二七 ^円	六・一 ^{ha}	七六 ^円
								全部手入

小豆澤	田山	折壁	兄畑	坂比平	長内	花輪		
						(葛)	(能)	(花) 10・33
290	5036	3874	2730	0	206	0	0	55
16	249	187	81	0	7	0	0	55
1646	5836	1056	6035	300	5822	1903	2577	1177
87	268	546	284	11	246	464	52	65
0	1084	633	2262	763	2807	0	1880	2528
0	559	29	53	38	133	0	99	78
1936	2273	15092	10027	1033	8825	1903	4397	3738
103	1076	763	48	49	385	17	151	198
入		同	同	同	同	同	同	同

官行造林地

長内	坂比平	兄畑	計	臨經合計
0	0	0	290	13824
0	0	0	16	667
428	5801	1088	12633	55345
28	246	44	505	2955
500	0	5043	5543	27024
14	0	136	150	1338
4628	5801	632	18496	96193
143	246	180	671	4960
同	同	同	同	

昭和十年度管内所在勞力需給關係表

季節	所在勞力	所要勞力	過剩勞力	本年度所要勞力 (實行濟四二一) (六月以降九七二)	過(不足)
(四月-六月) 春	739,046	698,852	40,194	133,383	26,822
(七月-九月) 夏	822,293	731,981	89,312	64,337	24,995
(十月-十二月) 秋	747,059	691,787	55,272	34,663	10,610
(十一月-三月) 冬	633,909	563,898	110,011	5,049	104,961
計	2,981,307	2,686,528	294,789	117,500	177,379

經濟調查表ニヨル

官民ノ所要勞力トス

參考表

縣、町村、民營業ニ使用人夫左ニ記ス

町村別	縣營業	町村營業	民營業	計
花輪町	1人	19,777人	1人	19,777人
尾去澤村	533	11,000	1	11,533
宮川村	36,800	1,940	9,650	48,390
曙村	1	4,180	1	4,180
柴平村	1	4,287	1	4,287
田山村	1	9,000	1	9,000
計	37,333	41,277	9,650	88,260

合計 二五、〇三二 國有林分 一一三、一九九

一、國有林野各種制度並施設ニ就キ擴充刷新スベキ事項

一、造林小屋ヲ山菜其ノ他採集並加工ノ爲メ開放利用セシムルコト

山菜ノ採集加工ハ農山村民ノ生活上與フル利益ハ甚大ナリ然シテ採集區域ハ部落ヨリ遠距離ニシテ且ツ廣大ナル區域ナリ依ツテ之レガ採集並保存加工ノ爲メ事業實行上差岡ナキ限リ關係地元部落民責任者ヲ選定ノ上火氣其他取締ナサシメルコトヲ條件トシテ使用セシムトス

二、地元市町村經濟組織ニ適合シ指導助長スベキ農山村工業及副業ニ關スル事項

現在當署トシテ指導助長シ居ル主ナル副業ハ次ノ如シ

- (イ) 當署管内國有林ヨリ一ヶ年ノ山菜、採取量ハ一一五・〇〇〇kg價格ニ於テ三、五八四圓ニテ主ナル取引先ハ花輪町毛馬内町、尾去澤山、盛岡市ニシテ其ノ販賣數量、價格ハ四八、九七五kg、二、五六六圓ナリ然シテ曙村ニ於テハ路、筍ノ鹽漬、又ハ乾燥等加工貯藏シ産業組合ニヨリ販賣シ居ル現狀ナリ
- (ロ) 大湯町草木、柴平村ハ地竹利用ノ竹細工ハ年産額八八七圓ニシテ主ニ冬期副業トシテ製作スルナリ
- (ハ) 田山村ニ於テハくろもじヨリ茶ノ湯揚枝其ノ他小揚枝ヲ副業トシテ製作シ其ノ年産額一一〇圓ナリ
- (ニ) 椎茸ノ栽培ニ關シテハ昭和五年以來昭和九年迄ノ榎木拂下數量ハ三七二立米(三二四圓)拂下シ、町村ト共同指導獎勵シ一部ハ近年收穫ヲ擧グルニ至レリ
- (ホ) 炭俵、繩ノ製作

當署官行製炭用炭俵、繩購入ノタメ田山村民並ニ田山小學校生徒(勤勞精神養成ノタメ製作セシメ其ノ代金ヲ學用品購入代ニ利用ス)ニ製作セシム其ノ數量、價格、炭俵九、八九〇枚、二七七圓七六〇繩一、一〇〇把四二圓五六〇ナリ

二、前述ノ副業ヲ今後モ指導助長スル外左記事業モ指導獎勵セントス

(イ) アケビ蔓ノ採集獎勵

當署管内民有地ヨリ採集ノアケビ蔓年産額ヲ示セバ次ノ如シ

生産地	数量	単価	金額	摘	要
曙村、宮川村、田山村、柴平村	四・五〇〇〇	一・〇六三	二、七九〇	花輪町商人ノ手ニヨリ皮判乾燥ノ上一部ハ製品トシテ南洋方面ニ輸出ス、其ノ他ハ蔓ノ儘静岡、長野、和歌山方面ニ移出ス、移出額三、二五五圓	

今後國有林ヨリノ採集許可ノ上ハ尙五割ノ増産見込ニツキ採集獎勵ヲ計ラントス

(ロ) ぜんまい綿、えらくさ(あいこ)ノ纖維ヲ以テ織物ノ獎勵

往時農家ハ、自給自足ノモトニ、日常ノ作業服ハ殆ンド自給セル状態ナリシガ時代ノ變遷ニ從ヒ、殆ンド自給セル者ナク之ガ爲メ被服費ハ相當ノ額ニ上リ困窮ニ困窮ヲ重ヌル有様ナリ
殊ニ冬期間婦女老人ノ如キハ殆ンド仕事ナク安閑トシテ其ノ日ヲ過シ居ル状態ニ鑑ミ最モ適當ナル仕事トシテ之ガ獎勵セントス
其ノ製作並ニ工費次ノ如シ

種類	数量	種類		数量	種類	人夫數	金額	備考
		種	類					
ぜんまい綿利用及物一反分		着物綿	四〇匁	綿	打	二	〇・三〇〇	
		ぜんまい綿	六〇匁	糸	繫	二	〇・七〇〇	
		縦糸	一反分	縦糸及綿	織物	二	〇・七〇〇	
計							一・六〇〇	木綿ニ比較シテ三倍ノ強サアリ

種類	数量	種類		数量	種類	人夫數	金額	備考
		種	類					
えらくさ(あいこ)	反物一反分	織	二〇〇匁	糸	繫	一	〇・七〇〇	
		縦糸	一反分	縦糸	織	二	〇・七〇〇	
計							一・四〇〇	木綿ニ比較シテ五倍ノ強サアリ

(ハ) 炭俵ノ製作獎勵

當署管内地元民ノ主ナル副業タル製炭用俵ノ地元製作一ヶ年二三、九〇〇枚ニシテ一ヶ年ノ需要數二五四、〇〇〇枚ニ對シ二三〇、一〇〇枚ノ不足ヲ來タシ居レリ之ガ不足分ハ他ヨリ購入ノ現状ナルヲ以テ簡易委託林實施後、之ガ原料ヲ採集セシメ農閑期ニ炭俵製作ノ上自給自足セシメントス

(ニ) 炭竈ヨリ生ズル木灰ノ利用

當署管内炭竈ヨリ生産スル木灰ハ一一、〇〇〇貫(白竈ハ七竈ヨリ一貫目、黒竈ハ一竈ヨリ一貫目生産ス)ニ上リ之ヲ利用スル事少ナク唯現地ニ放棄スル狀況ナリ依テ之レヲ採取貯藏セシメ農業用果樹園用其他肥料ニ用フル時ハ肥料代ヲ節約セシメ農家經濟上ニ與フル利益大ナリト認メ木灰ノ採取ヲ獎勵セントス
(今花輪町ニ於ケル木灰一〇貫目ノ代價九拾八錢ナリ)

参考表 竹細工製産額調

町村	種類	一人一日 製作功程	単金	數量	價格	賣先	備考	竹細工人員
草木部落	ザ	二枚	0.150	100枚	1.50円			
	手籠	四	0.120	300個	3.60円			
	椀籠	四	0.120	300個	3.60円			
	鳥籠	一	0.200	50	10.00円			
	干籠	一	0.120	100	12.00円			
	粗通籠	一	0.550	100	55.00円			
	通籠	二	0.350	100	70.00円			
	鑛山用 ムシロザ 籠	一	1.000	100	100.00円			
	鑛山用 籠	五	0.150	300	45.00円			
	計				2,350	246		
柴平	ザ	二枚	0.250	400枚	100円			
	手籠	三	0.200	100	20.00円			
	椀籠	三	0.180	50	9.00円			
	鳥籠	一	0.700	10	7.00円			
	干籠	五	0.180	30	5.40円			
	計			590	141			
	九内、小坂、拂下地竹代	100						
	七尾去澤、大東	250						
	五湯等方面							
	計				590			
拂下地竹代								
上								
二二二束								
五、五〇								
計				2,940	887			25人

合計	2,940	887	3,321束	8,000	30
----	-------	-----	--------	-------	----

参考 揚枝製造調

- 一、材料 くろもじ(村有林ヨリ採取)
 一、種類 茶の湯揚枝(長五寸巾二分半面上部皮付) 五〇本入
 ①同 (長三寸五分) 同 五〇本入
 ②小揚枝(長二寸五分) 一〇〇本入

種類	一日功程	卸単價	一日收入	摘	要
茶の湯揚枝五寸モノ	五把	0.080	0.400	何レモ包装紙ハ卸先ヨリ供給	
同 三寸五分モノ	七	0.050	0.350		
小揚枝	七	0.030	0.210	茶の湯揚枝ノ不合格品ヲ以テ製作ス	

摘要
 一ヶ月收入 夏 一二圓 冬 一〇圓
 卸先 盛岡市
 一、資材及採取費(資材ハ村有林ヨリ採取スルヲ以テ資材代不用)
 一、採取費(一人一日功程一人一日賃金見積〇・四〇〇)

種類	材料採取	一個ノ採取賃	摘	要
茶の湯楊枝五寸モノ	一五〇箇	〇・〇〇二六		
同 三寸五分モノ	二〇〇	〇・〇〇二〇		
小 楊 枝	四〇〇	〇・〇〇〇〇		

一、設備費 製作所ハ家屋ノ一室ヲ利用スルヲ以テ製作所ノ設備不要
製作ニ要スル器具

種類	摘	要	數	量	金	額
小 刀	刃渡一寸五分(一丁・四〇〇)。大割一、製作一、仕上一		三丁		一・二〇〇	
鋸	同 七寸 製作筒切用		一		〇・九〇〇	
鉋	同 八寸 採取用		一		〇・五〇〇	

四、其他參考事項

一、營林署員ト部落民ト連繫協調意志ノ疎通善導ヲ計ルコト

營林署員ハ常ニ山村地方ニ職ヲ奉ジ地元民ト起居ヲ共ニシテ國有林野勞働其ノ他國有林官行造林地ノ管理經營上地元民ニ

絶ヘズ接觸シ居リ關係地方ノ實情ニモ精通スルモ經濟更生ノ事タルヤ部落民全體ノ熱意ト努力ト自覺ヲ常ニ宜揚シテ且ツ之ヲ持續セシムルコトガ最モ肝要ナリ依テ之レガ指導助成ニ當リテハ地元町村經濟ノ全般ニ就テ其ノ實體ニ即シ益々研究練磨スル要アルト共ニ常ニ町村當局其ノ他ト連繫シ部落ノ各種集會ノ際ハ極力出席講演ヲナシ或ハ製炭夫其ノ他林業勞働者等ト座談會又ハ講習會ヲ催シ之レガ善導並自覺ニ努メ且ツ互ニ認識ヲ高メ可及的智識ノ吸收ヲ爲スコトニ依リ國有林官行造林管理經營上ハ勿論農山村指導ノ萬全ヲ期セントス

二、栗ノ接木獎勵

現在山野ニ自生スル栗ハ其ノ數甚ダ多キモ其ノ品種ハ在來ノモノニシテ樹實モ餘リ優良ナラザルヲ以テ是レガ優良ナル品種ノ接木ヲ行ヒ樹實ノ改良向上ヲ圖ラントス

三、スギ挿木ノ獎勵

スギ挿木苗木ノ養成採苗ノ程度ハ試驗時期ヲ過ギ既ニ本業的トナリ普通播種或ハ床替苗木ニ對シ其ノ採苗率、品質共ニ劣ラザル程度ニ進歩シタリ殊ニ優良品種保全ノ意味ヨリスレバ他ノ播種養成苗木ノ遠ク及バザルモノアリ
而シテ一般農村ノスギ苗木ノ要求度ハ各自林野所有ノ面積ノ大小ニ依リ自ラ異ナルベキモ大小面積ノ林野所有者ハ極ク稀ニシテ大低ハ一反歩二反歩乃至五反歩前後ノモノ多シスル小面積ノ所有者ニシテ偶々其ノ林野ノ小空地ニ植栽スル苗木ハ五〇―一〇〇本前後ノモノ多シ之レガ苗木ヲ求ムル不便不利ノ場合多キヲ以テ一般農村ニスギ挿木ノ技術ヲ習得セシメ挿木用臺木ハ各自ノ内庭等ニ養成シ常時ハ生垣トシテ適當ナル刈込ヲナシ臺木ノ性質ヲ失ハシメザラシメ必要ニ應ジ之レヨリ挿穂ヲ採取養成シ自給自足ノ實ヲ擧ゲ一方幾分ニテモ餘剩勞力ノ輕減ヲ計ラントス

毛馬内營林署
署長前田耕三

毛馬内營林署

署長 前田 耕三

當署管内ハ二八、一八二、三〇ノ國有林ヲ管轄シ地元町村ハ大湯町小坂町七瀧村ノ三ヶ町村ニシテ關係部落ハ五十八ヶ部落トス、今之レガ所在勞力ヲ見ルニ四、〇九三、八四〇人ニシテ内所要勞力ハ三、七〇六、九二五人差引キ三八六、九一五人ノ過剩勞力トナル、即チ一年中日々一、〇六〇人ノ過剩勞力ヲ有スルコト、ナリ、之レガ消化ハ地元町村ノ經濟更生重大ナル問題タリ。

季節別ニ吟味センカ春季(四月ヨリ六月)ハ所在勞力一、〇二〇、六五六人ニ對シ所要勞力一、〇三九、二五〇人差引キ一八、五九四人ノ不足トナルモ稲作、畑作等ノ最モ繁忙季故殊ニ挿秧季ノ如キハ隣接町村ヨリ應援ヲ求ムル如キ一般ノ現象トス、夏季(七月ヨリ九月)ハ所在勞力一、〇三一、八七二人ニ對シ所要勞力九一五、七一六人差引キ一六、一五六人ノ過剩勞力又秋季(十月ヨリ十二月)ハ一、〇三一、八七二人ニ對シ九二六、〇二五人差引キ一〇五、八四七人ノ過剩力アリトス、更ニ之レヲ總括スレバ不足勞力ハ僅カニ春季ノ一八、五九四人ニシテ夏季ヨリ冬季ニ至ル一年ノ大半ハ勞力過剩ニシテ四〇五、五〇九人ヲ算スルモノナリ、而カモ前述一ヶ年ノ所要勞力三、七〇六、九二五人中ニハ直接國有林並ニ公有林官行造林事業ニ於テ消化スルモノハ各季ヲ通ジ三〇、一六七人ニシテ又國有林ヨリ資材拂下ニヨリ製炭其他ニ從事スル勞力ハ五四、一五六人ニシテ合計八四、四二四人ハ當署關係消化勞力ナリ、即チ稲作、畑作、鑛業、果樹、家事等一切ノ全所要勞力ノ約二%トス(當署管内ハ鑛業地帶故九一四、六六七人ノ鑛業所要勞力ヲ含ムモノトス)當署昭和十年度各種事業ニ就キ見ルニ直接雇傭消化勞力ハ一九、三三二人ニシテ前記夫ノ三〇、二六八人ニ對シ差引キ一〇、九三六人ノ過剩増トナリ、資材拂下ニヨリ製炭其他ニ從事スル勞力ハ五二、四五三人ニシテ前記夫ノ五四、一五六人ニ對シ一、七〇三人ノ之レ又勞力過剩増トナリ、兩者計一二、六三九人ノ過剩トナリ、冒頭記述セル三八六、九一五人トノ合計三九九、五五四人トナリ、之レガ過剩勞力消化ノ問題ナリトス。

然ルニ前年度匡救事業實行ニヨル消化勞力ハ九、一〇九人ニ對シ本年度ハ僅カニ四、九八四人(土木)ヲ消化シ得ルノミニシテ又經常費ニ就キ見ルトキハ造林費ノ如キ更新補植撫育等ニ於テ四、四二六圓、土木事業ニ於テ五九三圓ノ人夫賃ノ減ニシテ六、二七四人ノ勞力消化減トナリ、本年度事業ノ範圍内ニ於テハ唯々勞力過剩ヲ來スノミナリ、幸ヒ本年ハ鐵道省バス道路改修ノタメ五、六、七月ノ各月ニ亘リ地元部落ヨリノ出役見込勞力三一、三〇〇人(主トシテ大湯町村匡救事業

ニヨリ一、七五一人ノ計三三、〇五一人ノ勞力消化ヲ見ル見込ナルモ尙且ツ三五三、八六四人ノ過剩勞力ヲ生ズ、右消化ニ對シ以下意見ヲ開陳ス。

一、國有林各種事業上考慮スベキ事項

(イ) 製炭資材追加拂下ノコト

過剩勞力ノ最モ多大ナル季節ハ冬季ニシテ實ニ一八三、五〇六人ナリ、然ルニ當署ニ於テハ冬季事業ノ見ルベキモノナク之レガ勞力消化ニハ主トシテ製炭資材拂下ニヨリ幾分緩和セントスルモノナリ、昭和九年度中冷害救済ノタメ追加拂下一、三二八立方米之レニ要シタル勞力ハ二、七八八人ナリ(人頭數四四人生産木炭三九、七六〇貫)十年度ニ於テモ小坂町野口部落ニ一八林班、い小班ニ於テ一九五立方米、濁川部落ニ九林班、い小班ニ於テ二〇〇立方米、七瀧村藤原、鳥越、鶴、鏡部落ニ二九林班、い小班ニ於テ七二〇立方米、又大湯町大湯堀内、折戸部落ニ三林班、いろ小班ニ於テ七一八立方米、此計一八三三立方米ノ追加拂下ヲ豫定スルモノナリ、之レニ依リ消化サル、勞力ハ三、二九七人(人頭數四九人生産木炭五四、九九〇貫)トス、何レモ初期編入林分中ヨリ調査處分スルモノニシテ施業上支障ナキモノニ屬スルモノナリ。

(ロ) 冬季撫育事業追加實行ノコト

前項ニ記述スル如ク冬季ノ過剩勞力ノ消化ハ東北地方ニ於ケル適切ノ施設ニシテ九年度實行セル冬季撫育事業ハ其勞力ニ於テ二、九〇〇人(人頭數二二四人)ヲ消化セルモ十年度ニ於テハ撫育事業除伐ノ大部分ハ令達豫算ニ入ル、能ハザルモ場所的關係ニ於テ冬季實行シ得ル箇所ハ小坂町宇古達部澤外二國有林ニ於テ區域二〇九四三ノ内施行面積五八四〇八、此經費四四六圓、消化勞力五五八人大湯町宇古達部澤外二國有林ニ於テ區域三七六四八ノ内施行面積一四二四六八此經費一、三八四圓、消化勞力一、七三〇人、兩者合計區域五八四〇一、施行面積二〇〇四七六、此經費一、八三〇圓、消化勞力二、二八八人ナリ、昭和六年度以來冬季斫伐事業運材ニヨリ平均二、一七六人(二、六一一圓、一人平均一圓二〇錢取得)ノ勞力ヲ消化セルモ十年度ヨリ冬季運材事業ナク僅カ根曲竹ノ工場ノ局限サレタル職工ノ勞力消化ノミナレバ最モ考慮ヲ

要スル冬季過剩勞力消化ニ對シ造林費ノ増額方御考慮相煩ハシ度シ。

二、國有林野各種制度並ニ施設ニ就キ擴充刷新スベキ事項

(イ) 小坂鑛山煙害地ニ復舊造林並ニ同上崩壞地ニ山地砂防植栽施行ノコト

管内煙害地ハ激害地一、八三四四二二、中害地六、〇八四四九六、微害地二〇、二六三三三二ニアリ、内三、七五八四餘ハ未立木地域或ハ僅ニ散生地トシテ推移シ年々地味悪化シ徒ニ野火侵入ニ便スル如キモノナリ、ヤガテハ荒廢シ或ハ崩壞地滑リ等惹起スルノ憂ナシトセズ、國土保安ノ見地ヨリ見ルモ等閑ニ付スベカラザルモノトス、尙ホ小坂事業區中ノ一部ハ地元部落タル七瀧村大字上向、山根、荒谷等各部落ノ薪炭材造成ノ爲ニモ速ニ復舊造林ヲ實行シ將來ニ備フルノ要アリ、今之レガ計畫ヲ述ブレバ別表(一乃至九表)ノ詳細記述スル如シ

一、小坂鑛山煙害被害別要造林地面積調

事業區別	未立木地面積	要造林地面積				備考
		微害地	中害地	激害地	合計	
小坂	一、三三六・五六	一一〇・〇三	四七・五六	七四・八一	九〇〇・〇〇	未立木地面積一、二三八ha五六中散生地状態ヲナセルモノハ四〇〇、三二トス
大湯	二、五九・六九	一、〇一五・〇〇	五九〇・〇〇	—	一、五九五・〇〇	未立木地面積二、五一九ha六九中散生地状態ヲナセルモノハ九八四、八〇不成積造林地跡六四二、二四トス
計	三、七九八・二五	一、一四五・〇三	六七〇・五六	七四・八一	二、五五五・〇〇	

備考欄記載ノ散生地トハ笹生地中ニ利用價值少キ潤葉樹ノ幼令樹僅カニ點在セル箇所ナレバ利用價值比較的大ナル

耐煙性樹種タルニセアカシヤノ造林ヲナスヲ有利ト思料セラル、箇所トス。
 不成績造林地跡トアルハスギ、ヤチダモノ人工造林地ニシテ煙害被害其他ニヨリ全然未立木地狀ヲ呈セル箇所ナレバ
 耐煙性樹種タルニセアカシヤ造林ヲ有利トスル箇所トス。
 尙ホ未立木地總面積三、七五八陌中一二七三陌ハ小坂鑛山鑛煙被害ノ最モ甚ダシキ箇所ニシテ地表ハ全ク煙害裸地並
 ニ萱生地狀態ニシテ常風向ニ面セル煙道中ニ介在スルモノナレバ現在ノ精鍊方法ヲ變更スルニアラザレバ將來共造林
 不可能ト思料セラル、モノトス。

二、煙害地復舊造林事業區別計畫表

事業區別	樹種面積			本數	新植經費	育補經費	共通費	合計	備考
	樹種	面積	本數						
小坂	スギ	110.00 ha	110,000本	7,370円	4,400円	2,893円	14,663円		
	カシヤア	750.00	1,975,000	36,340	30,810	20,777	87,927		
小計		860.00	2,085,000	43,710	35,210	23,670	102,590		
大湯	ドウイツ	100.00	100,000	6,850	3,000	2,960	12,810		
	カシヤア	1,485.00	2,970,000	63,855	43,065	33,040	138,960		
	小計	1,585.00	3,070,000	70,705	46,065	35,000	151,770		
合計		2,445.00	5,155,000	114,415	81,275	58,670	254,360		

三、煙害地復舊造林年度別計畫表

年度別	面積	新植經費	補植手入經費	共通費	總經費	備考
昭和十一年度	259.00 ha	121,157円	8,553円	5,867円	26,577円	
同 十二年度	259.00	121,157	8,553	5,867	26,577	
同 十三年度	259.00	121,157	8,553	5,867	26,577	
同 十四年度	259.00	121,157	8,553	5,867	26,577	
同 十五年度	259.00	121,157	8,553	5,867	26,577	
同 十六年度	257.00	101,663	7,673	5,867	24,233	
同 十七年度	257.00	101,663	7,673	5,867	24,233	
同 十八年度	257.00	101,663	7,673	5,867	24,233	
同 十九年度	239.00	101,663	7,673	5,867	24,233	
同 二十年度	242.00	101,663	7,673	5,867	24,233	
計	2,445.00	1,144,157	81,275	58,670	2,543,600	

補植並手入經費ハ年度新植面積ニ對スル總經費ヲ計上セルヲ以テ便宜初年度欄ニモ記載セルモノトス

事業區別	林小班	要造林面積	現況	備考
小坂	30	七〇・三八	未立木地	
同	35	二〇・五二	同	
同	35	二六・一五	同	
同	35	二六・七九	同	
同	36	二〇・四八	同	
同	36	一一・六七	同	
同	37	一六・八一	同	
同	38	一四・七二	同	
同	39	五〇・〇七	同	
同	35	一五・二〇	散生地	
同	35	二〇・七五	同	
同	34	四〇・五六	同	
同	35	三〇・二〇	同	
同	4	六九・〇三	同	元小坂町牛馬放牧貸付地トス
同	33	二四・〇三	同	
同	33	三二・一九	同	
同	34	五三・八一	同	

六、煙害地復舊造林個所別面積ヲ掲クレハ次ノ如シ

事業區別	樹種	種別	數量	單價	金額	備考
小坂	スギ	撫育費	八人	一・〇〇	八・〇〇	但シ五回手入トス
小計			八	一・〇〇	八・〇〇	
大湯	タドウイヒツ	撫育費	六	一・〇〇	六・〇〇	但シ五回手入トス
小計			六	一・〇〇	六・〇〇	
小坂	カニシセヤア	補植費	一	九・〇〇	九・〇〇	但シ二回補植トス
同		撫育費	七	一・〇〇	七・〇〇	但シ三回手入トス
小計			七	一・〇〇	七・〇〇	
大湯	カニシセヤア	補植費	一	八・〇〇	八・〇〇	但シ一回補植トス
同		撫育費	七	一・〇〇	七・〇〇	但シ三回手入トス
小計			七	一・〇〇	七・〇〇	
小計					一五・〇〇	

(二) 補植並撫育費

七、小坂鑛山鑛煙被害ニヨル崩壊地ニ對スル
山地砂防植栽年度別計畫表

年度別	事業區別	新設	補修	經費計	備考
小計		九〇〇・〇〇		六一四・二六	未立木地 散生地
大湯	29 いを	八五・七五		二八五・七四	
同	30 にりる	一〇〇・〇〇			
同	31 を1かか2	三二・四一			
同	36 いろにへ	二二七・〇七			
同	37 いろわ1	一八六・五五			
同	38 ろろ2ろ3	九七・三九			
同	39 いろ1い3	一二〇・八三			
同	41 ろ1	一二五・〇〇			
同	29 ちぬへ	二九七・七二			
同	30 いろへとぬ	一二〇・五八			
同	31 らたむれうそ	一八一・八〇	スギヤチダモ 造林地跡未立木地		未立木地 散生地
小計		一、五八五・〇〇		一、〇一八・八六	未立木地 散生地
合計		二、四八五・〇〇		一、六二六・一四	未立木地 散生地

八、種類別年度別經費ヲ掲グレバ次ノ如シ

年度別	事業區別	新設	補修	經費計	備考
昭和十一年度	大湯	二・三六	一・一三	一、三六	但シ補修欄計上ノ面積數 量、經費ハ新設年度ニ對 スル總量ヲ便宜上計上セ ルモノトス
小計		二・七三	一、三五五	一、八九四	
同 十二年度	小坂	〇・五八	五三〇	一、一七三	
同	大湯	一・三三	六二八	七六一	
小計		一・八九	一一四八	一、九〇四	
同 十三年度	大湯	四・五九	二、一七〇	二、六六九	
合計		九・二二	四、五九	一、四八九	

採根 採取運搬共	法切人夫	藁	帶 梢	杭	編 柵 工	工事ノ種類	種別	摘 要	數量	單 價	當 金	額	備 考
大サ 30 cm ² ノ モノ				末長 口サ 一〇 cm					三本	〇・〇六		〇・〇一〇	
五板	〇三人	二把	〇・五束							〇・一〇〇		〇・〇一〇	
										〇・一〇〇		〇・〇一〇	
										〇・一〇〇		〇・〇一〇	

九、山地砂防工事經費明細表
(一) 新設工事
1. 編柵工

合 計	編柵工	積芝工	植栽工	沈床工
四、六七三 m	九二〇 m	一七、三〇〇 本	十三ヶ所	
九・二				
五、一三七	四三三	三四六	一八八	

昭和十一年度	昭和十一年度 小計	昭和十二年 同十一年度 小計	昭和十三年 同十二年 同十一年度 小計	昭和十三年 同十二年 同十一年度 小計
沈床工	九ヶ所	九ヶ所	九ヶ所	九ヶ所
積芝工	三〇 m	三〇 m	三〇 m	三〇 m
植栽	五、一七〇 本	五、一七〇 本	五、一七〇 本	五、一七〇 本
	二・七三 ha	二・七三 ha	二・七三 ha	二・七三 ha
	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇
	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇
	二〇	二〇	二〇	二〇
經費ニハ補修經費ヲ含ミ種類別工事ニ對シ面積ノ區分セザルハ一ヶ所ニ對シテモ各種類ヲ含メル爲ナリ				
玉石混コンク リート堤塘	八〇 m ³	八〇 m ³	八〇 m ³	八〇 m ³
編柵工	二、一七〇 m	二、一七〇 m	二、一七〇 m	二、一七〇 m
積芝工	五五〇 m	五五〇 m	五五〇 m	五五〇 m
沈床工	四ヶ所	四ヶ所	四ヶ所	四ヶ所
植栽	二、九五〇 本	二、九五〇 本	二、九五〇 本	二、九五〇 本
	一、八九四	一、八九四	一、八九四	一、八九四
	二六四	二六四	二六四	二六四
	一、二六二	一、二六二	一、二六二	一、二六二
	二五九	二五九	二五九	二五九
	五八	五八	五八	五八
	六一	六一	六一	六一
	一、九〇四	一、九〇四	一、九〇四	一、九〇四
	二、三六六	二、三六六	二、三六六	二、三六六
	一八四	一八四	一八四	一八四
	二、五七〇	二、五七〇	二、五七〇	二、五七〇
	四・五九	四・五九	四・五九	四・五九
	二六四	二六四	二六四	二六四

計	植栽	杭打並 人夫賃	〇・五 人	1・000	0・500		
---	----	------------	----------	-------	-------	--	--

計	ニセアカシヤ 植栽	苗木代	一人	數量	一〇〇	本當	リ	金額	備考
				單價	〇・五〇〇	圓	0・500		
	植付運搬共		一人					1・000	
								1・500	

3. 積芝工

計	積芝工	藁	法切人夫	二把	數量	二	單價	圓	0・010	金額	0・010	備考
					單價	1・000	圓	0・010				
	切芝並運搬			二枚				0・005		0・050		
								1・000		0・010		

計	張芝人夫	〇・三 人	1・000	0・300		
---	------	----------	-------	-------	--	--

4. 玉石混コンクリート堤塘

計	玉石混 コン 堤塘	セメント	玉石並砂利 採取人夫	二人	數量	一	單價	圓	0・600	金額	0・600	備考
					單價	1・000	圓	1・000				
	積上		練積人夫	一人				1・000		1・000		
								3・000		3・000		

5. 沈床工

計	沈床	鐵線	亞鉛引八番線	二ヶ	數量	二	單價	圓	0・500	金額	10・000	備考
					單價	5・000	圓	0・500				
	マホコ籠							5・000		10・000		

計	取付人夫	四人	1,000	2,000
---	------	----	-------	-------

(二) 補修工事

1. 編柵工

工事ノ種類	種別	摘要	數量		金額	備考
			一	m		
編柵工	編柵修繕費		0.1	人	1,000	0.100

2. 植栽

工事ノ種類	種別	摘要	數量		金額	備考
			一	〇〇		
ニセアカシヤ植栽	撫育費		0.5	人	1,000	0.500

而シテ復舊造林ハ從來配賦經費ノ許ス範圍内ニ於テ僅々毎年一五陌(經費五〇〇圓)ヲ實施シ來レルモノナレドモ十年度豫定案ニ於テ全ク削減サレタルモノニシテ前述造林ノ急ヲ要スル事由ヲ思フトキ甚ダ遺憾トスルモノナルニヨリ上司ニ於テモ格別ノ御詮議相成度キモノナリ。

(ロ) 兔尻澤林道開設ノコト

小坂町野口細越兩部落八二戸ハ大部分小作農ニシテ農耕地ハ小坂嶺山嶺煙被害ノ爲メ收穫量半減(兩部落ニテ耕地一〇三町步半年作收穫量一、七五四石、反當リ一石七斗)九年度冷害ハ四割減ヲ見タリ當時ハ國有林各種事業ニ出役シ逼迫セル生活ヲ緩和スルモ十年度ニ於テハ各種事業ニ於テ稍々半減シ(前年度一、九五六人ノ勞力消化ガ十年度ニ於テ一、〇二六人)而モ小坂町ニ於ケル他部落ノ如ク鑛業ニヨリ勞力消化ノ度薄ク年過剩勞力二九、九三〇人アリ、幸ヒニ昭和七年來生活緩和ノ爲メ製炭ニ従事スルモノ増加シ來リ、之レニヨリ消化サル、勞力ハ四、四八〇人(頭數一四人)アリト雖モ未ダニ過剩勞力ニ對シテハ遙ニ少シ然ルニ前々ヨリ開設ノ急ヲ要スル兔尻澤林道ハ曩ニ九利第一、〇九三號通牒ニヨリ昭和十年度要施設林道トシテ調査報告セル如ク開設サル、ニ於テハ獨リ從來澤端山道ヲ辛ウジテ馬運行ニヨリ搬出サレタル林產物ハ有利ニ處分サル、ノミナラズ三百陌餘ノスギ造林地ノ間伐木ノ處分モ可能トナリ、又其ノ利用區域ニ到リテハ本期次期ニテ五〇五陌三六蓄積八六、三三七立方米ナレバ前述過剩勞力消化ノ爲メ且ツ又生活逼迫ノ前記部落經濟更生ニ資シ度ク尙ホ本林道ハ小坂町十年度改修豫定縣道ト連繫スルモノナレバ本夏開設經費御配賦相成度シ。

(ハ) 椎茸ノ官行栽培

管内宇大湯國有林阿久屋川上流S林班附近ハ椎茸ノ天然產地(是ハ從來天然の豐產地ト言ハレ且ツ不老倉嶺山地帯ナルガタメ特ニ發生品質共ニ良好ナリト地方民ヨリ聞知シ居レリ)アリ是即チ椎茸ノ好適地ト言フベク且ツ原料木豊富ナルノミナラズ管理上ニ於テモ左程困難ナラザル地形ニアルヲ以テ最モ集約ナル方法ニヨリ之レガ官行栽培ヲナシ地元斯業ノ範トスルハ適策ナリト認ム、依テ栽培見込ミ箇所數量並ニ收支計算ノ概要ヲ示セバ次ノ如シ。

箇	字	小	字	林	小	班	所																						
							臥込面積	地																					
大	湯	下	長	澤	8	い	内	0.00	ha	緩	澤	立	側	南	向	ナ	ラ	長	徑	1.2	m	(陌	當	3,000	本	0.10	0.110	
										樹種		平均		材		積													

收支計算
支出ノ部
内譯

種目	數量	單價	金額	備考
資材拂下代金	立方米 二二〇	〇・八〇〇	一六四	
伐木造材集材費	立方米 二二〇	一・〇〇〇	二二〇	
臥込ミ人夫賃	立方米 二二〇		三五	一人一日臥込數量六立方米(三〇〇本)賃金一、〇〇〇(山泊)二一〇立方米分總人數三五人、金額三五圓
種付人夫賃	七、〇〇〇本		三五	一人一日二〇〇本賃金一、〇〇〇
種草代			一〇	槽汁製造用
種付用器具代	二ヶ	五・〇〇〇	一〇	注射器
番小屋(乾燥室共)建設費	延人員 二四〇	一五・〇〇〇	一八〇	小屋ノ半分ハ土造乾燥室トス
番人給		一・〇〇〇	一、六八〇	番人二名各年四ヶ月分發生期間七ヶ年總額トス
有刺鐵線	三、六〇〇m	〇・〇三〇	一〇八	柵圍用上、中、下三條張分

收入ノ部
内譯

年次	生草生産量	乾燥量	單價	見込額	備考
五年目	七、八七五	一、一八一	三・九〇〇	四、六〇六	
四年目	七、八七五	一、一八一	三・九〇〇	四、六〇六	
三年目	二、六二五	三九四	三・九〇〇	一、五三六	乾燥一ノ夕一五圓割合
計	一五、〇〇〇kg	〇・〇三〇	三・九〇〇	二、八二六	
柵圍人夫賃	二五人	一・〇〇〇	二五		
推草包裝用	一〇〇ヶ	〇・三〇〇	三〇		石油罐大蓋付
包裝用繩葎代			七		
運搬費			一三		馬車五臺、單金二、五〇〇
乾燥用木炭代			三五		一ヶ年一、五〇〇kgトス七ヶ年分

計	十年目	九年目	八年目	七年目	六年目
三九、二四五	一、五七五	二、三六八	三、九三八	五、九〇六	七、〇八八
五、八九一	二二六	三五六	五九三	八八五	一、〇六五
	三、九〇〇	三、九〇〇	三、九〇〇	三、九〇〇	三、九〇〇
	九二〇	一、三六八	二、二六三	三、四五一	四、一五四

三、地元市町村經濟組織ニ適合シ指導助長スベキ農山村工業及副業ニ關スル事項

(イ) 根曲竹地下莖及小根利用パイプ製造

當署管内國有林ニハ根曲竹ノ叢生夥シク之レガ利用ハ無盡藏ト云フモ過言ナラザル状態ニ付前年度全國ニ先驅シテ洋杖製作官行研伐事業創始シテ茲ニ營利の生産事業ノ先鞭ヲ爲セル所之レガ事業實行ニ鑑ミ根曲竹地下莖及小根ヲ利用シテ製造セル兩切用卷煙草パイプハ頗ル雅致ニ富ミ且ツ堅牢ノモノナレバ相當顧客ニ勸迎セラル、状態ニ付從ツテ販路ノ開拓ニ容易ナルノ外之レガ製造ハ極メテ小資本且ツ容易ニ製造可能ニ付山村老幼男女ノ好適ノ副業ト思惟セラル、モノニシテ殊ニ當署官研事業洋杖製作用資竹採掘ノ際所用竹以外モ採掘セラレ之等ハ林地ニ放棄セララル、環境ナレバ之レヲ無償賣拂ヲ爲

シパイプ製造ヲ爲サシムルハ山村經濟更生上裨益スル所大ナル可キヲ以テ之レガ副業ヲ獎勵シ以テ指導助長セントスルモノナリ、今收支ヲ示セバ次ノ如シ

但シ一ヶ年生産一〇、〇〇〇個ノ收支計算トス
 收入總額 一、〇〇〇圓〇〇〇
 支出總額 六六六圓四五〇
 差引益 三三三圓五五〇

但シ一個卸値拾錢ノ割トス

支出内譯

種類	數量	單價	金額	摘要
ボトル盤	二臺	10,000	20,000	穿孔用
砥石	五個	700	3,500	切口磨用
平鑪	五丁	800	4,000	叢根切口磨用
紙鑪	二打	1,800	3,500	一打ニ付四〇〇本磨
工業石鹼	二五罐	2,500	6,250	一罐ニ付四〇〇本洗滌
ラックニス	二〇本	6,500	13,000	一本ニ付五〇〇本塗
タワシ	五ヶ	300	1,500	一ヶニ付二〇〇本洗滌

採掘費	10,000 ^本	010	100,000	一人一日平均一〇〇—一三〇個採掘運搬ス
製作一切	10,000	050	500,000	一人一日賃金五拾錢功程一〇個
鋸	三丁	1,000	3,000	
剪定鋏	二丁	850	1,700	
其他消耗品代			10,000	
計			666,450	

(四) 其ノ他參考事項

イ、河嶋澤流域農耕適地開放ニ關スル件

宇河島國有林河嶋澤流域澤布平坦地ハ堀内部落民有地ヨリ河嶋放牧地(民有)ニ涉リ點々七個所ノ介在民地アリ。境界モ煩雜ニシテコノ介在民地間ハ中央ニ河嶋澤流レ兩岸平坦地多ク23ほよ杉造林地ニ屬シ居ルモ現狀ハ芝生地或ハ過濕地多ク造林木ハ散生狀ヲ呈シ其成績概シテ良好ナラズ。故ニ地元民ノ人口増加ニ伴ヒ益々農耕地ノ不足ヲ來シツ、アル折柄之レヲ田畑布トシテ地元部落民ニ開放スルヲ適當ト認メラレ部落民モ之レガ開放ヲ要望シツ、アリ。一方介在民地間ヲ將來連結スルニ至ラバ境界線整備上ヨリ見ルモ好都合トス。現在コノ介在民地ハ主トシテ田ニ耕作シツ、アリ其ノ成績良好ナリ蓋シ立地關係ニ惠マル、ト共ニ灌溉用水ハ上流ノ放牧地ヨリ來ルヲ以テ水溫比較的上昇シ居ル爲メナラン。

今耕作可能面積ヲ掲記スレバ左表ノ如シ。

字	小字	林小班	作業種	種類	植栽年度	用途	面積(見込)	備考
河島	河島澤	23	ほ	皆	明治四四	畑田	ヘクタール 一・〇〇	
			皆	皆	大正二	畑田	三・〇〇	
			皆	皆		畑田	二・〇〇	
			皆	皆		畑田	二・〇〇	
			皆	皆		畑田	三・〇〇	
計						畑田	五・〇〇	

ロ、既往ウルシ造林地ニシテ不成績地ヲ開墾適地トナスノ件

既往ウルシ造林地ノ成績ヲ見ルニ概ネ不良ニシテ將來ノ成林ヲ期シ得ベキモノ少シ、而シテカ、ル個所ハ一般ニ部落ニ近ク農耕地トシテ好適シ山村民ノ人口増加ト共ニ耕地不足ヲ訴フル際之等山村貧民ニ農耕地トシテ開放スルハ地元部落振興策トシテ時宜ヲ得タルモノト信ズ、今農耕適地ヲ掲グレバ左表ノ如シ。

大湯川	小字	林小班	種類	植栽年度	面積	用途	備考
21	ち	ウ	昭和三	ヘクタール 〇・九五	田	布	

とち、みづなら等ノ樹實ハ國有林内ニ多大ニ生産シ當地方ニ於テハみづならヲ一部利用スルニ止マリ大部分ハ其ノ儘林野ニ放棄シツ、アルノ現状ナルガ之レガ食料ニ供シ得ルニ於テハ凶作ニ喘グ山村民ヲ救済シ得ルコト多大ナルベシ故ニ斯道ニ熟達スル講師ヲ招聘町村當局ト連絡一般地元民ニ受講セシムルハ適切有効ト信ズ。
而シテ講師ノ招聘ニ就テハ山野ノ遺利開發ニシテ山村民ノ福利増進ナルニ付町村費ヲ以テ支辨スルヲ至當ト認ム今當管内ノ蓄積ヲ掲グレバ左表ノ如シ。

樹種	大湯事業區	小坂事業區	計	備考
とち	七四、七九六 kg	一、三四三 kg	七六、一三九 kg	
みづなら	六一、六三〇	四九、九九二	一一一、六二二	
こなら	六四八	—	六四八	
ぶな	一一〇、三一〇	五七、七二〇	一六七、〇三〇	

扇田營林署

署長 丸野友多郎

緒言

先般實行致シマシタ經濟調査ノ結果ニヨリマスレバ扇田營林署管内國有林關係町村ノ餘剩勞力ハ一ヶ年ヲ通ジ總計五九七、四四四人ト云フ莫大ノ數字ガ出テ居ルノデアリマシテ春夏秋冬各時季共ニ相當ノ餘剩勞力ガアル事ニナツテ居リマスガ其ノ後算出ノ因子ニ就テ仔細ニ再檢討シタ結果ニヨリマスレバ曩ノ調査ハ吾々トシテ餘り初メテノ試ミデアリ又非常ニ調査ヲ急イダ爲ト、其ノ當該町村ト云フ事ニ重キヲ置イタ爲ニ調査上多少ノ缺陷ガアツタ事ヲ發見シタノデアリマシテ三割一四割割引シテ考ヘテ見ル必要ガアリマス。

其ノ結果五、六、九、十月ノ各月ハ各町村共ニ勞働力ニ不足ヲ告ゲル事ニナルノデアリマス。

之レガ補充ハ各町村共勞働時間ノ極端ノ延長ニ十五歳未満ノ子供ノ勞働ニヨツテ補充シテ居ル様デアリマス。

然シ何レニシテモ春四月ト夏七、八ノ兩月秋ノ十一月中旬カラ冬ニカケテハ相當ノ餘剩勞力ガ存在スルト云フ事ハ明ラカデアリマシテ間違イガ無イ様デアリマス。

次ギニ御諮問ノ各項ヲ追フテ御答申申シ上ゲ度イト思イマス。

一、國有林野ノ各種事業實行上考慮スベキ事項

本年度事業計畫ノ範圍内ニ於テト云フ條件ガ付イテ居リマスノデ次ギニ申シ上グル事ハ凡テ既ニ考慮濟デアリ又計畫濟デアリ從ツテ一部ハ實行ニ移ツテ居ルモノデアリマス。

要スルニ餘剩勞力ノアル方面ニアル時期ニ可成多クノ事業ヲナシ又仕事ヲ與ヘテヤルト云フ事ニ外ナランノデアリマスガ然シ實行方法ノ變更ニヨツテ餘剩勞力ノ消化ヲ増進シ得ルモノニ地拵事業ノ請負化ガアリマス。直營カラ請負ニ變更スル事ハ如何ニモ昔ニ歸スル様ナ氣ガ致シマシテ合理的デ無イ様ナ感ガ致シマスガ大葛事業區ニ於ケルC A 皆伐箇所ノ地拵ハ請負ニシテモ何等差支ヘ無イノデアリマス。現ニ前年長部國有林デ炭燒連中ニ期間ヲ長クシテ請負ハシメタ事ガアリマスガ其ノ結果ハ良好デアリマシテ期間ヲ長クシタ爲ニ彼等ノ餘剩勞力ヲ巧ニ利用スル事ガ出來テ上乘ノ成績ヲ納メル事ガ出來マシタ本年モ之等ノ箇所ニ對シテハ請負デ實行シタ方ガ良イト思ツテ居リマス。

A 造林事業

本年度ハ經費モ澤山ニ無ク撫育事業モ手入レ事業ガ主デアリマスノデ時期カラ申シマスレバ防火線ノ修繕ヲ考慮シタ程度デアリマス。

四月中ニ實行ス可ク計畫シタ撫育事業モ凡テ豫算ノ削減ヲ受ケマシタノデ今ノ所身動キモ出來ナイ様ナ状態ニアリマス

B 土木事業

勞力消化ニ最モ有効デアル所ノ歩道ノ新設及ビ修繕ガ不認可トナリマシタノデ誠ニ遺憾デアリマスガ幸ニ十二所町トノ併用村道デアル猿間ノ車道ガ災害其ノ他施設費トシテ御認可ニナリマシタノデ附近町民ノ喜ビハ譬ヘ様ガ無イ程デアリマシテ今更國有林ノ恩惠ノ大ナルニ感謝シテ居ル様デアリマス。
四、五月ノ農閑期ハ既ニ過ギマシタノデ七月中旬田植ガ終了スル迄ニ巾杭ヲ打ツタリ丁張りヲ張ツタリ致シマシテ準備ヲ整ヘ七、八月ノ二箇月間ニ實行シテ彼等ノ餘剩勞力消化ニ努メル計畫デアリマス。

C 斫伐事業

(イ) 夏山ト冬山ノ關係

デアリマスガ現在ノ計畫デハ

夏山 材積 一六、〇七立方米 外ニ葉枯四、六七五立方米

一、七八一丸

經費 五三、八八九圓

延人數 四九、四一人

冬山 材積 八、七五五立方米

經費 一七、四三一圓

延人數 一六、三四一人

計

七一、三二〇圓(共通費ヲ除ク)

延人員 六五、六五三人

ト云フ事ニナツテ居リマスガ冬山ニ比シテ夏山ガ多過ギル感ガアリマス。

斯クナツタノハ收入充實ニ全力ヲ注イダ時ノ餘波ガ今ニアルノデアルト思ツテ居リマスガ現在デハ製板資材ノ配給ノ都合モアリマスノデ直チニオイソレト變更スル理ニモ行キマセンガ出來得レバ半々位ニスル事ヲ得レバ勞力ノ案配上好都合デアルト思フテ居リマス。

本年度ハ事情ガ許スナラバ夏山ヨリ冬山ヘ棚戻ノ材積八五九立方米經費一、八二七圓延人員一、六六二人ヲ移ス事ガ出來レバ良イト考慮中デアリマス。

(ロ) 年度初メ農閑期利用

例年ナラバ四月下旬―五月上旬ノ候完全ニ雪ガ解ケテカラ初メテ居ツタノデアリマスガ四月ハ三月カラ引キ續イテ農閑期デアツテ又昨年ノ凶作ノ痛手ヲ癒ヤス上カラシテモ又秋樺太方面ニ早く出稼ギセシムル便ヨリシテモ可成早く着手スルノ要ガアルト認メマシタノデ四月ニ入ルヲ待ツテ軌道ハ雪ヲ割ツテ運材ニ着手シ伐木材ハ積雪ヲ冒シテ着手シタノデアリマスガ肝心ノ支拂豫算ガ遅レマシタ爲ニ豫期ノ効果ハ納メル事ガ出來マセンシタガ秋樺太方面ニ出稼ギスルモノハ効果ガアツタト思フテ居リマス。

(ハ) 次ギハ處分ニ就テデアリマスガ

間伐材ト特種ノモノヲ除ク外凡テ地元部落ニ處分スル事ニシテ居リマス。
先般青森ノ方カラ稻掛用材ノ注文ガアツタ由デ私ノ方ニモ御照會ヲ貰イマシタ次第デスカ私ノ部内デモ各農家ハ此ノ稻掛用材ニ困ツテ居リマスシ間伐材ノ内ノ幾分ハ小丸太トシテ市場ニ賣リ出ス事モ出來テ冬期ノ餘剩勞力消化ニハ格好ノモノデアリマスカラ從來通り今後モ之等ノモノハ凡テ地元部落ニ特賣スル計畫デアリマス。

(ニ) 造林地支障木ヲ製炭資材トシテ考慮スル事

勿論造林地支障木ト云フモノハ原則トシテハ官行デ伐倒ノ上處分スル必要ガアリマスガ場所ニヨツテハ冬期デアラナラバ立木處分トシ製炭サセテモ差支ヘ無イ箇所モ見受ケラレマスノデ之等ノ箇所ニ對シテハ冬期製炭資材トシテ地元民ニ特賣シ炭材ノ不足ヲ緩和ノ上餘剩勞力消化ニ努メル必要ガアルト思イマス。

二、國有林野各種制度並施設ニ付キ擴充刷新スベキ事項

本項ニ就キマシテハ本年度事業計畫ノ範圍内ニ於テト云フ制限ガ付キマスト別ニ何等申シ上グ可キ材料ヲ有シマセンノデアリマスガ多少右制限ヲ越スカモ知レマセンガ常ニ考ヘテ居ル一、二ノ事項ヲ御答申申シ上ゲテ見タイト思イマス。

A 町村ヲ指導スル實際ノ力換言スレバ町村ノ監督權ヲ營林署長ニモ與フル事

現在ニ於キマシテハ彼等ニ薪炭材ヲ供給シ又ハ人夫トシテ使役シテ生活ノ資料ヲ得セシムト云フニ止マリ即チ經濟關係ニ於テハ可成リ強ク結ベレ付ケラレテ居ルノデアリマスガ何等行政的ニ結ビ付ケラレテ居ラナイノデアリマス。故ニ徹底シテ指導助長ト云フ事ニナリマスト仲々困難ノ状態アルノデアリマス。

即チ甘ク行ク事モアルガ甘ク行カナイ事モアルガ行カナイカラト云フテ之ヲ強制スル事ガ出來ナイ。

凡テノ改善事業ト云フモノハ當初ニ當ツテハ多少ノ無理ガ行ク事ハ止ムヲ得ナイ事デアリマシテ從ツテ多少ノ無理ハ押シ通スダケ力ガ存在シナケレバ成功覺束ナイト思フノデアリマス。

私ハ出張シテ國有林ニ行ク途中公有林ヲ見ル度毎ニ將來永遠ノ更生計畫ヲ樹立スルニハ此ノ公有林ノ整理ニ手ヲ付ケ無クテハナラナイ。

私ノ整理ト云フノハ机上ノ整理統一デ無ク現在ニ於テハ只實際録ノ止メダケデ空シイノデアリマス。

管理區分ノ上デ單ニ録止メヲ完全ニ實行スルダケ山村ノ更生計畫ニ役立ツ事莫大ナルモノアルヲ考フル時山村ニハ未ダ彈力ガアル見捨テタモノデハ無イ。自暴自棄スベキデハナイトツクヅク思フノデアリマスガ只思フダケデ夫レ以上ノ事ヲ爲ス可キ何等ノ職權ガ無イ事ヲ常ニ遺憾ニ思フテ居ルモノデアリマス。

營林署ニ奉職シテ居ル人程其ノ町村ノ山ニ親シク接シテ居ルモノハ恐ラク無イデアリマセウ當該町村當局ノ人ヨリモ精通シテ居ルト思イマス。吾々ニ之ヲ整理スル職權ガアツタナラバ前述ノ經濟關係ヲ緯トシ行政的ノ關係ヲ經トシテ前途ニ光明ヲ得ル事ハ必ラスシモ至難ノ業デハ無カロウト愚考スル次第デアリマス。

B 營林署ニモ専門ノ職員ヲ配置スル事

其ノ事業ガ國ヲ主體トシテ居ルモノデアアル以上其ノ地方ノ福利民福ニモ最大ナル効果ヲ齎ラス如ク施設シテ行カナケレバナラナイ事ハ言フ俟タナイノデアリマスガ、一方林業ナルモノガ一ツノ生産業デアリ經濟事業デアアル以上眞ニ最小ナル勞力ヲ以ツテ最大ナル效果ヲ得ントスル所謂經濟ノ原理カラ推ス場合一時的デハアルガ其ノ地方民ノ最大ナル利益ト相反スル場合ガ無イトモ限ラナラノデアリマス。

私ハ事業ノ主任ト云フモノハ何所迄モ經濟的ニ安價ニ最モ有利ニ生産スル事ヲ研究シ進ンデ行カナケレバナラナイモノデアルト思フノデアリマス。

故ニ或ル一ツノ事業ヲ計畫セントスル場合ハ先ヅ技術上最モ經濟的ノ事業案ヲ樹テ然後ニ地方民ノ利益ト云フ事ヲ考ヘテ見テ適宜前述ノ事業計畫ニ網ミ込ンデ理想案ヲ作ルノガ適切デアルト思フノデアリマス。

斯クノ如ク地方民ノ利益ヲ適當ニ織込ンデ行クト云フ事ハ事業會社ナラザル國ノ事業トシテ當然ノ事デアリマスケレドモ一方何處迄モ經濟觀念モ明ニシテ置キ研究怠リ無キ事ハ事業官廳トシテノ又重大ナル使命ノ一ツデアリマス。

此ノ邊ヲ案配決定シテ行ク事ハ一ツニ署長ノ仕事デアツテ署長ニ於テ誤リ無ケレバ宜シイトモ考ヘラレマスガ理想カラ申シマスレバ別ニ専門ノ職員ヲ置キ別ニ經濟ヲ度外視シタ地方民ノ利益一方ノ事ヲ研究セシメ兩者ヲ合セテ署長ニ於テ理想案ヲ練ルト云フ事ニシタラ一層合理的ニ行クト思フノデアリマス。

例ヘバ冬山ノ運材ニ於テ技術上當然馬橋可能ノ箇所ガアツタトスレバ之ヲ手橋ニ變更スル事ハ經濟上仲々至難ノ事デアリマスガ一方地方ノ事情ヲ調査センニ其ノ地方ニハ相當ノ餘剩勞力ガアツタトスレバ之レヲ手橋デ出ス事ヲ考ヘ付イテ此ノ場合兩者ノ研究ノ結果ヲ持テ寄ツテ同ジ馬橋トスルモ能率ハ多少劣ルケレドモ地方ノ百姓等モ加ヘテ使フトカ上部ノ比較的勾配ノアル箇所ハ手橋ニ變更シ此ノ場合ハ賃金ハ普通ノ手橋ノ賃金ヨリモ安價トナルカモ知レンガ當然馬橋デ

實行可能ノ箇所ヲ地方民餘剩勞力消化ノ爲ニ變更スルノデアアルカラ多少ノ賃金ノ低下ハ忍ンデ貫ハナケレバナライナイト
カノ如ク理想案ガ生レル事ニナリマセウ。
此ノ邊ヲ各事業毎ニ明ニシテ實行シテ行カナケレバ署長ガ部下ヲ監督スル上ニ於テモ支障ガアリ又吾々技術者トシテノ
生命デアリ最モ重大視シテ行カナクテハナライ所ノ責任觀念ト云フモノガ知ラズ知ラズノ間ニ薄ライデ行ク事ガアリ
ハセンカト心配スルモノデアリマス。

C 森林鐵道便乗者ノコト

餘剩勞力ト森林鐵道便乗者何カ此ノ兩者間ニハ關係ガアリソウデアリマス。
別ニ統計ヲトツタ譯デモアリマセンノデ確タル事ハ申シ上ゲラレマセンガ農閑期ニ多ク農繁期ニ少ナイト云フノハ事實
ノ様デアリマス。

幸ニシテ冬期間運轉ヲ中止シテ居リマスノデ其ノ心配モアリマセンガ若シ冬期間ニ運轉スルモノトスレバ材木ノ重量ヨ
リ便乗者ノ方ガ多イト云フ様ナ奇觀ヲ呈スルノデハ無イカト想像サレルモノデアリマス。

現在デモ各列車毎ニ餘リ押スナノ盛況デアリマシテ大都市ニ於ケルラツシユアワニ於ケル郊外電車ヲ思イ起ス様
デアリマス。

之レハ全ク賃金ガ無料デアルノニ起因スルノデアリマシテ用事ガ無クトモプラツト出テ來ル、出テ來レバ一日ツブシタ
上ニ豫算外ノ金銭ヲ徒費スルト云フ事ニナルノデアリマス。

夫レデ此ノ冬ニ大葛村ノ經濟更生ノ座談會ガアリマシタ時ニ私カラ此ノ問題ヲ出シマシテ此ノ便乗者ヲ少ナクスル方法
如何ト云フ事ヲ申シタノデアリマスガ村ノ智者ノ内ニハ私ノ想像通り森林鐵道ガ餘リ便利過ギテ大シタ用事モ無イノニ

町ヘ出テ行クモノガ漸次多クナルト云フ傾向ノアル事ヲ心配シテ居ル様デアリマス。

之レヲ改ムルニハ營林署デ直接料金ヲ徵收スルト云フ理ニモ行キマスマイガ何等カ相互ノ申シ合セ等ノ方法ヲ以ツテ料
金ヲ徵收シ此ノ金ハ今回各所ニ出來ル共同作業場デ使フ器具機械ヲ購入スルトカ其ノ他公共的ノ施設ニ使フト云フ事ニ
シタラ良イト思イマス。

私ハ色々ノ方面カラ考ヘマシテ是非必要ナ事デアルト思フノデアリマシテ放置シテ置ケバ村ノ衣服等モ漸次華美ニ流レ
勞働ヲ厭フ傾向ニ進ンデ行キハセンカト心配スルモノデアリマス。

如何ナル方法ヲ以テセバ合法的デ法律ニ抵触セナイカト云フ事ヲ御指示ヲ願ヘレバ幸甚ノ到リト存ジマス。

三、地元市町村經濟組織ニ適合シ指導助長スベキ農山村工業副業ニ關スル事項

本問題ハ國有林ニ關係アルモノニ限ルモノト解シテ居リマスガ國有林ニ關係スルモノデハ私ノ部内デハ適當ノモノハ誠ニ
少ナイノデアリマシテ、現在實行中ノモノハ十二所町ノ椎茸、東館村ノ地竹細工位ノモノデアリマシテ竹細工ノ方ハ只今
ノ處従業員二十名年産額二〇〇圓位ノモノデ之レ以上ニ材料ヲ供給スル事ガ出來マセンノデ發展性ガアリマセン。

十二所町ノ椎茸栽培組合ノ方ハ昭和六年ニ設立シタモノデ今迄二年ニ亘ツテ資材五〇立方米餘ヲ拂下ゲテ指導ニ努メテ
居ルノデアリマスガ一、二ノ者ヲ除ク外熱心ガ足ラズ一般トシハ成績不良デアリマシテ本年漸ク一、〇〇〇町程ノ生椎茸
ヲ大館方面ニ移出シタニ過ギマセン。

今マデハ一、二ノ人ノ個人經營ノ様ナモノニナツ居リマスガ之レヲ合理的ニ經營スル様ニ指導シテ模範ヲ示シ順次一般ニ
及ボスト云フ事ニスルノ外詮方無イ事ト思フテ居リマス。

次ギニ赴任以來常ニ考ヘテ居ル事ハ山葵ノ栽培デアリマスガ私ノ管内ハ各所ニ鑛山ガアツテ水質ガ良好デ無イノデ如何カ
トモ思フテ居リマスガ之レガ栽培ニ成功スレバ國有林ヲ對照トスル山村ノ副業トシテ格好ノモノデアリマス。

然シ只今ノ處管内ノ地方民ハ山葵栽培ニ就テハ餘リノ無智デアリマスノデ之レヲ獎勵スルトセバ國有林デ先ヅ試験ヲシテ
見ナケレバナライナイト思イマス。

造林費デデモ試験ガ出來ルモノトセバ實行シテ見タイ希望ヲ有シテ居リマス。

四、其ノ他參考事項

ナシ

大館營林署

署長 横瀬 孝

大館營林署の業務報告書
昭和二十一年
一、業務の概要
二、業務の進捗
三、業務の成績
四、業務の反省
五、業務の展望
六、業務のその他
七、業務のその他
八、業務のその他
九、業務のその他
十、業務のその他
十一、業務のその他
十二、業務のその他
十三、業務のその他
十四、業務のその他
十五、業務のその他
十六、業務のその他
十七、業務のその他
十八、業務のその他
十九、業務のその他
二十、業務のその他
二十一、業務のその他
二十二、業務のその他
二十三、業務のその他
二十四、業務のその他
二十五、業務のその他
二十六、業務のその他
二十七、業務のその他
二十八、業務のその他
二十九、業務のその他
三十、業務のその他
三十一、業務のその他
三十二、業務のその他
三十三、業務のその他
三十四、業務のその他
三十五、業務のその他
三十六、業務のその他
三十七、業務のその他
三十八、業務のその他
三十九、業務のその他
四十、業務のその他
四十一、業務のその他
四十二、業務のその他
四十三、業務のその他
四十四、業務のその他
四十五、業務のその他
四十六、業務のその他
四十七、業務のその他
四十八、業務のその他
四十九、業務のその他
五十、業務のその他

當署管内國有林所在村ハ長木村一ヶ村ニシテ其ノ人口三千四百八十人ヲ有シ農業ヲ主タル生業トスル寒村ナリ本村ニ於ケル勞働力ハ一ヶ年四十三萬一千七百九十五人ヲ有スルモ村内ノ勞働量ハ三十四萬二千三百九人ニシテ八萬九千四百八十六人ノ餘剩勞力ヲ有ス而シテ此餘剩勞力ノ季節別狀況ハ次ノ如シ。

自四月	至六月	一三、〇〇〇人
自七月	至九月	一〇、〇〇〇人
自十月	至十二月	六六、〇〇〇人
自一月	至三月	八九、〇〇〇人
計		八九、〇〇〇人

本餘剩勞力謂ハ臨時不定期ニ勃發スル勞働及ビ他町村ニ在ル勞働ニ依リ消化セラレ、分アリト雖モ一切之レヲ觀過シタルモノニシテ住民ノ總勞力ヨリ一定ノ職業或ハ生業ニ從事スル爲メノ勞力及ビ普通生活上ニ起ル必須ナル休暇、交際、慰安等ニ要スル勞働廢止ノ勞力ヲ併セタルモノヲ控除歸納セルモノナリ、而シテ職業又ハ生業ニ從事スル爲メニ要スル勞力ハ能率ヲ基礎トシ推理決定セルヲ以テ村内ノ實狀ニ照ラシ仔細ニ之レヲ檢討スルハ多少ノ相違アルヲ免レサルナリ。即チ主タル生業タル農業ニ於テ之レヲ見ルモ耕地五百五十七町歩ニ對シテハ十七萬五千三百六十四人ノ勞力ヲ以テ足ルモノナルニ不拘其ノ實狀ハ十九萬七千八百人ヲ以テ之レニ充テツ、アルガタメ本年ニ於テノミ二萬一千七百三十六人ノ餘剩勞力ヲ徒費スルガ如キ實狀ニ在ルヲ以テ實際ノ餘剩勞力ハ前述ノ八萬九千餘人ヨリ著シク減少ス。尙村内ニ於テ需要アル勞力ガ技術能力ヲ有スルモノヲ欲スルニ不拘所在勞力ノ之レニ添ハザルモノアルガタメ需要ヲ充タスコトヲ得ズシテ餘剩勞力ヲ有スルニ不拘他町村ヨリ勞力ヲ移入セザル可カラザル狀況ナリ。

實狀ヲ基礎トシ調査シタルニ長木村ノ所在勞力ハ七萬九千六百八十五人ニシテ本勞力ハ國有林事業其ノ他臨時ノ勞働ニ出役シ得ルモノナリ、故ニ之レ等勞力ヲ當署ニ於ケル各種業務施設ヲ以テ可及的ニ消化シ又ハ生産化ヲ企圖スレバ次ノ如シ

一號表(經濟調査)

長木村人口 三、四八〇人

種目別	人頭數	所在勞力延人員	所要勞力延人員	餘剩	備考
七才未満	八〇〇				
兒童	五四〇				
一六才未満	二〇〇				
六〇才以上	二六四	内勞働可能ノモ ノ一一人 四〇、五、五		四〇、五、五	
病人不具其他	五〇				
職業ヲ有スル者	一七五				
出稼者	五〇				
農業	五四〇	一九七、一〇〇	一七五、三六四	二一、七三六	
炊事留守	四二二	一五〇、三八〇	一三一、五八九	一八、七九一	
官行出役	一一〇	四三、八〇〇	三五、〇八三	八、七一七	
冠婚、葬祭、出生 兵役、外各休 (盆、正月、雨)	三三〇				
計	三、四八〇	四三一、七九五	三四二、〇三六	八九、七五九	

二號表(經濟調査)

月區間	所在勞力	所要勞力	差過	不足	備考
四—六	一〇七、六五三	一〇七、六五三		二七三	一號表參照ノコト
七—九	一〇八、八三六	九五、五四〇	一三、二九六		
一〇—一二	一〇八、八三六	九八、二一〇	一〇、六二六		
一—三	一〇六、四七〇	四〇、六三三	六五、八三七		
計	四三一、七九五	三四二、〇三六	八九、七五九	二七三	差引人頭數ニ於テ二四五人過トナル

餘剩勞力調

月別	昭和十年年度豫定内事業分量				他町村 出役	長木村 出役	長木村出 役可能ノ モ	長木村差引 過不足	備考
	斫伐	造林	土木	其他					
六	四、四五七人	六〇〇人	五〇〇人	一〇人	一、九五七人	三、六四〇人	四、四六六人	八三一人	

計	三	二	一	十	十	十	九	八	七
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
五〇、五三〇	四、一三〇	四、七六〇	三、八一七	三、六四〇	五、六五六	六、〇六六	五、六〇〇	五、九〇六	六、五三〇
一一、一七七				二、二〇〇	一、一八九	一、三三〇	一、三〇三	二、三三七	三、九五八
八〇〇									三〇〇
三七〇					一〇〇	一〇〇	一〇〇	四〇	二〇
六二、九一九	四、一三一	四、七六〇	三、八一七	三、八七〇	六、九四五	七、四八六	七、二〇三	八、三三三	一〇、八〇八
一六、二六二	六三〇	七六〇	六一七	一、一四〇	一、九二六	二、三三六	二、三六〇	一、八五六	二、六八〇
四六、六五七	三、五〇〇	四、〇〇〇	三、一〇〇	二、七三〇	五、〇一九	五、一五〇	四、八四三	六、四四七	八、一三六
七九、六九五	八、四六九	九、〇三三	八、九二〇	八、八一五	八、九八七	六、九五二	八、一二五	七、三八八	八、五三七
三三、〇二八	四、九六九	五、〇三三	五、七二〇	六、〇八五	三、九六八	一、八〇一	三、二二二	九四一	四〇九

九年度立木及製品拂下量及ビ所要勞働量

製 品 二〇〇立方米 一、七四五人

栗 立 木 一、一二立方米 八、四一〇人

難 立 木 九三六立方米

此事業ニ従事シタル延人員 一〇、一五五人

十年度立木及製品拂下見込數量及同所要勞働量

製 品 三五〇立方米 三、〇五二人

雜 立 木 一、〇五九立方米

栗 枯 一〇〇立方米 九、五三一人

此事業ニ従事スベキ延人員 一一、五八三

薪炭原木拂下調

事 業 區	林 小 班 面	積 材	積	供 給 見 込 部 落
下 長 木	一、八	三、〇〇〇 (1,000)	三	小雪澤一六戸、大明神一二戸、新澤三七戸 計六五戸
同	に	一五、六〇〇	二二一	
同	に	一三、〇〇〇	二三四	
同	ろ	一五、五八〇	二三四	
同	に	四、〇〇〇	三六	

同	同	同	同	同	同
計	計	計	計	計	計
は	は	は	は	は	は
ろ	ろ	ろ	ろ	ろ	ろ
三、五二〇	三、五二〇	三、五二〇	三、五二〇	三、五二〇	三、五二〇
七四、一〇〇	七四、一〇〇	七四、一〇〇	七四、一〇〇	七四、一〇〇	七四、一〇〇
二四、〇九〇	二四、〇九〇	二四、〇九〇	二四、〇九〇	二四、〇九〇	二四、〇九〇
三三ろ	三三ろ	三三ろ	三三ろ	三三ろ	三三ろ
下長木	下長木	下長木	下長木	下長木	下長木

委託林調書 (諮問事項(二)参照)

茂内第一擔當區部内

林	林	林	林	林	林
小	小	小	小	小	小
班	班	班	班	班	班
へ	い	い	い	い	い
一五、五六	一五、五六	一五、五六	一五、五六	一五、五六	一五、五六
三五、四二	三五、四二	三五、四二	三五、四二	三五、四二	三五、四二
三六、六一	三六、六一	三六、六一	三六、六一	三六、六一	三六、六一
四九、六四	四九、六四	四九、六四	四九、六四	四九、六四	四九、六四
五五、〇八	五五、〇八	五五、〇八	五五、〇八	五五、〇八	五五、〇八
赤澤七戸、黒澤一八戸、水澤一八戸、茂内屋布四三戸、籠谷各部落一一戸、(計九七戸)					

合	合	合	合	合	合
計	計	計	計	計	計
一、八二六	一、八二六	一、八二六	一、八二六	一、八二六	一、八二六
二、三四	二、三四	二、三四	二、三四	二、三四	二、三四
二、八五七	二、八五七	二、八五七	二、八五七	二、八五七	二、八五七
一〇、〇八八	一〇、〇八八	一〇、〇八八	一〇、〇八八	一〇、〇八八	一〇、〇八八
二、二七〇	二、二七〇	二、二七〇	二、二七〇	二、二七〇	二、二七〇

茂内第二擔當區部内

林	林	林	林	林	林
小	小	小	小	小	小
班	班	班	班	班	班
い	い	い	い	い	い
一、八二六	一、八二六	一、八二六	一、八二六	一、八二六	一、八二六
二、三四	二、三四	二、三四	二、三四	二、三四	二、三四
二、八五七	二、八五七	二、八五七	二、八五七	二、八五七	二、八五七
一〇、〇八八	一〇、〇八八	一〇、〇八八	一〇、〇八八	一〇、〇八八	一〇、〇八八
六、一三五	六、一三五	六、一三五	六、一三五	六、一三五	六、一三五
石淵一八戸、二ツ屋部落二六戸、(計四四戸)					

新澤擔當區部内

林	林	林	林	林	林
小	小	小	小	小	小
班	班	班	班	班	班
い	い	い	い	い	い
一、二九四	一、二九四	一、二九四	一、二九四	一、二九四	一、二九四
三九三	三九三	三九三	三九三	三九三	三九三
一三五	一三五	一三五	一三五	一三五	一三五
七六六	七六六	七六六	七六六	七六六	七六六
七四、九五	七四、九五	七四、九五	七四、九五	七四、九五	七四、九五
五八、八九	五八、八九	五八、八九	五八、八九	五八、八九	五八、八九
二、二四三	二、二四三	二、二四三	二、二四三	二、二四三	二、二四三
計	計	計	計	計	計
新澤三七戸、大明神一二戸、小雪澤部落一六戸、計六七戸					

代野擔當區部内

林	小	面	積	針	材	瀾	材	備	考
4	い		五七・七六		幼齡	材ナリ		芹田子六六戸	
合	計		五三、二四		一〇、八八		一三、七五	合計戸數二七四戸	

一、國有林各種事業實行上考慮スベキ事項

管内國有林ノ各種事業勞力見込數ハ六萬二千九百十九人ニシテ之レニ對シ地元長木村ヨリハ四萬六千六百五十七人出役シ他町村ヨリ一萬六千二百六十二人出役スル豫想ナリ、然ルニ長木村ヨリ出役可能見込ノモノハ前記七萬九千六百八十五人ニ上リ假リニ他町村ノ勞力ヲ排除シ全部地元ヨリ出役セシムルモノトスルモ尙一萬六千七百六十六人ノ餘剩ヲ見ル、然ルニ地元民ハ技術能力ヲ有セザルカタメ他町村ノ者ヲ使役スルモノナルヲ以テ之ヲ排除スルコトヲ得ザルニ付キ三萬三千二百十八人ノ餘剩トナル。事業實行ハ必要上多年ノ經驗ト研究トノ結果彼此之レヲ案配シ實行スルモノニシテ遽カニ之レニ變改ヲ加フルヲ許サザルモノアリト雖モ努メテ意ヲ用ヒ計畫セルモ本年六月以降相等量ノ事業ヲ十一月迄ニ完了セザル可カラザルヲ以テ已ムヲ得ズ其ノ期間中ハ他町村ノ勞力ヲ移入ス、十二月以降三月迄ハ事業分量減少スルヲ以テ他町村ノ勞力ハ之レヲ廢シ地元民ノ勞力ヲ以テ之レヲ實行ス、然シテ地元勞力ノ供給可能量ハ田植、收穫ノ季間ニ減少スルモ其ノ他ハ一定量ヲ保チ就中冬期ニ到リテ増大ス、故ニ冬期ニ於テハ餘剩力頗ル大量トナル。本餘剩ハ事業分量ノ増加ヲ俟ツニ非ラザレバ消化スルヲ得ザルモノニシテ分量ノ増加ハ事業計劃ノ範圍ヲ超ヘ御諮問ノ範圍ヲ超ス、故ニ窮乏ノ地元救済ノ目的ヲ以テ前年度同様立木及ビ製品中等外品雜片等ヲ拂下ゲ木炭及ビ鑛山用材屋根柱等ヲ製造セシメ餘剩勞力ノ生産化ニ努メントス。本拂下分量ハ一萬二千五百八十三人ノ勞力ヲ消化スルニ止マルヲ以テ十一月以降ノ餘剩勞力二萬五千七百七十四人在ルニ依リ尙一萬三千九百九十一人ノ餘剩ヲ見ル可シ、本餘剩ハ救済土木村營道路二千八百九十五人ヲ以テ一部ヲ消化シルコトヲ得ズ。

二、國有林野各種制度並施設ニ就キ擴充刷新スベキ事項

餘剩勞力ノ生産化及消化ヲ目的トシ本項ニ該當スルモノハ極メテ範圍狹キモ次ハ考慮ヲ要ス

一、製炭事業指導員ノ設置

國有林產物ヲ資材トシテ製炭スル者ニ對シテ技術ノ向上ヲ期セシムルト同時ニ販賣ノ指導ヲ爲スタメニ本技術員ノ設置ヲ希望ス、當署管内ノ資材ハ其ノ量極メテ僅少ナルヲ以テ其ノ設置セラルル場合ハ鹿角、北秋地方ノ各署ノ指導ヲ兼行セシムルヲ可ト思料ス。

二、副業指導員ノ設置

前項ト同シ

三、加工ノ實施

簡易ナル木工、國有產物ヲ原料トスル加工等ヲ斫伐事業トシテ實施シ地元民ノ啓發ヲ企圖スルヲ可ト認ム、就中水力ヲ原動力トスル加工場ヲ設クルハ有効ナルモノト認メラル、蓋シ溪流ヲ利用セバ簡單ニ動力ヲ得可キト認メラルニ之レヲ爲スモノ無キハ(氣候關係ニ基ク點アル可シト雖)類例無キ爲メ及ビ工業化ノ傾向ナキ爲メト思料ス。本項ハ當署ノ經費捻出ノ餘裕ナキヲ以テ或ハ御諮問ニ對スル範圍外トナル可キ嫌アルモ特ニ増額ヲ希望ス、杉枝條ノ利用製箸、樽栓、煎香材料粉ノ製造等ハ原料供給可能ニシテ然モ相當有望ナルモノト認ム。

四、委託林ノ設定

當署管内ニ前掲ノ如ク委託林ノ設定ヲ希望ス（前掲委託林調書参照）

五、放牧採草地ノ管理

放牧採草地ノ施設ヲ造林事業トシテ營林署ニ於テ實行希望ス、現在ノ限定地ノ狀況ヲ見ルニ粗放ニ失シ其ノ態ヲ成サザルモノノミト稱スルモ過言ニ非ラズ。

此ノ理由多々アル可シト雖モ畜産事業ノ收支關係ニ基キ放置セルモノ多シ故ニ一ハ地元民ノ指導ヲ期シ一ハ畜産ノ助成ニ資スルヲ得可シト信ズ。

六、製品處分

村内勞力ノ消化生産化ヲ企圖シ副業ヲ起ス原料ヲ地元民ニ特ニ拂下處分ヲ爲スヲ有効ナル手段ト認ム、拂下ヲ爲スニ就テハ地元民ニ於テ資金調達ノ困難ナル事情アルガタメ往々ニシテ木材業者ニ轉賣ヲ爲ス場合尠ナカラザルヲ以テ之レガ防止策ト併セテ利益増進ヲ計リ利用厚生ニ資セシムルタメ農事實行組合ノ組織ヲ勸奨シ共同作業ヲ營マンメントス。

三、地元市町村經濟組織ニ適合シ指導助長スベキ農山村工業及副業ニ關スル事項

柁小羽ハ隣接スル小坂方面ニ特ニ需要多ク舊來ヨリ地元民ニハ柁割ノ手職者多キヲ以テ殊ニ長木國有林材ハ柁ノ名聲アルヲ以テ官斫製品ノ内低價ナル等外品及ビ屑木材ヲ資材ニ供給シ農事組合ヲ組織セシメ副業トシテ柁割業ヲ助長セシムル方針ナリ。

尙割屑其ノ他雜品ヨリハ割箸、樽栓等ノ家庭工業ヲ指導助長スル見込ナリ。

柁割業者以外ノモノニハ薪炭原木ヲ供給シ製炭業ヲ指導援助スル見込ナリ。

四、其他參考事項

特記事項ナシ

白澤營林署

署長 柴 義 郎

白澤營林署所管國有林ノ九割ハ矢立村ニ一割ハ花岡町ニアリ。國有林地元町村ニ於ケル勞働力並其地内ニ消化セラレ、勞力ハ本年三月施行ノ經濟調査ノ結果共ニ餘剩勞力アリト雖モ、矢立村ニアリテハ隣接花岡町花岡鑛山ニ日通ノ鑛山勞働者九三名アリ又秋季及冬季樺太北海道ニ森林勞働者ノ出稼スルモノ六四名アリテ勞働力ノ移出行ハル、ヲ以テ夏季大部分ハ女子ノ勞力ナリ、從テ本村冬期ノ勞働力ノ消化ハ女子ノ勞力利用ニヨリ解決シ得ルモノニシテ之ガ生産化ハ負擔過重且現金收入極メテ少ナキ農山村ノ經濟窮乏ヲ緩和シ生活ノ安定ニ資スル所大ナリ。

近來軍部ニ於テ東北地方救濟ノタメ農山村ノ女子ニ軍需品(シャツ、ズボン下)ノ製縫ヲ獎勵シツ、アリ、本村女子青年會員三〇名ニテ矢立補導會ヲ組織シ五月ヨリ製縫ニ從事セリ。一ケ年一萬八千組、工賃三二四〇圓ノ收入見込ニシテ此ノ投資施設ニヨリ新ニ勞力ノ需要生ゼルヲ以テ本會ノ發展ト共ニ漸次勞力ノ消化ニ効果少ナカラザルベシ。

國有林事業ハ斫伐事業主體ニシテ春夏秋冬各季節ハ略等シキ事業分量繼續實行セラレ冬季ハ雪上運材箇所ノ運搬事業ノミナルヲ以テ勞力ノ需要著シク減ズルモ此期間ニハ國有林ノ資材ヲ原料トスル製炭並國有林ヨリ供給スル自家用及稼用ノ用薪炭材ノ採取運材行ハル、事情ニアルトメ國有林事業ノ季節的分配ハ適當ニシテ冬季ノ餘剩勞力ハ本間要求ノ範圍ニ於テハ第一項及第二項ニヨリ消化ノ餘地ナシ。

本村ハ國有林多キ山村ニシテ國有林產物ヲ原料トスル副業ニ製箸製造、椎茸栽培、製炭及山茶加工アリ、共ニ成績良ク當地方ニ適スル事業ナルヲ以テ指導助長ノ要アルモノナリ。

一、製箸製造

従業者村内ニ三四戸アルモ製産數量多ク業績良好ナルハ陣場部落ノ一五戸ニシテ昭和九年九、三三五把七八〇圓ヲ生産セリ、昭和二年製作ニ着手シテヨリ一時衰ヘタルモ近來需要ノ増加ト製品ノ向上ニ伴ヒ年々發展シツ、アリ、資料トシテ適當ナル製材所ノ片板、製箸向斫伐製品ノ缺乏ノタメニ大量取引ヲ實行シ得ザル事情ニアリ、本年東京市須田町食堂ヨリ矢立村産業組合ヲ通ジ百萬膳ノ注文ヲ受ケ製造ニ從事セルヲ以テ本年ハ製箸向ノ斫伐製品及樺木等必要ナル資材ノ供給ヲ講ジ販路ノ開拓並販賣統制ノ確立ヲ援助スル方針ナリ。

二、杉黒炭ノ製造

從來杉伐根ヨリ樽丸ヲ製作スル際生ズル雜片ハ放棄セラレ居ル状態ニシテ其數量少ナカラズ、スギ、黒炭ハ相當ノ需要アリ價格十五疋入一俵四拾五錢内外ニシテ雜片ノ利用トシテハ相當ノ收益ヲ擧ゲ得ル見込ナルヲ以テスギ伐根ノ處分箇所ニ於テハ樽丸ノ製作ト併セスギ、黒炭ノ製造ヲ獎勵セントス。

三、農山菜加工業

昭和八年六月白澤ニ農産加工場ヲ設置シ農林省副業課囑託武原數代氏ノ實地指導ニヨリ醬油ノ醸造、農産物及山茶ノ加工行ハレテヨリ繼續シ其ノ製品可ナリ。

本年加工設備ヲ擴張シ山菜加工ヲ主體トシ其加工原料ノ味噌、醬油、麴、飴等ヲ大量ニ製造スル計畫ヲ樹テ實施ノ見込ナリ。

山菜ハ國有林産ノ路及山筍其他ヲ利用スルモノニシテ供給ノ圓滑ヲ計リ本加工業ノ發達ニ協力セントス。

四、椎茸栽培

椎茸栽培ハ昭和六年ヨリ行ハレ年々榎木ノ増加ト共ニ生産量ヲ増セリ、之ガ資材ハ國有林ヨリ供給スルモノニシテ適材少ナキタメ充分ノ供給ハ困難ナルモ可成供給ニ努メ本栽培ノ維持發達ヲ期セントス。

山瀬營林署

署長 渡會 信吉

山瀬村ニ於ケル月別過剩勞力

一、山瀬村ニ於ケル月別過剩勞力

山瀬村ニ於ケル所在勞力ハ別表ノ如ク四十八萬七千餘人ニシテ營林署事業ヲ省クモ尙ホ三萬六千餘人ノ不足ヲ生ズル惠マレタル村ナリ、然レ共所要勞力中田村鐵工場ノ七萬一千餘人ハ日々出役スル二百十六名ノ中山瀬村民ハ百十一名ニ過ギズ又赤倉鑛山ノ二萬三千餘人モ其ノ三割ハ他町村ヨリ入り來ル職工夫ナリ、勞力不足ノ十萬九千人ハ他町村ヨリ入り來レルモノニシテ其ノ町村名並ニ出役割合ヲ擧グレバ次ノ如シ。

村名	出役割合 (%)	備考	
		田村鐵工場出役人頭數	營林署出役人頭數
早口村	二〇	一七人	二六人
綴子村	二三	〇	六六
眞中村	一五	三八	五
下川沿村	一四	三九	二
其他	二八	一一	六九
計	一〇〇		

今山瀬村ノ月別過剩勞力ヲ表示スレバ次ノ如シ

山瀬營林署月別過剩勞力取調表

事業別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
所在ノ力ノ	41,652	30,438	41,652	41,652	43,254	41,652	43,254	33,642	41,652	43,254	41,652	43,254	487,008
村ノ	12,698	12,698	12,698	30,706	58,757	50,792	34,400	39,421	39,421	44,443	38,094	25,396	399,524
農	—	—	—	—	1,620	1,620	1,207	—	—	—	—	—	4,447
養	2,440	1,000	2,440	2,130	0	0	2,130	1,500	1,000	900	2,440	2,441	18,421
製	485	498	470	257	230	150	230	275	340	255	255	340	3,782
馬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,898	—	1,898
村	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
赤	1,974	1,621	1,974	1,974	2,044	1,974	2,044	1,833	1,974	2,044	1,974	2,044	23,474
田	6,048	4,968	6,048	6,048	6,264	6,048	6,264	5,616	6,048	6,264	6,048	6,264	71,928
小	23,645	20,782	23,630	41,115	68,915	60,584	46,275	48,645	48,783	53,906	50,709	36,485	523,474
過	18,007	9,656	18,022	537	(25,661)	(18,932)	(3,021)	(15,003)	(7,131)	(10,652)	(9,057)	6,769	(36,466)
營林署事業	4,864	4,308	4,121	3,825	7,093	4,057	7,118	7,118	3,777	6,610	6,614	5,055	64,560
新	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
經	31	28	31	1,097	679	923	891	807	92	326	30	31	4,966
官	—	—	—	—	52	11	44	15	154	330	20	—	770
士	100	17	—	—	—	—	—	—	—	—	50	100	267
森	—	—	—	150	300	300	300	300	300	300	150	—	2,100

收	17	—	—	10	40	40	60	60	60	50	50	80	467
小	5,012	4,353	4,152	5,226	8,164	5,331	8,413	8,300	4,383	7,616	6,914	5,266	73,130
計	28,657	25,135	27,782	46,341	77,079	65,915	54,698	56,945	53,166	61,522	57,623	41,751	596,604
過	12,995	5,303	13,870	(4,689)	(33,825)	(24,263)	(11,434)	(23,303)	(11,514)	(18,168)	(15,971)	1,503	(109,596)

本表ニヨレバ過剩勞力ノ生ズル月ハ毎年十二月、一月、二月、三月ニシテ其延人數三萬三千餘人丁度冬季積雪期間ノミナ
ルヲ知ル。

一、山瀬村ニ於ケル山間部落ノ要救濟過剩勞力

山瀬村ノ山間部ハ田畑少ク日常多クハ勞賃ヲ以テ生計ヲ立テ要救濟者集團シ冬季間事業斷絶スル際ハ最モ窮乏ヲ極ムル地
方ナリ、今山瀬村ノ山間部落ノ要救濟者數ヲ調査スルニ次ノ如シ。

部落名	總戶數	總人口	要救濟		要救濟		作付(小作)		備考	
			戶數	人數	男	女	田	畑		
大淵岱	三三戶	一〇九人	一三戶	三五人	二四人	三人	九人	〇町	〇町	—
大石渡	三四	一六八	一五	五七	五八	三〇	一九	六・九一	三・〇一	—
長谷地	一五	八三	一〇	三三	二五	一一	一五	一・四五	一・五〇	—
羽立	二二	一七六	一三	五〇	四六	二四	三二	三・五一	二・三三	—

越山	三	二七	二	八七	八二	五七	三	八・二八	二・九五
田茂木	二	八三	七	二	二四	二〇	一	五・三〇	・九五
計	一三五	八四七	七	二八四	二五六	一六四	一〇七	二八・四四	一一・四六

尙要救済者ノ所在勞力ト所要勞力トヲ月別ニ比較スルニ次表ノ如シ。

事業別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
所在勞力	四、三六〇人	二、一八〇人	四、三六〇人	五、四五〇人	五、四五〇人	四、三六〇人	四、三六〇人	四、三六〇人	五、四五〇人	五、四五〇人	四、三六〇人	四、三六〇人	五四、五〇〇人
農業	五六九	五六八	五六九	一、三六七	二、六八九	二、五〇四	一、五三七	一、八二一	一、八二一	二、二二〇	二、〇五〇	一、一三八	一八、七八二
赤倉嶺山	一〇〇	一〇〇	一〇〇	二五〇	二五〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	二五〇	二五〇	一〇〇	一〇〇	二、五〇〇
其他	—	—	—	—	一三〇	三四〇	五四〇	三四〇	二〇〇	—	—	—	一、五五〇
國有林事業	一、九六〇	九八〇	一、九六〇	二、四五〇	二、四五〇	一、九六〇	一、九六〇	一、九六〇	二、四五〇	二、四五〇	一、九六〇	一、九六〇	二四、五〇〇
計	二、七九	一、六四八	二、七九	四、〇六七	五、四四九	五、〇〇四	四、二三七	四、三三一	四、七二二	四、九二〇	四、二二〇	三、二九八	四七、三三三
過(不足)	一、六三二	五三三	一、六三二	一、三八二	—	(六四四)	一二三	三九	七一九	五三〇	一五〇	一、〇六二	七、八一(六四四)

以上ノ表ニ現ハレタル過剩勞力七、一六七人ハ主トシテ女勞働力ニ該當スルモノニシテ女子ニ適スル事業ノ如何ニ山間部ニ少キカラ物語ルモノナリ。

三、過剩勞力ノ消化對策

山瀬村ノ冬期間ノ過剩勞力ハ三三、六七一人ニシテ極力冬季事業ノ勃興ヲ企圖セザルベカラズ、此ノ心組ニテ當署ノ本年度ノ各種事業ノ實行計畫ヲ樹立セリ。其ノ月別事業種別所要勞力數ヲ表示スレバ次ノ如シ。

月別事業種別所要勞力調表

事業別	種類	經費	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
經營造林事業	更新	三八四	—	—	—	—	二六	—	—	—	五	六四	—	—	三三八
同	補植	一六六	—	—	—	一五	—	—	—	—	—	一六二	—	—	一七六
同	撫育	三、〇七〇	—	—	—	六五四	—	—	—	—	—	—	—	—	三、〇〇〇
同	保護設備	八四八	—	—	—	二五〇	—	—	—	—	—	—	—	—	六七四
同	苗圃	三三四	—	—	—	二一八	—	—	—	—	—	—	—	—	二七五
同	試驗	八五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二七
同	共通	一、四五六	三	二八	三	六〇	六三	三〇	三	三	三〇	一八	三〇	三	四七六

計	六、二六七	三二	二八	三二	一、〇九七	六七九	九二三	八九二	八〇七	九二	三三六	三〇	三二	四、九六六
官行造林事業	更新	二八〇								一五〇	一一〇			二九〇
同	保護設備	一六二									一八〇			一八〇
同	苗圃	三九七								四	三〇			三二〇
同	共通其他	二五四												
計		一、〇九三								一五〇	三三〇			七七〇
斫伐事業	主伐	七三、六四九	四、六六四	四、三八八	四、一一一	三、八二五	七、〇九三	七、〇一四	七、〇二四	三、七二五	六、五〇六	六、五〇一	四、八五五	六三、五六四
同	造林間伐	五〇〇	一一〇〇										二〇〇	四七六
同	製炭	五七五												五二〇
計		七四、七四四	四、八六四	四、三〇八	四、一一一	三、八二五	七、〇九三	七、一一八	七、一一八	三、七七七	六、六一〇	六、六四四	五、〇五五	六四、五四〇
土木事業	修繕	二二七	一〇〇	一七									一〇〇	二六七
收穫調査		一、五〇〇	一七			一〇	四〇	六〇	六〇	六〇	五〇	五〇	八〇	四六七

合 計	八三、八三一	五、〇一一	四、三三三	四、一五二	五、〇七六	七、八六四	五、〇三一	八、一一三	八、〇〇〇	四、〇八三	七、三二六	六、七六四	五、二六六	七、一〇三
-----	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

備考

- 一、經常造林事業ノ四月ノ事業ハ經費捻出ノ上手遅レ除伐施行セルモノヲ示ス
- 二、共通ノ人夫ハ調査手傳人夫及營林定夫ノ撫育施行ノモノヲ示ス
- 三、官行造林ノ更新ハ秋植トス、撫育事業ナシ
- 四、土木事業ニハ新設事業ナシ
- 五、收穫調査ハ本年度ハ未配賦ニ付便宜昭和九年度經費ヲ掲上ス

本表ノ如ク極力各種事業ヲ冬季ニ繰延實行セントスレ共事業ノ性質、其ノ他ノ事由ニヨリ僅カニ十二月ヨリ三月迄四ヶ月間ニ於テ一八、七八三人ノ消化ニ過ギズ尙殘餘ノ餘剩勞力一四、八八八人ハ到底民間事業ノ振興ヲ待タザレバ現在配賦經費内ニテハ消化スルコト能ハザル狀況ニアリ、尙當署ニ於テ考慮ヲ拂ヒ實施セムトスル事項次ノ如シ。

(一) 造林地利用間伐ノ向上促進

當署ノ人工植栽面積ハ二二、二八ha三二二アリテ内杉造林地ハ一、九二一ha八七ニシテ總面積ノ八六%ニ相當ス其ノ蓄積左表ノ如ク現在八萬三千立方米餘ニ達シ年平均約三千立方米餘ノ材積ノ増加ヲナシツ、アリ。

すぎ林令別蓄積調査表

林 齡	面 積	蓄 積	年 平 均 生 長 量	備 考
一——一〇年生	五六・六 ha		1 m ³	年平均生長三七六立方米アリ
一一——二〇年生	六七一・九〇	一七、七四七	1 m ³	

計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
1,921.87	4,311.11	8,318.10	3,065	1,921.87	4,311.11	8,318.10	3,065	1,921.87	4,311.11	8,318.10	3,065	1,921.87	4,311.11	8,318.10	3,065	1,921.87	4,311.11	8,318.10	3,065	1,921.87
211-130年生	311-40年生	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
642.34	4,311.11	8,318.10	3,065	1,921.87	4,311.11	8,318.10	3,065	1,921.87	4,311.11	8,318.10	3,065	1,921.87	4,311.11	8,318.10	3,065	1,921.87	4,311.11	8,318.10	3,065	1,921.87

以上ノ杉造林地ノ内簡易ナル運搬路ナキ爲メ伐倒ノ儘放置サルモノ、區域面積約三九〇ha其ノ蓄積約一二、三〇〇立方米ノ多キニ達セリ、若シ簡易運搬路延長二〇、五〇〇米其ノ經費二、九三五圓ヲ投シ開設スルナラバ左表ノ如ク伐採木ノ價格昇騰シ有利ニ處分シ得ル利アルノミナラズ地元部落民ノ副業資料ヲ容易ニ供給スルコトヲ得、地元部落ノ過剩勞力ヲ消化シ得ル所以ナリ。今簡易運搬路開設ノ結果すぎ造林地ノ價格生長ヲ表示スレバ次ノ如シ

位 置	延 長	經 費	林 齡	面 積	蓄 積	單 設		前 格	單 設	後 格
						價 置	價 置			
自岩瀬澤國有林 143ha	1,000m	100	25年	1,566.69ha	6,144m	0.53	3,181	0.68	4,176	
自岩瀬澤國有林 8ha	1,000m	100	25年	109.06ha	5,636	0.37	2,026	0.57	3,103	
至目名市林道	1,000m	100	25年	22.65ha	1,374	0.36	492	0.48	661	
至同	1,000m	100	25年	15.19ha	1,353	0.30	404	0.60	816	
至同	1,000m	100	25年	7.88ha	4,094	0.51	68	0.20	270	

位 置	延 長	經 費	林 齡	面 積	蓄 積	單 設		前 格	單 設	後 格
						價 置	價 置			
自岩瀬澤國有林 3434ha	1,000m	100	26-29	61,354	1,035	0.07	69	0.29	295	
至同	1,000m	100	25-34	35,766	1,108	0.13	1,355	0.79	1,154	
至同	1,000m	100	25-35	47,766	231	0.16	134	0.39	328	
至同	1,000m	100	25-36	36,199	1,484	0	0	0.16	237	
至同	1,000m	100	26-28	43,755	3,311	0.03	91	0.24	767	
至同	1,000m	100	27	22,266	1,714	0.25	429	0.41	703	
至同	1,000m	100	27	44,544	2,011	0	0	0.42	849	
至同	1,000m	100	27	33,677	1,852	0	0	0.11	389	
至同	1,000m	100	27	59,699	3,936	0	0	0.16	639	
計	1,000m	100	27	708,899	33,245	0.26	8,663	0.47	15,537	

備考
 本表ノ中現在價格ナキモノ三八二ha五一價格アルモノ三二六ha三八(八、六六三圓)ニシテ其ノ價格生長ヲ表示スレバ次ノ如シ
 現價格アルモノ 一三、一一六圓 價格生長 四、四五三圓
 現價格ナキモノ(蓄積一二、二六三³m) 二、四二一圓 價格生長 二、四二一圓
 計六、八七四圓

右表ノ如ク簡易運搬路開設ニ伴ヒ收入間伐ヲ促進シ地元部落ノ杉間伐木加工利用事業ノ普及ト共ニ冬季事業ヲ與ヘ充分過剩勞力ヲ生産化スルコトヲ得ル見込ナリ。

(一) 地元部落冬季事業トシテ杉間伐木ノ處分

當署ニ於ケル杉間伐木生産材積八年々約六百五十立方メートルニシテ地元部落ニ處分サル、モノ極僅少ニ過ギズ、最モすぎ間伐木利用副業ノ普及セザルコトニモ起因スレ共木炭農事實行組合組織サレ漸ク共同事業ノ有利ナルコト一般ニ知得サレタル今日組合組織ニヨリ杉下駄作製ノ聲漸ク擡頭スルニ至レリ。

山菜加工場ノ冬季休閑中其ノ工場ヲ利用シ組合員杉下駄製造ヲ企圖シ過剩勞力ヲ消化セントスル氣運ニ到達セルモノナリ下駄ハ組木取トシテ極小徑ノ杉間伐木ヲ利用加工スルモノニシテ初年度ニ於ケル其ノ消化數量ヲ示セバ次ノ如シ

加工組合員 三十名内外

一、就業期間 十二月ヨリ翌年三月迄ノ四ヶ月間

一、杉間伐木 徑四寸ヨリ六寸迄ノモノ

材積七〇立方メートル豫定

一、生産數量 二萬足(組木取ノモノ)

價 格 千貳百圓(益六百圓ノ見込)

當署ニ於テハ前述ノ如ク簡易運搬路開設ノ曉ニハ尙一層ノ收入間伐ニヨリ年々二五三立方メートル増産スルコトヲ得ル見込ナルヲ以テ此種ノ副業八年ヲ經ルニ從ヒ隆盛トナル見込ナリ。

(二) しゃこたん竹林ノ造成

しゃこたん竹ハ根曲リ竹ノ郷土ト同ジク、東北、北海道ニ蔓生シ其ノ用途モ煙管、筆管ニ使用サレ高價ナリ。幸ニモ當署管内岩瀬澤國有林四十八林班内ニ約一アール位ノ面積ニ自然生アルヲ以テ之ヲ保護増殖シ適地ニハ人工植栽ヲ行ヒ一般民地ニモ普及セントスルモノナリ、現在山元ニテ徑一糎長サ二〇糎ノモノ一本貳錢乃至參錢ニテ取引キサレツ、アリ。

(四) なめこ、椎茸ノ栽培

當署管内ノ國有林ヨリ年々産出スル食用菌蕈類ハ六種類(椎茸、なめこ、ますだけ、まひだけ、むぎだけ、はりひらだけ)アリテ其ノ産出量ハ年約六千三百疋以上ナレ共多ク地元部落民ノ食用ニ供サル、ノミナリ、若シ自然ニ發生スルモノヲ採取スルノミニシテ増殖ヲ計ラザランカ途ニ濫採ノ結果根絶セザルトモ年々ノ産出量ノ減少スル事疑ヒナシ依ツテ地元部落ニ組合ヲ組成シなめこ、椎茸ノ栽培増殖ヲ計ルト共ニ山菜加工組合ト相俟ツテ共存共榮ノ實ヲ揚ゲント企圖スルモノナリ。會テ民間ニ於テ椎茸ヲ栽培セシモノアリシモ途中挫折セルハ多クハ管理ノ不充分ニ起因セリ、組合組織ニヨリ此欠陥ヲ防止シ惡風ヲ自然ニ矯正セントスルモノナリ、

(五) 藥草ノ林間増殖

當署管内國有林ニハ藥草ト稱ス可キモノ二十三種アリテ何レモ手入増殖ヲ計ルナラバ相當ノ收益ヲ得ル見込ナリ、自然發生ノモノヲ採取スルヨリ林間ヲ利用シ人工増殖ヲ計ルヲ得バ採取、運搬、加工ニ便ニシテ相當價格ヲ以テ市場ニ賣出ス可能性充分アリ。

本件モ國有林ニ於テ範ヲ民衆ニ垂レ普及スルナラバ餘剩勞力ヲ消化シ地元部落ノ醫藥料ノ代償ヲラシムルコト疑ヒナシ今當署ニ於テ試ミル栽培藥草ヲ擧グレバ次ノ如シ。

名	稱	收穫時期	用	途	用	法
げん	のしょうこ	七八月	下痢止	藥	莖葉ヲ蔭干ニシ五匁ヲ一合五勺ノ水デ半分位ニ煎ジツメ一日三四回飲ム	
せん	ぶり	七八月	健胃	藥	一本位ヲ細ク折り湯飲茶椀ニ入レ熱湯ヲ注ギ每食後三十分間位ニシテ飲ム	
どく	だみ	七八月	毒下し、痔疾、性病		莖、葉、根ヲ煎ジテ飲ム	

みつばわうれん	隨	時	胃	腸	藥	根ヲ干シ一匁ヲ二合ノ水デ一合五勺ニ煎シテ一日三四回位飲ム
みよ	十	月	腎臟病、足腰ノ冷ニヨシ			根ヲ蔭干ニシテ煎シテ飲ム
う	春	秋	胃	腸	藥	根ヲ取リ上皮下ヲ剥ギ水ニ浸シ後乾シテ煎用ス

(六) 樹實ノ利用

當署國有林ヨリ産出スル食用樹實ハ六種(くり、とち、おにくるみ、こなら、みづなら、ぶな)ニシテ四十六萬疋ニ及ビ未ダ其ノ利用ノ途ヲ講ゼラレズ、依ツテ是等樹實ノ貯藏法並ニ食用方法ノ講習ヲ開始シ極力地元部落民ノ覺醒ヲ促シ利用法ヲ普及シ山間部落ノ食糧問題ヲ解決スル一助ヲラシメントスルモノナリ。
是ガ普及ノ曉ニハ自然山間部落ノ勞力消化ト共ニ生計費ノ節約トナリ自立更生ノ實ヲ擧ゲ得ルト信ズ。
今當署管內國有林ヨリ平年ニ於ケル主ナル樹實ノ産出量ヲ示セバ次ノ如シ。

樹種名	一ヶ年産出量	備考
とち	三、二四〇kg(二七石)	
おにくるみ	五三九kg(五石)	
みづなら	一一、二五六kg(八〇石)	
こなら	一一、六八七kg(九〇石)	
ぶな	四三三、七六〇kg(四、三三七石)	

(七) 民有指導林ノ設置

本村内ノ民有林ニハ相當年數ヲ經タル杉落葉松ノ造林地アレ共間伐手遅レノ爲メ林相悪化シ生長遲緩ノ狀況ニアリ尙亦雜木林ニ於テハ皆伐一點張りニテ爲メニ地力減退シ漸次荒廢ニ頻シツ、アルモノ多ク國土保安民福増進上由々シキ問題ナルヲ以テ林業技術ノ普及ヲ計ルコト目下ノ急務ナリ、依ツテ國有林ニ於テ率先、民林經營ニ適當スル施業方法ヲ實示シ森林ノ取扱法ヲ指導スルコト等閑ニ附セラレザル實情ニアリ。

茲ニ於テ本年五月當署國有林二十八林班ろ小班内ニ杉造林地ノ民衆の間伐指導林約四反歩、百六林班ろ小班内ニ約一反歩ノ雜木林ノ取扱指導林ヲ設置シ林業篤志家ノ自由視察ヲ許容シ、民有林ノ施業ノ改善ヲ計リツ、アリ是ガ普及ノ曉ハ相當ノ勞力消化スルコトヲ得ル見込ナリ。

記

私有林二〇〇haハ立木地ニシテ撫育手遅レノ狀況ニアリ
村有林九五haモ立木地ナレ共無手入ノ儘放置状態ナリ

四、結 尾

前述七事項ノ實施ニ依リ昭和十年年度ノ山間部落ノ餘剩勞力ヲ別表ノ如ク消化生産化スルコトヲ得ル次第ナレドモ尙冬期間三二五七人ノ餘剩アルハ杉下駄製造ノ勃興ニ依リ生産化スルヨリ他ニ途ナキ實情ニアリ。當署ヨリ供給可能資材ハ未ダ二七〇立方米突(小徑木ノモノ總生産材積ノ三割)ノ餘裕アルヲ以テ山瀬村ノ山間部落ニ最適スル副業ハ杉下駄製造ヲ第一位ニ推奨スル所ナリ。

今山瀬村ニ普及セシムベキ當署實施計劃ノ副業ヲ列擧スレバ次ノ如シ。

一、山 菜 加 工

(組合組織)

二、杉間伐木利用ノ下駄製作 (同)

三、なめこ椎茸ノ栽培 (同)

要スルニ山村經濟更生ノ實ヲ舉グルニハ地方廳林業關係職員二千七百餘名ノミテハ充分ナル効績ヲ舉ゲ得ザルモノト思
 慮サル、ニヨリ宜敷山間僻陬ノ山村實情ヲ熟知スル五千餘人ノ職員ヲ擁スル營林局署員ノ協力援助ノ元ニ山村疲弊ヲ打開
 スル策ヲ講ズルコト肝要ナリ。須ラク現在ノ官制ヲ改正シ營林局署員ニ經濟更生指導ノ權限ヲ附與シ營林局署員ヲシテ積
 極的ニ活動助長セシムルコトニ努ム可キナリ。

當署ニ於テハ逸早ク左ノ事項ノ實施ヲ希望ス

- 一、營林署員ハ縣町村經濟更生委員會ノ委員或ハ顧問ノ囑託ヲ受ケ積極的ニ活動スルコト
 - 二、町村產業組合又ハ地方教養團體ノ顧問ヲ囑託シ指導助長ニ努力スルコト
- 以上ノ事項實現サル、ニ於テハ營林署ニ指導調査員ノ配置ヲ受ケ専ラ民有林指導ト相俟ツテ更生指導助長ニ努力スルコソ
 制度改善ノ本旨ナル可シ。

山間部落餘剩勞力生産化一覽表 (昭和十年度)

位順	事業區別	見込 人頭數	月												計	備考		
			一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月				
一	簡易運搬路開 設ニ伴フ造林 收入間伐事業	40	110	120	120													秋季伐木運搬 スル各期間運搬 スルモノトス
二	杉間伐加工利 用事業	30	400	100	100	100												冬期事業トシ テ杉下駄製造 組合組織トス
三	山茶加工	50				100	600	800		600	1100	1100	1100	1100	1100	1100	1100	組合組織ニテ 實行
四	竹林造成	110				80												林業篤志家ノ 勵行
五	なめこ椎茸栽 培	110				1100	400											申合セ組合ニ テ共同實行
六	藥草林間増殖	40				50	50	100	100	100								差當リ定備人 夫實行ノ見込
七	樹實ノ利用	50	150															地元部落民ノ 組合員間ニ勵 行
八	林業技術ノ普 及	10	150															地元林業篤志 家ノ實行
計		260	810	1120	2220	4220	5500	8000	2200	1000	7500	9500	7500	11100	11100	7,810		
過 (不足)			822	292	1,192	953 (五四九)	800 (八〇〇)	777 (七七七)	61 (六)	111 (一一)	2,110 (二,一〇)	600 (六〇〇)	38 (三)	9 (九)				三、二五三 (三、二六六)

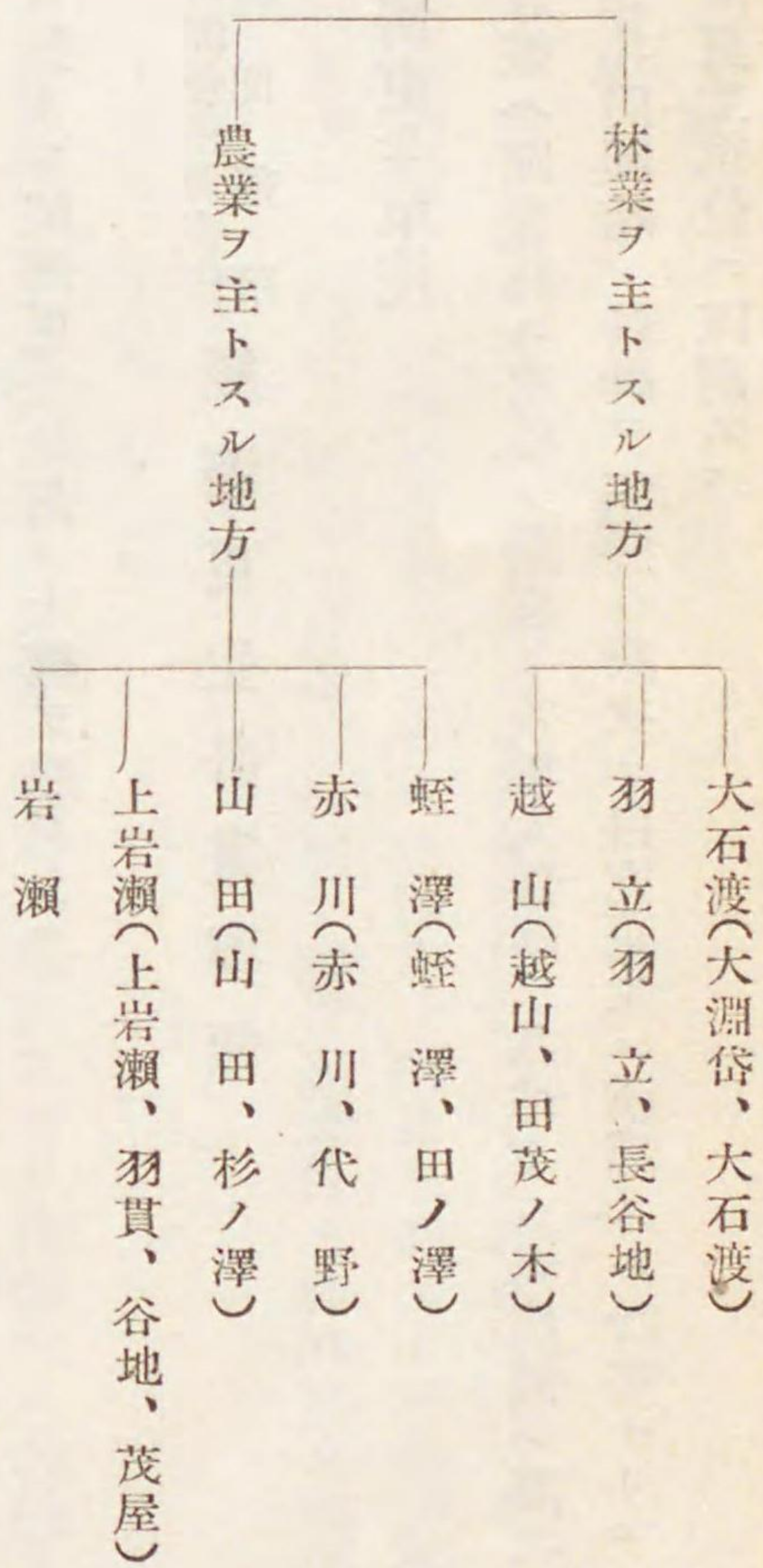
今左ニ當署ノ山瀨村ニ對スル經濟更生計劃ノ大綱ヲ舉ゲン。

山瀨營林署管内 山間部落 經濟更生計畫要領

(一) 山瀨村經濟更生單位

當署管内ノ經濟更生計畫ハ國有林ニ密接ノ關係アル地元部落ヲ基準トシテ出發シ漸次一町村ニ及ボスモノニシテ特異性ヲ
 有スル部落ヲ單位トシ共同團結ノ精神ヲ涵養シ漸次ニ自立更生ニ誘導スル計畫ナリ。
 依ツテ管内ヲ左ノ經濟更生單位ニ區劃ス。

山瀨營林署
(山瀨村)



(二) 山瀨營林署管内山間部落ニ對スル自立更生計劃ノ要旨

一、生産増殖ノ實施事項

- 1 薪炭材ノ改良
- 2 裝炭改良
- 3 梅、櫻、桃、栗等ノ屋敷林ノ造成並ニ増殖
- 4 しやこたんノ増殖
- 5 なめこ、椎茸ノ栽培
- 6 藥草ノ増殖
- 7 樹實ノ利用
- 8 杉間伐木ノ利用(下駄、經木ノ作製)
- 9 竹細工
- 10 山菜加工

11 養 鯉

二、販賣統制並ニ購買統制

山瀨信用購買販賣組合ヲ中心機關トシテ各部ニ於テ組合ヲ組織シ販賣購買統制ヲ圖ルモノトス

三、生活ノ改善

- (イ) 寮ノ改善
- (ロ) 雜食ノ獎勵
- (ハ) 節酒ノ勵行ト消費節約
- (ニ) 冠婚葬祭ノ改善
- (ホ) 廢物利用

四、人心ノ作興

- (イ) 勤勞ヲ貴ビ共同精神ノ振興
- (ロ) 貯蓄心ノ涵養
- (ハ) 時間勵行

五、負債整理ト備荒貯蓄

- (イ) 負債整理ノ根本策樹立
- (ロ) 諸税金ノ完納
- (ハ) 更生貯金ノ勵行

以上ハ更生計畫ノ大綱ヲ示セルモノニシテ町村各種産業團體各種修養團體ト聯絡協調シ漸進的ニ一事一改善主義ニヨリ實施セントスルモノナリ。

早口營林署

署長 富所耐志

Faint, illegible text visible on the right page, likely bleed-through from the reverse side of the leaf.

一、國有林野各種事業實行上考慮スベキ事項

本項ニ關シテハ

斫伐事業

イ、從來春夏秋ノ候ニ於テ凡テ伐木造材ヲ終了シテ林地積配ヲナシテ冬糧出ヲナシタルモノヲ本年度ハ冬糧運材ニ依ルモノニ付テハ冬季伐木造材ノ計畫ヲ樹テタリ。
 ロ、柚夫ノ養成ヲ計ルコト
 前年柚夫五十二名ヲ養成セリ成績可良ナリ。

造林事業

技術本位ニ云フ時ハ勿論撫育事業ノ冬季實行ハ好シカラザルモ季節的、地方的分配ノ適正ヲ期スル意味ヨリ一部ヲ冬季ノ實行ニ移シタリ。

土木事業

砂利採取並ニ修繕ノ一部ヲ冬季實行ニ計畫セリ。

種	類	數量	早		口		村		綴		子		村		計	
			人頭數	延人員	金額	人頭數	延人員	金額	人頭數	延人員	金額					
造	林	六、七三〇	三〇	三〇〇	二二九	—	—	—	三〇	三〇〇	二二九	—	—	—	三〇	三〇〇
斫	伐	一〇、一五九 <small>立方米</small>	八六	四、二五五	五、四七三	二九	一、五五二	一、八二五	二五	五、八〇七	七、二九八	—	—	—	—	—

九年度ニ於テ配給シタル麥ハ自昭和九年十一月至昭和十年三月三二六石此代金三、三六八圓、米ニ換算スレバ九、二八七圓之レヲ米ニ比較スレバ五、九一九圓ノ差アリ一割多ク食スルモノトシテモ内輪ニ見積リ四、七〇〇圓ノ利益アリ。

ハ、前年度ニ於テ試ニ各製炭業者ノ使用ニ係ル俵裝用繩莖ヲ各自生産スルコト、セリ。

此俵數一五、〇〇〇俵分金額一、〇五〇圓使用勞力女三、五〇〇人ニ及ブ、本年ハ更ニ之レヲ徹底セシムルハ勿論更ニ北海道漁場用向キ繩ノ製作ニ從事セシメントス。

九年度ニ於ケル署ノ買入藥品代ハ二八七圓ニ及ブ。

ニ、各部落個人ノ借金ハ之レヲ部落外ニ仰ガズ部落内ニテ差繰リセシムルコト。

ホ、生活必需品ノ共同購入ヲ爲サシメ之レニ依ツテ贅澤品ヲ或ル程度迄減シ質素ノ氣風ヲ養成シ又高價ノ物品買入ヲ緩和スルコト即チ

早口村奥山村ハ一〇七戸七七八人ハ大館市場ヨリ約二割五分ノ高價

綴子村奥山村ハ九二戸、七七四人ハ大館市場ヨリ約二割高價

ハ、牛ノ飼育ヲ計ルコト

早口村奥山村ハ藁ノ如キモ質不良ナレバ高級ナル工品製作ニ不適ナリ故ニ之レヲ飼料トシ又國有林ニモ放牧ヲ許シテ收入ノ増加不良藁ノ利用肥料製造延テ土地ノ改良ニ迄及ボスモノナリ、昨年ハ三十七頭ノ處本年ハ百十二頭トナレリ、昨年ノ牛ノ賣價ハ平均一頭七拾圓トス

ト、早口、綴子、奥部山村ニハ各部落ニ共同養鯉池ヲ設ケ養殖シ差向キノ處ハ鷹巢早口方面ヨリ買入ル、魚類ヲ中止シテ鯉ヲ以テ代用スルモノトス

各人必要ニ應ジテ捕獲シテ其大サ數量ヲ當番ニ届ケテ月末ニ計算スルコト

チ、畦畔及屋布廻リノ宅地ヲ利用シテ漆、栗及桐ヲ植栽セシムルコト

管内各部落ニ就キ調査スレバ

村	漆	栗	桐	備	考
早口村	四、三〇〇本	六三、一四五本	〇本		
綴子村	一、〇〇〇	一、五、七二〇	二、四、四〇〇		

リ、簡易製材機備付ノコト

最近五ケ年ニ支拂ヒタル木挽職ノ賃金ハ次ノ通りナリ、依ツテ此際製材機ヲ用意シ巡回使用セシメントス

早口村	綴子村	計	備	考
五ケ年總額	五ケ年總額	五ケ年總額	一ケ年平均	
四、七三〇円	四、七四三円	九、四七九円	一、五九五円	
一ケ年平均	一ケ年平均	一ケ年平均		
九四七円	九四八円	九、四七九円		

又、營林署ト部落民トノ座談會ヲ開クコト即チ苗代時季ニ入ル前、舊盆、雪前ノ三回トス

ル、前年青森縣ヨリ講師ヲ招ギテ竹細工ノ講習會ヲナシタリ、期間二週間復習一週間報酬一日五圓講習生十一名種目ハザル、手籠、椀籠、炭入、殘屑籠トス

今後モ獎勵ノ見込ナリ

オ、山桑ノ保存ヲ計ルコト

一般林地ハ勿論造林地ト雖モ山桑ノ保存ヲ計ルコト即チ現在ニテモ造林地ニ於テ一ヘクタール六十七本、此收量二十貫ノ採桑見込アリ、將來積極的ニ保存セントス

ワ、山茶ノ採取ヲ極力獎勵スルコト

鷹巢營林署

署長

横川信夫

昭和九年蕨採取實績

擔當區	人頭	延人員	採取量	單金	總額	採取時期	備考
大野	六七	五二〇	三、〇九〇貫	〇・九〇	二七八・一〇	自六月至七月	
大淵	二五	一一五	九二〇	〇・九〇	八二・八〇	同同	
岩谷	一五	七〇	四八〇	〇・七〇	三三・六〇	同同	
計	一〇七	七〇五	四、四九〇		三九四・五〇		

當署管内ハ鷹巢町、榮村、澤口村、西館村及七日市村ノ一町四ヶ村ニ跨ル、而シテ地元トシテ國有林ニ最モ密接ナル關係ヲ有シ常時各種國有林事業ニ出役スルハ榮、澤口及七日市ノ三ヶ村トス。
 特ニ變化ナキ限り例年は等三ヶ村ニ於ケル所在勞力所要勞力及過剩勞力等ノ季節的分配狀況關係ハ左表ノ如クニシテ何レモ農ヲ主トシ國有林事業以外ニ特ニ勞力ヲ必要トスル事業ナキ爲農閑期タル冬季ニ於テ餘剩勞力最モ多ク夏季是ニ亞グ。

勞働力ノ季節別狀況

村	所在勞力			所要勞力			過剩勞力		
	四一六月 七一九月 二〇一三 一三一月	計	四一六月 七一九月 二〇一三 一三一月	計	四一六月 七一九月 二〇一三 一三一月	計	四一六月 七一九月 二〇一三 一三一月	計	
七日市	八二,〇〇六、五〇〇	八〇〇,〇〇〇	三二七,〇〇〇	八〇〇,〇〇〇	二七二,二〇〇	三,二〇〇	九,〇〇〇	四,八〇〇	
澤口	五〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	一〇五,〇〇〇	一〇五,〇〇〇	一三二,二五七	五三一	三,〇四三	七六,七四二	
榮	四七,七二五	四〇六,四〇〇	一八一,八五二	一六二,四一七	一五八,八四八	五五三	八八八	二二,〇〇〇	
計	一七九,七二五	一,〇〇六,〇〇〇	七〇三,八五一	一,〇〇六,〇〇〇	五五九,三〇五	一,〇〇六	一四,〇〇〇	一四四,五四五	

而シテ昭和十年度ニ於テハ昭和九年夏ニ於ケル水害ノタメ流失セル橋梁架設及崩壞セル道路改修其ノ他民有林防火線新設ノタメ特ニ次表ノ如キ事業アリ三ヶ村ヲ通ジ一萬一千五百餘人ノ勞力ヲ必要トスルモ多クハ國有林トハ比較的關係薄キ部落ニ近キモノナリ。

一、國有林野各種事業實行上考慮スベキ事項

(イ) 國有林ト特ニ密接ナル關係ニ在ル諸部落ニ於ケル季節的所在勞力ト事業按配ニ依ル其ノ消化

先ニ掲ゲタル表ハ各村全般ニ於ケル勞力關係ニシテ、同一村内ニ在リテモ部落ニ依リ國有林トノ關係ニ厚薄アルハ勿論ニシテ全部落ノ餘剩勞力ハ當署本年度事業計劃ノ範圍内ニ於テハ如何ナル施設ヲ行フモ消化スルコト到底不可能ナルコト明ナルノミナラズ比較的國有林ニ關係薄キ諸部落ニ就テハ他ニ夫々其ノ部落ノ主要産業ニ基ヅケル機關ノ諸施設ニ依リ勞力ノ消化ヲ計劃セラル可キヲ以テ國有林ニ近接シ常時國有林各種事業ニ出役シ最モ關係深ク國有林ニ依ルニ非ザレバ更生ヲ期シ難キ七日市村明リ又外十一澤口村湯ノ岱外二榮村李岱外二ノ諸部落ニ付勞力ノ季節的分配ヲ考慮シテ其ノ偏在ヲ避ケ且其ノ餘剩勞力ノ消化ヲ企圖セントス。

今右ノ諸部落ニ於ケル所在勞力ヨリ農事ニ要スル勞力其ノ他ヲ控除シ國有林關係事業ニ依リ消化ヲ期待スル勞力ヲ表スレバ第二表ノ如シ。

町 村	四月—六月	七月—九月	十月—十二月	一月—三月	計	備 考
七日市	二、六五五	一八、四〇一	一六、四五五	一五、三九〇	七一、九〇一	
澤 口	七、三〇〇	七、五三五	一、八三六	四、七五九	二一、四九〇	
榮	五、八七七	五、四八〇	一、八五〇	一、四五〇	一四、六五七	
計	三四、九二二	三三、九〇六	二〇、一四一	二二、五九九	一〇〇、〇五七	

而シテ本年度ニ於テハ昨年ニ於ケル冷害凶作ニ依リ四月五月ニ於テ地元民ハ著シク飯米ニ窮ス可キヲ察シ極力多數ノ事業ヲ實行シ勞銀收入ヲ多カラシメンコトヲ期シタリ。

其ノ實行ノ結果ハ第三表ノ通ナリ。

四月、五月實行ノ結果ニ鑑ミ更ニ當年度豫算及要救濟所在勞力其ノ他諸種ノ事情ヲ稽查シ、六月以降ノ各種事業ヲ計劃スルニ第四—第六表ノ如クニシテ冬期ニ於テハ多量ノ事業實行ヲ必要トスルモ造林及土木事業ノ如キ冬期ニ於テ實行不可能ナル事業アルト研伐事業分量不足ニ依リ斯ル結果トナレルモノニシテ是ニ對シテハ製炭其他ノ副業等ニ依リ消化ノ方法ヲ企圖指導セントス。

尙ホ前掲三表ヲ町村別月別ニ取纏ムルニ第七表ノ通りニシテ賃金ノ最モ多額ナルハ四月ニシテ八月、九月是ニ亞キ五月、十月、十一月、十二月、七月ノ順序トナル、前記ノ如ク冬期ニ於テ事業分量ノ減少スル以外他ノ諸月ニ於テハ稍々勞力ノ分配ノ適正ヲ期シ得タルモノト信ズ。

(ロ) 薪材ヨリ用材採取ニ依ル利益ト勞力消化

從來薪炭資材トシテ拂下ゲタル林分中ノ林木ニテモ努メテ用材ヲ採ラントスレバ一〇%以上ノ丸太ヲ採取スルハサシタル困難事ニ非ズ。

タダ取引ノ困難ナルト製炭資材ノ不足ヲ虞レテ實行ヲナサザリシモノナルヲ以テ販賣方法ニ就テハ營林署ニ於テ斡旋シ資材ニ就テハ更ニ考慮スルコト、シ本年度ハ極力集約的潤葉樹利用ヲ獎勵セントス。

應巢町製材所ニ就キ市價ヲ調査スルニ應巢町渡シニテ苹果箱ノ妻板及マグロ箱トシテ利用セラルモノ一立方米當リ九圓二六錢、普通板トナルモノ一二圓八六錢ナリ、當年度各處分個所ニ於ケル生産見込量約二千五百立方米其ノ處分價二萬三千餘圓利益一萬六百餘圓ニテ是ニ依リ消化セラル、勞力七千餘人勞賃八千餘圓ニ及ブ。

詳細ハ第八表ノ通り。

(ハ) 製炭及炭俵製作

管内各村ニ於テ國有林ニ資材ヲ仰ギ製炭事業ヲ營ムモノニ對シテハ既ニ何レモ木炭改良組合ヲ組成セシメ品質ノ改良ト販賣ノ統制トヲ行ハシメ居レリ。
而シテ從來炭俵ハ殆ト地元産ナク他地方ヨリ購入シ來リシガ昨年ヨリ是ガ製作ヲ獎勵シ來タリ着々生産量ヲ増加シ居レリ今製炭及炭俵製作ニ依リ消化セラル、勞力ヲ表スレバ第九表ノ如シ。

(ニ) 事業材料品ノ地元購入

斫伐其ノ他ノ各種事業ニ要スル藁工品ハ從來鷹巢町ニテ町内商人ヨリ購入使用シ來タリタルモ本年度ヨリ地元部落ヨリ購入セントス。
其ノ金額五百四十餘圓ニシテ是ニ依テ消化シ得ル人夫數一千九十餘人ニ達ス。

藁工品所 要量調

種類	斫伐		土木		造林		計	備考
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
藁	1,000貫	50,000	—	—	37貫	16,300	1,37貫	66,300
藁	750枚	11,500	130枚	19,500	5枚	750	885枚	131,750
藁	450丸	157,500	5丸	17,500	24丸	8,100	524丸	183,100
炭	1,400枚	57,600	—	—	—	—	1,400枚	57,600
マ	7枚	9,800	—	—	—	—	7枚	9,800
計	—	433,400	—	37,000	—	75,170	—	544,570

一本當り原料代
編賃〇・〇一五計〇・〇三〇一五

ケ	サ	藁	1,500本	45,000	—	—	1,500本	45,000
ス	ダ	レ	—	—	—	200枚	5,000	200枚
計	—	—	—	433,400	—	75,170	—	544,570

(ホ)

前記國有林各種事業並製炭事業ノ所要勞力ト要使役勞力ト比較スレバ次表ノ通ニシテ尙ホ二萬六千餘人ノ餘剩勞力アルモ當年度内ニ於テ七日市村上舟木林道並ニ摩當林道新設工事施行セラルモノニシテ、其ノ所要人夫數ハ概數前者ハ約三千人後者ハ約二萬人ヲ要スベク、更ニ藁工品等ノ所要勞力ヲ加フルトキハ餘剩勞力ハ殆ト全部消化セラル、見込ナリ。

町	村	要使役延		國有林製		炭		潤葉樹用材		計	差引剩餘	備考
		人夫數	數	炭	潤葉樹用材	炭	潤葉樹用材					
七	日市	7,911	40,913	13,771	6,785	61,469	(10,431)					
澤	口	21,499	10,647	3,934	965	15,546	(5,953)					
榮	—	14,657	1,061	3,424	98	5,013	(9,634)					
計	—	10,807	53,061	21,119	7,848	82,038	(21,619)					

一、國有林野各種制度並施設ニ付擴充刷新スベキ事項

餘剩勞力消化ノ方法トシテ尙ホ由來現金收入寡少ナル農村民ニ現金收入ヲ多カラシムル方法トシテ副業ヲ最適トス。

今回簡易委託林制度ノ實施セラル、ニ當リ其ノ効果ヲ充分ナラシムルタメ山菜ノ加工ヲ主トスル副業ヲ獎勵シ其ノ加工方法ノ指導並ニ販賣ノ斡旋ヲ行ヒ度シ。
 其ノタメ營林局ニ斯道練達ノ士ヲ選任シテ副業係ヲ設ケ常時山村ニ出張シテ其ノ指導助長ニ當ラシムルト同時ニ更ニ當地方ノ實情ニ適合セル新副業ノ研究等ニ當ラシムルヲ適當トス。
 當署ニ於テハ本年度ヨリ雇員一名ヲ選ビ常務ノ傍ヲ副業ノ研究指導ヲナサシメツ、アリ。

三、地元町村經濟組織ニ適合シ指導助長スベキ農山村工業及副業ニ

關スル事項

(イ) 簡易ナル轆轤細工ノ獎勵

從來製炭資材トシテ不適當トサレ薪材ニ用フル以外ニ用途ナカリシとちヲ主トシテ利用シ各種ノ轆轤細工ヲ行ハントス。

(ロ) 官行斫伐跡地ノ土棧柵道用材ノ利用

是等ヲ利用シ屋根根柱及箸等ヲ製作セシメントスルモノニシテ屋根根柱ハ昨年度ヨリ實行シ居リ其ノ昨年度ニ於ケル處分數量ハ次表ノ如ク當署管内黒森澤國有林3及5いニ於ケル調査ノ結果ニ依レバ一立方當二七把ヲ製作シ得ヘク尙ホ一人一日當功程ハ結束迄ニテ七把ナリ。

土棧雪橇道使用材及割枕木ヨリ杉柁小羽製作狀況調

材	積	拂下金額	材	積	拂下金額
杉	三九・〇九	五五、〇〇〇	杉	一五・〇六	二二、一〇〇
丸			丸		
太			太		
人			人		
澤田彌一郎			堀部政治		

材	積	拂下金額	材	積	拂下金額
杉	二・一三	三、五〇〇	杉	二・〇八	七、四八〇
丸			丸		
太			太		
人			人		
高橋龜吉			畠山福之助		
六〇・四八	六〇、四八〇	澤田彌一郎	一・二〇	五、一〇〇	藤原甚助
五・七八	八、六七〇	鈴木梅造	一五・七〇	三三、三〇〇	鈴木梅造
〇・九二	〇、七二〇	成田兵治	四五・八二	七三、三〇〇	堀部政治
一〇八・四〇	一一八、三六〇		九〇・〇四	一三三、四八〇	

(ハ) 炭俵ノ製作

當署管内國有林ニ資材ヲ仰グ製炭者ハ二百四十餘名ニ達シ其ノ一ケ年ノ製炭量ハ十五疋入五萬九千餘俵ニ及ブ。
 而シテ其ノ包装ニ要スル炭俵ハ從來殆ド管外ノ製品ヲ購入使用シ來リタルモノナルヲ以テ昨年度ヨリ是ヲ自足セシムル様指導シ來リタルモノニシテ其ノ原料タル萱ハ國有林内及民有地ニ相當豊富ニ生産セラル、モノナルヲ以テ簡易委託林ノ實施ト共ニ益々其ノ指導ヲ行ハントス。

(ニ) 山菜加工

簡易委託林ノ實施ニ依リ無償ニテ讓與セラル、副産物ハ次表ノ通りニシテ是等山菜ヲ協同販賣或ハ加工セシメ有利ニ處分シテ地元村民ニ現金收入ヲ得サシメ經濟更生ヲ期セントスルモノニシテ就中ぜんまいノ乾燥加工及筍ノ罐詰製造ヲ行ハシメントス。

筍ノ罐詰ノ設備ニハ約二百五十圓ヲ要ス、其ノ概要次ノ如シ。

1 卷 締 器 一 臺 八 十 五 圓

- 2 同取替用チャック 二個
- 3 脱氣装置 二十個
- 4 水積用樽 二十個
- 5 釜 二十個
- 6 殺菌用籠 二十五個
- 7 眞空計 十個
- 8 三角ヤスリ 三個
- 9 ボルメ比重計 一個
- 10 其ノ他寒暖計筒定規等 一圓

簡易委託林ニ於ケル讓與副産物表

村	擔當區	面積	蔬菜		樹實		菌蕈		萱		桑葉		筍		蔓類	
			數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格
七日市	葛黒	五、四八五、ha	一〇、九四二	二・九八	一、〇五七	五・三八	二、七四八	四・二二三	五五〇	五・五〇	二、七四八	一三・七四	一、〇九九	五・四九	五五〇	二・七五
上舟木	澤山	九五〇、九三	三、〇〇〇	六・〇〇〇	二六六	一・三三	二六六	三・九九	五三	〇・五三	二六六	一・三三	二六六	一・三三	五三	〇・二六
澤口坊	山	三、六六〇	八、〇〇〇	七・三三	二六六	一・三三	二六六	三・九九	五三	〇・五三	二六六	一・三三	二六六	一・三三	五三	〇・二六
西館坊	山	五九八、九六一	三、三三五	六・六五	三三三	一・六六	三三三	四・九九	六七	〇・六七	三三三	一・六六	三三八	一・六四	六七	〇・三三
榮摩當	山	一、〇四六	五、一三五	一〇・四七	五二四	二・六二	四九	六・二八	一〇五	一・〇五	五二四	二・六二	五二四	二・六二	一〇五	五・二五
計		七、七六二	三三、二二四	四六・四二	二、一八〇	一〇・八九	三、七六六	五六・四八	七七五	七・七五	三、八七一	一九・三五	二、二二七	一一・〇八	七七五	八・五九
		七、七六二	三三、二二四	四六・四二	二、一八〇	一〇・八九	三、七六六	五六・四八	七七五	七・七五	三、八七一	一九・三五	二、二二七	一一・〇八	七七五	八・五九
		七、七六二	三三、二二四	四六・四二	二、一八〇	一〇・八九	三、七六六	五六・四八	七七五	七・七五	三、八七一	一九・三五	二、二二七	一一・〇八	七七五	八・五九

(備考) 蔬菜ノ欄ニ於テ()ヲ附セルハぜんまいヲ内書セルモノトス

四、其他參考事項

特記スベキコトナシ

者數見込調

昭

第一表

日 市			西		
元 延 數	其 人 頭	他 延 數	地 人 頭	元 延 數	其 人 頭
7,022	96	1,920	40	1,055	
7,888	105	2,625	55	1,570	
1,690	51	510	13	130	
16,600		5,055		2,755	
4,477	64	1,600	23	575	
3,685	81	1,620	25	500	
5,169	74	1,850	33	825	
13,331		5,070		1,900	
3,890	58	1,190	38	760	
4,475	51	1,275	14	350	
4,450	47	1,175	14	350	
12,815		3,640		1,460	
4,340	47	940	21	525	
3,350	48	740	42	840	
4,400	86	1,620	43	860	
12,090		3,300		2,225	
54,836	126	17,065	66	8,340	

(鷹表一)

村 別	關 係 部 落 名	施 業
七 日 市	葛黒與助岱大畑	字 葛
	上 舟 木	字 田
	三ノ渡與助岱	字 黒
	與助岱葛黒	葛 黒 岱
	計	
澤	小 森 甲	小 森
	堂 ケ 岱	堂 ケ
	中 屋 敷	中 屋
	小 森 乙	小 森
口	小 ケ 田	小 ケ
	湯ノ岱坊山	小 森 西
	四 渡 小 森	
	計	
榮	摩 當	摩 當 大
	大 澤	同
	田 澤	吉 ケ
	田 澤	根 洗
太	太 田	摩 當 田
	計	太
合 計		

第一表

昭和十年年度實行豫定土木事業

地元町村

村別	關係部落名	施業個所	施業期間	道路費	延長	總經費	人夫賃	材料費	其他	其ノ他内譯				人夫		經費負擔關係			
										雜費	設計費	監督費	漬地買收費	人頭數	延人員	種別	金額	種別	金額
七日市	葛黑與助岱大畑	字 葛 黑	自 10.7.1 至 10.7.30	災害復舊工事 橋 延長	24m6	3,206.00	664.27	2,341.73	200.00	90.00	70.00	40.00	—	60	1,340	縣 補	2,109.00	村 負擔	1,097.00
	上 舟 木	字 田 代 澤	10.7.1	道路復舊工事	市3m	2,254.00	836.77	1,267.23	150.00	60.00	40.00	50.00	—	75	1,673	"	767.00	"	1,487.00
	三ノ渡與助岱	字 黑 森	10.10.1	用水用隧道 布設工事	40m	1,000.00	735.00	100.00	165.00	135.00	30.00	—	—	52	1,225	"	667.00	地元負擔	333.00
	與助岱葛黑	葛 黑 岱 字 片 逸	10.10.1	皇太子殿下 記念造林事業	市3m	624.30	299.90	284.40	40.00	125人 13.00	—	27.00	—	43	599	"	317.00	村 負擔	307.30
	計					7,084.30	2,535.94	3,993.36	555.00	298.00	140.00	117.00	—	230	4,837		3,860.00	村 負擔 地元負擔	2,891.30 333.00
澤口	小 森 甲	小 森 橋	自 10.11.1 至 10.12.30	災害復舊工事 村 道 橋	24m6	1,837.52	404.57	1,255.03	177.92	57.60	53.52	66.80	—	(37)	517	縣 補	1,225.00	部落負擔	612.52
	堂 ケ 岱	堂 ケ 岱 橋	10.10.1	"	60 # 6	4,763.75	729.66	3,571.83	462.26	234.71	138.75	88.80	—	211	914	"	3,175.00	"	1,588.75
	中 屋 敷	中 屋 敷 橋	10.11.15	"	30 # 6	3,088.90	548.46	2,260.12	280.32	121.92	89.90	68.50	—	42	735	"	2,057.00	"	1,031.90
	小 森 乙	小 森 橋	10.12.30	"	45 # 6	3,257.89	566.03	2,418.80	273.06	99.57	94.89	78.60	—	45	713	"	2,172.00	"	1,085.89
	小 ケ 田	小 ケ 田 橋	10.12.15	"	57 # 0	4,370.70	670.90	3,290.80	409.00	203.30	120.70	85.00	—	40	747	"	2,918.00	"	1,452.70
	湯ノ岱坊山 四渡小森	小森ヨリ西館村界	10.1.20	"	40 # 0	697.03	245.71	384.64	66.68	31.00	20.28	15.40	—	73	409	"	465.00	"	232.03
	計					18,015.79	3,165.33	13,181.22	1,669.24	748.10	518.04	403.10	—	(37) 411	4,035		12,012.00		6,003.79
榮	摩 當 澤	摩 當 大 澤 間	自 10.7.20 至 10.8.10	村 道 修 繕	2,100m	246.00	246.00	—	—	—	—	—	—	28	410	縣 補	164.00	村 負擔	82.00
	大 澤	同 上	10.8.20	"	1,000	102.00	102.00	—	—	—	—	—	—	11	170	"	68.00	"	34.00
	"	吉 ケ 澤	10.9.10	"	3ha	49.80	49.80	—	—	—	—	—	—	(6)	83	"	33.20	"	16.60
	田 澤	根 洗 澤	10.11.20	村 有 造 林 地 植	市2m	55.80	55.80	—	—	—	—	—	—	7	93	"	37.20	"	18.60
	"	摩 當 田 澤 間	10.5.1	新 有 造 林 地 植	930m	126.00	126.00	—	—	—	—	—	—	(7)	210	"	84.00	"	42.00
	太 田	太 田	10.7.1	村 道 修 繕	1,260m	1,051.80	1,051.80	—	—	—	—	—	—	33	1,753	"	701.20	耕地所有 負擔主ト シテ太田 摩當部落 民	350.60
	計					4,000m	1,631.40	1,631.40	—	—	—	—	—	(13) 79	2,719		1,087.60		543.80
合 計						26,731.49	7,332.67	17,174.58	224.24	1,046.10	658.04	520.10	—	(50) 720	11,591		16,959.60		9,771.89

(鷹表1)

第三表

要救濟人員	營林署	救濟	見實增(減)	込行(減)
7,888	見實增(減)	込行(減)		
1,695	見實增(減)	込行(減)		
2,110	見實增(減)	込行(減)		
1,055	見實增(減)	込行(減)		
1,570	見實增(減)	込行(減)		
160	見實增(減)	込行(減)		
992	見實增(減)	込行(減)		
2,270	見實增(減)	込行(減)		
2,290	見實增(減)	込行(減)		
1,480	見實增(減)	込行(減)		
1,715	見實增(減)	込行(減)		
13,682	見實增(減)	込行(減)		
16,565	見實增(減)	込行(減)		

第二表

町村別月別要救濟勞働者數見込調

昭和十年度

月別	榮				澤				口				七日市				西館				計			
	地		元		其		他		地		元		其		他		地		元		其		他	
	人頭	延數	人頭	延數	人頭	延數	人頭	延數	人頭	延數	人頭	延數	人頭	延數	人頭	延數	人頭	延數	人頭	延數	人頭	延數	人頭	延數
四月	91	2,270	36	430	68	1,695	75	1,560	286	7,022	96	1,920	40	1,055			485	12,042	207	3,910				
五月	91	2,290	36	387	85	2,110	67	1,575	358	7,888	105	2,625	55	1,570			589	13,858	208	4,587				
六月	33	400	5	100	20	200	24	240	176	1,690	51	510	13	130			242	2,420	80	850				
小計		4,960		917		4,005		3,375		16,600		5,055		2,755				28,320		9,347				
七月	77	1,430	34	440	46	1,150	49	1,225	207	4,477	64	1,600	23	575			353	7,632	147	3,265				
八月	77	1,330	35	530	51	1,275	55	1,100	231	3,685	81	1,620	25	500			384	6,790	171	3,250				
九月	77	1,330	36	420	51	1,275	60	1,500	236	5,169	74	1,850	33	825			397	8,599	170	3,770				
小計		4,090		1,390		3,700		3,825		13,331		5,070		1,900				23,021		10,285				
十月	53	1,060	18	290	32	640	28	300	234	3,890	58	1,190	38	760			357	6,350	104	1,780				
十一月	10	250			19	275	19	29	192	4,475	51	1,275	14	350			235	5,350	70	1,304				
十二月	10	250			22	350	27	242	189	4,450	47	1,175	14	350			235	5,400	74	1,417				
小計		1,560		290		1,265		571		12,815		3,640		1,460				17,100		4,501				
一月	18	450			33	660	25	583	190	4,340	47	940	21	525			262	5,975	72	1,523				
二月	20	400			38	570	44	685	191	3,350	48	740	42	840			291	5,160	92	1,425				
三月	30	600			44	880	68	1,380	220	4,400	86	1,620	43	860			337	6,740	154	3,000				
小計		1,450				2,110		2,648		12,090		3,300		2,225				17,875		5,948				
合計	109	12,060	43	2,597	102	11,080	90	10,419	429	54,836	126	17,065	66	8,340			706	86,316	259	30,081				

(鷹表二)

事業人夫出役見込調表

人	夫	町			村
		七	日	市	
延人数	勞銀	延人数	賃金	延人数	延人数
2,736	1,487	1,573	789	530	
1,887	1,390	1,408	1,019	126	
1,269	406	1,199	384	—	
25	15	15	9	—	
5,917	3,298	4,195	2,201		
1,713	1,068	765	460	—	
7,630	4,366	4,960	2,661	656	
1,699	838	909	421	420	
278	137	223	101	55	
285	95	275	89	—	
3,675	2,411	2,218	1,422	126	
596	265	556	253	—	
145	45	145	45	—	
186	126	28	9	55	
594	317	594	317	—	
172	132	12	4	—	
—	—	—	—	—	
—	—	—	—	—	
7,630	4,366	4,960	2,661	656	

第三表

(町)村	月別	要救濟人員	營林署救濟
七日市	四月	7,022	見込増(減) 込行
	五月	7,888	見込増(減) 込行
澤口	四月	1,695	見込増(減) 込行
	五月	2,110	見込増(減) 込行
西館	四月	1,055	見込増(減) 込行
	五月	1,570	見込増(減) 込行
(鷹巢)	四月	160	見込増(減) 込行
	五月	992	見込増(減) 込行
榮	四月	2,270	見込増(減) 込行
	五月	2,290	見込増(減) 込行
其他	四月	1,480	見込増(減) 込行
	五月	1,715	見込増(減) 込行
計	四月	13,682	見込増(減) 込行
	五月	16,565	見込増(減) 込行

(鷹表三)

第二表

町村別月別要救濟労働

月別	榮				澤口				七地
	元		其他		元		其他		
	地人頭	延數	地人頭	延數	地人頭	延數	地人頭	延數	
四月	91	2,270	36	430	68	1,695	75	1,560	286
五月	91	2,290	36	387	85	2,110	67	1,575	358
六月	33	400	5	100	20	200	24	240	176
小計		4,960		917		4,005		3,375	
七月	77	1,430	34	440	46	1,150	49	1,225	207
八月	77	1,330	35	530	51	1,275	55	1,100	231
九月	77	1,330	36	420	51	1,275	60	1,500	236
小計		4,090		1,390		3,700		3,825	
十月	53	1,060	18	290	32	640	28	300	234
十一月	10	250			19	275	19	29	192
十二月	10	250			22	350	27	242	189
小計		1,560		290		1,265		571	
一月	18	450			33	660	25	583	190
二月	20	400			38	570	44	685	191
三月	30	600			44	880	68	1,380	220
小計		1,450				2,110		2,648	
合計	109	12,060	43	2,597	102	11,080	90	10,419	429

第三表

四・五月ニ於ケル豫定實行對照表

(町)村	月別	要救濟人員	營林署救濟	斫勞力及賃金		伐林勞力及賃金		土木勞力及賃金		官行造林勞力及賃金		其他勞力及賃金		計勞力及賃金		要救濟人員ト實行トノ對比		備考
				延人員	金額	延人員	金額	延人員	金額	延人員	金額	延人員	金額	延人員	金額	延人員	金額	
七日市	四月	7,022	見達 實行 増(減)	5,288.00 5,366.00 78.00	4,116.00 4,773.67 657.67	1,306.00 909.50 (396.50)	727.00 420.62 (306.38)	267.00 — (267.00)	187.00 — (187.00)	113.00 109.00 (4.00)	71.00 64.25 (6.75)	2,588.00 2,588.00 0	— — —	9,562.00 8,972.50 (589.50)	5,101.00 5,258.54 157.54	1,950.50	128	
	五月	7,888	見達 實行 増(減)	1,795.00 3,528.00 1,733.00	2,010.00 3,206.94 1,196.94	1,351.00 222.50 (1,128.50)	883.00 101.76 (781.24)	287.00 — (287.00)	208.00 — (208.00)	55.00 120.00 65.00	40.00 72.00 32.00	2,588.00 2,588.00 0	— — —	6,076.00 6,458.50 382.50	3,141.00 3,380.70 239.70	(1,429.50)	82	
澤口	四月	1,695	見達 實行 増(減)	546.00 1,352.50 806.50	492.00 1,468.69 976.69	119.00 419.50 300.50	81.00 227.73 146.73	— — —	— — —	— — —	— — —	700.00 700.00 0	— — —	1,365.00 2,472.00 1,107.00	573.00 1,696.42 1,123.42	777.00	146	
	五月	2,110	見達 實行 増(減)	234.00 1,111.00 877.00	257.00 1,129.55 872.55	175.00 55.00 (120.00)	140.00 36.50 (103.50)	166.00 — (166.00)	116.00 — (116.00)	— — —	— — —	700.00 700.00 0	— — —	1,275.00 1,866.00 591.00	513.00 1,166.05 653.05	(244.00)	88	
西館	四月	1,055	見達 實行 増(減)	454.00 370.00 (84)	409.00 473.06 64.06	491.00 251.00 (240.00)	267.00 118.52 (148.48)	— — —	— — —	— — —	— — —	350.00 350.00 0	— — —	1,295.00 971.00 (324.00)	676.00 591.58 (84.42)	(84.00)	92	
	五月	1,570	見達 實行 増(減)	192.00 286.00 94.00	212.00 353.20 151.20	208.00 — (208.00)	153.00 — (153.00)	80.00 — (80.00)	56.00 — (56.00)	— — —	— — —	350.00 350.00 0	— — —	830.00 636.00 (194.00)	421.00 363.20 (57.80)	(934.00)	41	
(鷹巢)	四月	160	見達 實行 増(減)	241.00 480.00 239.00	234.00 434.19 200.19	— 13.00 13.00	— 13.52 13.52	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	241.00 493.00 252.00	234.00 447.71 213.71	333.00	308	
	五月	992	見達 實行 増(減)	194.00 1,371.00 1,177.00	200.00 1,177.25 977.25	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	194.00 1,371.00 1,177.00	200.00 1,177.25 977.25	379.00	139	
榮	四月	2,270	見達 實行 増(減)	— — —	— — —	415.00 119.00 (296.00)	297.00 70.07 (226.93)	— — —	— — —	180.00 98.00 (82.00)	90.00 58.65 (31.35)	1,050.00 1,050.00 0	— — —	1,645.00 1,267.00 (378.00)	387.00 128.72 (258.28)	(1,003.00)	56	
	五月	2,290	見達 實行 増(減)	— — —	— — —	269.00 — (269.00)	214.00 — (214.00)	188.00 — (188.00)	141.00 — (141.00)	76.00 25.00 (51.00)	45.00 15.00 (30.00)	1,050.00 1,050.00 0	— — —	1,583.00 1,075.00 (508.00)	400.00 15.00 (385.00)	(1,215.00)	47	
其他	四月	1,480	見達 實行 増(減)	910.00 98.00 (812)	827.00 110.38 (716.62)	311.00 — (311.00)	100.00 — (100.00)	— — —	— — —	90.00 — (90.00)	42.00 — (42.00)	100.00 100.00 0	— — —	1,411.00 198.00 (1,213.00)	969.00 110.38 (858.62)	(1,282.00)	13	
	五月	1,715	見達 實行 増(減)	481.00 270.00 (211)	505.00 373.90 (131.10)	74.00 — (74.00)	24.00 — (24.00)	— — —	— — —	32.00 — (32.00)	20.00 — (20.00)	100.00 100.00 0	— — —	687.00 370.00 (317.00)	549.00 373.90 (175.10)	(1,345.00)	22	
計	四月	13,682	見達 實行 増(減)	7,439.00 7,666.50 227.50	6,078.00 7,259.99 1,181.99	2,642.00 1,712.00 (930.00)	1,472.00 850.46 (621.54)	267.00 — (267.00)	187.00 — (187.00)	383.00 207.00 (176.00)	203.00 122.90 (80.10)	4,788.00 4,788.00 0	— — —	15,519.00 14,373.50 (1,145.50)	7,940.00 8,233.35 293.35	691.50	105	
	五月	16,565	見達 實行 増(減)	2,896.00 6,566.00 3,670.00	3,184.00 6,250.84 3,066.84	2,077.00 277.50 (1,799.50)	1,414.00 138.26 (1,275.74)	721.00 — (721.00)	521.00 — (521.00)	163.00 145.00 (18.00)	105.00 87.00 (18.00)	4,788.00 4,788.00 0	— — —	10,645.00 11,776.50 1,131.50	5,224.00 6,476.10 1,252.10	(4,788.50)	71	

(鷹表三)

第二表

月別	榮	
	地頭	元延數
四月	91	2,270
五月	91	2,290
六月	33	400
小計		4,960
七月	77	1,430
八月	77	1,330
九月	77	1,330
小計		4,090
十月	53	1,060
十一月	10	250
十二月	10	250
小計		1,560
一月	18	450
二月	20	400
三月	30	600
小計		1,450
合計	109	12,060

第四表

昭和十年度町村別造林事業人夫出役見込調表

記番	小字	林小班	面積	事業種	經費	人夫		町村別内譯							
						延人数	勞銀	七日市		澤口		西館		榮	
								延人数	賃金	延人数	賃金	延人数	賃金	延人数	賃金
5—10		98.84.59.	ha 31.98	新植補植地拵等	1,631	2,736	1,487	1,573	789	530	298	411	247	222	153
34—38		132.112.115.			1,390	1,887	1,390	1,408	1,019	126	76	140	98	213	197
45		98.外16	214.84	撫育	970	1,269	406	1,199	384	—	—	35	11	35	11
試験		七日市外3	0.84	苗圃	124	25	15	15	9	—	—	—	—	10	6
		小計			4,115	5,917	3,298	4,195	2,201						
官行造林			317.44	撫育	1,068	1,713	1,068	765	460	—	—	—	—	948	608
		合計			5,183	7,630	4,366	4,960	2,661	656	374	586	356	1,428	975
					4月	1,699	838	909	421	420	228	251	119	119	70
					5月	278	137	223	101	55	36	—	—	—	
				月	6月	285	95	275	89	—	—	—	—	10	6
					7月	3,675	2,411	2,218	1,422	126	76	155	103	1,176	810
				別	8月	596	265	556	253	—	—	20	6	20	6
					9月	145	45	145	45	—	—	—	—	—	—
					10月	186	126	28	9	55	34	—	—	103	83
				一	11月	594	317	594	317	—	—	—	—	—	—
					12月	172	132	12	4	—	—	160	128	—	—
				覽	1月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					2月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					3月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					計	7,630	4,366	4,960	2,661	656	374	586	356	1,428	975

(鷹表四)

小字
林小
門ヶ澤
倉ノ澤
寒澤
小タラ澤
十杭澤
畑ノ澤
矢杉澤
十杭
小タラ澤
5
57,106
鐵道運材
共通

土木費事業人夫出役月

月	八月		九月		十月	
	金額	延人夫數	金額	延人夫數	金額	延人夫數
7	100	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—
	—	8	5	—	—	—
	—	8	5	—	—	—
	—	—	—	—	—	—
5	15	—	—	—	—	—
	—	93	56	—	—	—
5	500	715	500	715	500	715
4	625	824	566	715	500	715
3	50	100	60	—	—	—
7	88	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—
0	138	100	60	—	—	—
	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—
	763	924	626	715	500	715

第五表

生産口座	記番	小字	林小
Ⅱ	3	門ヶ澤	
Ⅱ	6	倉ノ澤	
I	7	寒澤	
I	2	小タタラ澤	
I	1	十杭澤	
I	4	畑ノ澤	
Ⅲ	5	矢杉澤	
I	9	十杭澤 小タタラ澤	
Ⅲ	8		5 57、106
	10	鐵道運材	
	12	共通	
計			

(應表五)

第四表

昭和十年度町村別造林

記番	小字	林小班	面積	事業種	經費
5—10		98. .84. 59.	ha		1,631
34—38		132. 112. 115.	31.98	新植補植地拵等	1,390
45		98. 外16	214.84	撫育	970
試験		七日市外3	0.84	苗圃	124
		小計			4,115
官行造林			317.44	撫育	1,068
		合計			5,183
					4月
					5月
					6月
					7月
					8月
					9月
					10月
					11月
					12月
					1月
					2月
					3月
					計

月別一覽

第五表

昭和十年度斫伐事業實行計畫並 = 町村別人夫出役見込表

生産口座	記番	小字	林小班	樹材種	材積	山元實行		鐵道運材		經費	人夫賃		人夫賃ノ町村別内譯								備考
						期間	日數	期間	日數		延人夫數	金額	七日市村70%		澤口村18%		鷹巣町5%		其ノ他7%		
													延人夫數	金額	延人夫數	金額	延人夫數	金額	延人夫數	金額	
II	3	門ヶ澤	38㍓	杉外二	1,931		自5,1 至5,31	31	2,882	2,005	2,306	1,403	1,614	362	416	100	115	140	161	他村トハ西館村, 下小阿仁方面及榮村トス但シ榮村ハ記入8號處ノ收入間伐事業ノ一部ニ出役スルノミトス	
II	6	倉ノ澤	124㍓	杉	2,055	自4,1 至4,20	20	3,453	3,428	2,384	2,394	1,355	587	588	268	190	179	251			
I	7	寒澤	128㍓	杉一外	2,877	4,21 9,30	163	11,528	10,398	10,658	6,544	6,675	1,813	1,938	1,217	1,000	824	1,045			
I	2	小タタラ澤	20㍓, ㍓	杉	2,890	4,21 8,10	112	5,874	4,086	4,699	2,860	3,289	736	846	204	235	286	329			
I	1	十杭澤	63㍓	杉外二	3,307	8,11 9,30	51	8,631	6,526	7,505	4,569	5,254	1,175	1,351	326	375	456	525			
I	4	畑ノ澤	121㍓	杉外一	2,811	10,1 12,31	92	11,949	8,183	9,410	5,728	6,587	1,473	1,694	410	471	572	658			
III	5	矢杉澤	120㍓, ㍓	杉外一	4,245	1,1 3,31	90	9,215	6,758	7,772	4,730	5,440	1,217	1,399	338	389	473	544			
I	9	十杭小タタラ澤	63㍓ 20㍓	盤板丸 樽丸	64	5,15 9,30		608	423	486	296	340	76	87	21	24	30	35			
III	8		55㍓, 56㍓ 57㍓, 106㍓, 107㍓	杉間伐木	199	9月ト 3月		429	298	343			209	240			89	103			
	10	鐵道運材		杉外二	15,935		自5,1 至12,12		23,610	9,239	10,625	3,782	4,349	1,577	1,813	3,234	3,719	646	744		
	12	共通						8,059													
計					II 15,935 III 4,444				86,238	51,344	56,188	32,306	34,903	9,225	10,372	6,118	6,518	3,695	4,395		
								4月	7,667	7,260	5,367	4,774	1,353	1,469	480	434	467	583	出役歩合15%		
								5	6,566	6,251	3,528	3,207	1,111	1,130	1,371	1,177	556	737	" 13		
								6	3,491	4,015	2,110	2,427	616	708	520	598	245	282	" 7		
								7	3,491	4,015	2,110	2,427	616	708	520	598	245	282	" 7		
								8	5,724	6,583	3,671	4,222	1,020	1,173	632	727	401	461	" 10		
								9	5,871	6,752	3,671		1,122	1,290	632	727	446	513	" 11		
								月別町村別人夫數	10	3,884	4,466	2,383	2,740	688	791	541	622	272	313	" 8	
								11	3,884	4,466	2,383	2,740	688	791	541	622	272	313	" 8		
								12	3,884	4,466	2,383	2,740	688	791	541	622	272	313	" 8		
								1	2,254	2,592	1,577	1,813	406	467	113	130	158	182	" 4		
								2	2,254	2,592	1,577	1,813	406	467	113	130	158	182	" 4		
								3	2,374	2,730	1,546	1,778	511	587	114	131	203	234	" 5		
								計	51,344	56,188	32,306	34,903	9,225	10,372	6,118	6,518	3,695	4,395	100		

(鷹表五)

第四

記番	小字
5—10	
34—38	
45	
試験	
官行造林	

第六表

昭和十年度森林費土木費事業人夫出役見込調表

町村	個所	豫定 總經費	人夫賃		四 月		五 月		六 月		七 月		八 月		九 月		十 月		十一月		十二月		一 月		二 月		三 月		備 考	
			延人 夫數	金額	延人 夫數	金額	延人 夫數	金額	延人 夫數	金額	延人 夫數	金額	延人 夫數	金額	延人 夫數	金額	延人 夫數	金額	延人 夫數	金額	延人 夫數	金額	延人 夫數	金額	延人 夫數	金額	延人 夫數	金額		
七日市	七日市改修	255	217	130	—	—	—	—	50	30	167	100	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	出役 町村 七日 市
	抱返改修	80	133	80	—	—	50	30	83	50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	苗圃下堤排水渠	35	8	5	—	—	—	—	—	—	—	—	8	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	中畑明渠	35	8	5	—	—	—	—	—	—	—	—	8	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	仙戸石一號橋盛土	10	17	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	仙戸石二號橋盛土	15	25	15	—	—	—	—	—	—	—	25	15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	仙戸石分線三渡盛土	68	93	56	—	—	—	—	—	—	—	—	93	56	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
上舟木牛馬道	3,000	3,667	2,200	—	—	—	—	—	—	—	715	500	715	500	715	500	715	500	286	200	—	—	—	—	—	—	—	—		
澤 口	計	3,498	4,168	2,501	—	—	50	30	133	80	924	625	824	566	715	500	715	500	286	200	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	小森分岐點改修	170	183	110	—	—	—	—	—	—	83	50	100	60	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	砂利撒布	150	250	150	—	—	103	62	—	—	147	88	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	四渡改修	350	333	200	—	—	162	88	171	112	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
榮	計	670	766	460	—	—	265	150	171	112	230	138	100	60	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	摩當林道車道修繕	84	73	44	—	—	—	—	73	44	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
共 通	計	84	73	44	—	—	—	—	73	44	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	計	444																											—	
合 計	計	4,696	5,007	3,005	—	—	315	180	206	124	1,154	763	924	626	715	500	715	500	286	200	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	計	444																											—	

(鷹表七)

(鷹表六)

第六表

昭和十年度森林費

町村	個所	豫定 總經費	人夫賃		四 月		五 月		六 月		七 月
			延人 夫數	金額	延人 夫數	金額	延人 夫數	金額	延人 夫數	金額	
七日市	七日市改修	255	217	130	—	—	—	—	50	30	16
	抱返改修	80	133	80	—	—	50	30	83	50	—
	苗圃下堤排水渠	35	8	5	—	—	—	—	—	—	—
	中畑明渠	35	8	5	—	—	—	—	—	—	—
	仙戸石一號橋盛土	10	17	10	—	—	—	—	—	—	—
	仙戸石二號橋盛土	15	25	15	—	—	—	—	—	—	2
	仙戸石分線三渡盛土	68	93	56	—	—	—	—	—	—	—
	上舟木牛馬道	3,000	3,667	2,200	—	—	—	—	—	—	71
	計	3,498	4,168	2,501	—	—	50	30	133	80	92
澤口	小森分岐點改修	170	183	110	—	—	—	—	—	—	8
	砂利撒布	150	250	150	—	—	103	62	—	—	14
	四渡改修	350	333	200	—	—	162	88	171	112	—
	計	670	766	460	—	—	265	150	171	112	230
榮	摩當林道車道修繕	84	73	44	—	—	—	—	73	44	—
	計	84	73	44	—	—	—	—	73	44	—
共通	計	444									
	計	444									
	合計	4,696	5,007	3,005	—	—	315	180	206	124	1,154

(應表七)

第七表

昭和十年度町村別月別使役人夫及賃金表

月別	七日市		澤口		榮		其他		計		總賃金 月
	延人員	賃金	延人員	賃金	延人員	賃金	延人員	賃金	延人員	賃金	
4	6,276	5,195.00	1,773	1,697.00	119	70.00	1,198	1,136.00	9,366	8,098.00	
5	3,801	3,338.00	1,431	1,316.00	—	—	1,927	1,914.00	7,159	6,568.00	
6	2,518	2,596.00	787	820.00	83	50.00	765	880.00	4,153	4,346.00	
7	5,252	4,474.00	972	922.00	1,176	810.00	920	983.00	8,320	7,189.00	
8	5,051	5,041.00	1,120	1,233.00	20	6.00	1,053	1,194.00	7,244	7,474.00	
9	4,531	4,767.00	1,122	1,290.00	—	—	1,078	1,240.00	6,731	7,277.00	
10	3,126	3,249.00	743	825.00	103	83.00	813	935.00	4,785	5,092.00	
11	3,263	3,257.00	688	791.00	—	—	813	935.00	4,764	4,983.00	
12	2,395	2,744.00	688	791.00	—	—	973	1,063.00	4,056	4,598.00	
1	1,577	1,813.00	406	467.00	—	—	271	312.00	2,254	2,592.00	
2	1,577	1,813.00	406	467.00	—	—	271	312.00	2,254	2,592.00	
3	1,546	1,778.00	511	587.00	—	—	317	365.00	2,374	2,730.00	
計	40,913	40,065.00	10,647	11,206.00	1,501	1,019.00	10,399	11,269.00	63,460	63,559.00	

第七表

昭和十年度町村別月別使役人夫及賃金表

月別	七日市		澤口		榮		其他		計		總賃金ニ對スル月別%
	延人員	賃金	延人員	賃金	延人員	賃金	延人員	賃金	延人員	賃金	
4	6,276	5,195.00	1,773	1,697.00	119	70.00	1,198	1,136.00	9,366	8,098.00	13
5	3,801	3,338.00	1,431	1,316.00	—	—	1,927	1,914.00	7,159	6,568.00	10
6	2,518	2,596.00	787	820.00	83	50.00	765	880.00	4,153	4,346.00	7
7	5,252	4,474.00	972	922.00	1,176	810.00	920	983.00	8,320	7,189.00	11
8	5,051	5,041.00	1,120	1,233.00	20	6.00	1,053	1,194.00	7,244	7,474.00	12
9	4,531	4,767.00	1,122	1,290.00	—	—	1,078	1,240.00	6,731	7,277.00	12
10	3,126	3,249.00	743	825.00	103	83.00	813	935.00	4,785	5,092.00	8
11	3,263	3,257.00	688	791.00	—	—	813	935.00	4,764	4,983.00	8
12	2,395	2,744.00	688	791.00	—	—	973	1,063.00	4,056	4,598.00	7
1	1,577	1,813.00	406	467.00	—	—	271	312.00	2,254	2,592.00	4
2	1,577	1,813.00	406	467.00	—	—	271	312.00	2,254	2,592.00	4
3	1,546	1,778.00	511	587.00	—	—	317	365.00	2,374	2,730.00	4
計	40,913	40,065.00	10,647	11,206.00	1,501	1,019.00	10,399	11,269.00	63,460	63,559.00	100

(鷹表七)

第六表

町村	個所	豫定總經費
七日市	七日市改修	255
	抱返改修	80
	苗圃下堤排水渠	35
	中畑明渠	35
	仙戸石一號橋盛土	10
	仙戸石二號橋盛土	15
	仙戸石分線三渡盛土	68
	上舟木牛馬道	3,000
	計	3,498
澤口	小森分岐點改修	170
	砂利撒布	150
	四渡改修	350
	計	670
榮	摩當林道車道修繕	84
	計	84
共通		444
	計	444
	合計	4,696

第九表

一ヶ年拂下量 (稼用)		
用材	薪材	總
1,958	4,783	6
130	1,366	1
228	1,189	1
172	890	1
2,488	8,228	10

1, 用材ハ丸太材積ニシテ
 2, 薪材々積ハ全部製炭ニ
 3, 1m³ニ付木炭15kg入7.2
 4, 1人1日生産高3俵

第八表

潤葉樹立木處分個所ニ於ケル集約利用計畫表

村	字	林小班	面積	處分材積			拂下價額		作業費		費用價		處分價		利益		處用 ² 人夫數		備																																											
				用材	薪材ヨリ向上セル材積	計	單價	總額	單價	總額	單價	總額	單價	總額	單價	總額	延人夫數	金額																																												
七日市	門ヶ澤	36に	2.25	23	64	87	0,800	69	4,100	357	4,900	426	9,260	806	380	244	268	1, 作業費ノ75%人夫賃トス 2, 處分價1m ³ 當リ9,260ハ鷹巢市場ノ處分價トス 主トシテ杭木, 苹果箱, マグロ, 魚箱及普通ノ板ノ原料トス																																												
	下舟木, 吉ヶ澤, 深澤	112ウ	6.11	55	159	214	0,500	107	4,500	963	5,000	1,070	"	1,982	912	656	722																																													
	上舟木	115ウ	11.98	47	229	276	0,500	138	4,500	1,242	5,000	1,380	"	2,556	1,176	847	932																																													
	門ヶ澤	20に	0.26		4	4	0,800	3	4,100	16	4,900	19	"	37	18	11	12																																													
	七日市, 妹尾館, 根木, 大畑, 中畑, 葛黒, 根木屋敷	39に	4.95	39	93	132	0,700	92	4,100	541	4,800	633	"	1,222	589	369	406																																													
西館	明又, 松澤, 三ノ渡, 黒森, 與助岱	121に	2.55	12	58	70	0,700	49	4,150	291	4,850	340	"	648	308	198	218	参考ノタメ之等ノ製作費及處分價ヲ調査スルニ次ノ如シ																																												
	小坪澤, 水澤, 白澤	58にへ	2.02	3	22	25	0,800	20	4,200	105	5,000	125	"	232	107	72	79																																													
	坊山, 小森, 四渡, 湯ノ岱	84ウ	1.50		24	24	0,700	16	4,100	98	4,800	114	"	222	108	67	74																																													
榮	湯ノ岱, 坊山	80ろ	0.66	4	7	11	0,700	7	4,100	45	4,800	52	"	102	50	31	34	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種類</th> <th colspan="4">製作費 m當リ</th> <th colspan="4">販賣 m當リ</th> </tr> <tr> <th>資材</th> <th>製作</th> <th>處理</th> <th>計</th> <th>單價</th> <th>荷造</th> <th>運賃</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>苹果ノ妻板</td> <td>9,260</td> <td>3,420</td> <td>0,360</td> <td>13,040</td> <td>14,940</td> <td>0,180</td> <td>1,080</td> <td>16,200</td> </tr> <tr> <td>マグロ魚箱</td> <td>9,260</td> <td>3,420</td> <td>0,360</td> <td>13,040</td> <td>14,940</td> <td>0,180</td> <td>6,480</td> <td>21,600</td> </tr> <tr> <td>普通板</td> <td>12,860</td> <td>3,090</td> <td>0,180</td> <td>16,130</td> <td>21,600</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>21,600</td> </tr> </tbody> </table>	種類	製作費 m當リ				販賣 m當リ				資材	製作	處理	計	單價	荷造	運賃	計	苹果ノ妻板	9,260	3,420	0,360	13,040	14,940	0,180	1,080	16,200	マグロ魚箱	9,260	3,420	0,360	13,040	14,940	0,180	6,480	21,600	普通板	12,860	3,090	0,180	16,130	21,600	-	-	21,600
	種類	製作費 m當リ				販賣 m當リ																																																								
		資材	製作	處理	計	單價	荷造	運賃	計																																																					
	苹果ノ妻板	9,260	3,420	0,360	13,040	14,940	0,180	1,080	16,200																																																					
	マグロ魚箱	9,260	3,420	0,360	13,040	14,940	0,180	6,480	21,600																																																					
普通板	12,860	3,090	0,180	16,130	21,600	-	-	21,600																																																						
摩當, 大澤, 李岱	98ろへ	4.70	18	124	142	0,700	99	4,500	639	5,200	738	"	1,315	577	435	479																																														
摩當, 大澤, 李岱	104ろ	2.81	10	67	77	0,700	53	4,500	347	5,200	400	"	713	313	236	260																																														
小摩當	88にへ	1.45		9	9	0,700	6	4,500	41	5,200	47	"	83	36	28	31																																														
豫定外	仙湯岩				860	860	0,600	516	4,400	3,784	5,000	4,300	"	7,964	3,664	2,580	2,838																																													
	戸津ノ目				95	95	0,700	66	4,100	390	4,800	456	"	880	424	266	293																																													
	石内				147	147	0,700	102	4,200	617	4,900	719	"	1,362	643	421	463																																													
計			41.24	211	2,277	2,488	0,641	1,595	4,328	10,768	4,969	12,363	9,260	23,041	4,292	10,678	7,342	8,078	① 碓ヶ關, 大鰐, 弘前方面主トシテブナ ② 函館方面主トシテブナ ③ 附近町村主トシテカツラ, ナラ, クリ, サクラ, イタヤ, ハリギ																																											
	村 別 再 掲																																																													
七日市村					176	1,782	1,958		1,226		8,486		9,712		18,132		8,420	5,786	6,365																																											
澤口村					4	126	130		89		533		622		1,204		582	364	401																																											
榮村					28	200	228		158		1,027		1,185		2,111		926	699	770																																											
西館村					3	169	172		122		722		844		1,594		750	493	542																																											

第八表

瀾葉樹立木處分個所ニ於ケル集約利用計畫表

字	林小班	面積	處分材積			拂下價額		作業費		費用價		處分價		利益		處用 ² 人夫數		備考
			用材	薪材ヨリ向上セル材積	計	單價	總額	單價	總額	單價	總額	單價	總額	單價	總額	延人夫數	金額	
門ヶ澤	36に	2.25	23	64	87	0,800	69	4,100	357	4,900	426	9,260	806	380	244	268	1, 作業費ノ75%人夫賃トス 2, 處分價1m ³ 當リ9,260ハ鷹巢市場ノ處分價トス 主トシテ杭木, 苹果箱, マグロ, 魚箱及普通ノ板ノ原料トス	
下舟木, 吉ヶ澤, 深澤	112ウ	6.11	55	159	214	0,500	107	4,500	963	5,000	1,070	1,982	912	656	722	参考ノタメ之等ノ製作費及處分價ヲ調査スルニ次ノ如シ		
上舟木	115ウ	11.98	47	229	276	0,500	138	4,500	1,242	5,000	1,380	2,556	1,176	847	932			
門ヶ澤	20に	0.26		4	4	0,800	3	4,100	16	4,900	19	37	18	11	12			
七日市, 妹尾館, 根木, 大畑, 中畑, 葛黒, 根木屋敷	39に	4.95	39	93	132	0,700	92	4,100	541	4,800	633	1,222	589	369	406			
明文, 松澤, 三ノ渡, 黒森, 與助岱	121イ	2.55	12	58	70	0,700	49	4,150	291	4,850	340	648	308	198	218			
小坪澤, 水澤, 白澤	58ほへ	2.02	3	22	25	0,800	20	4,200	105	5,000	125	232	107	72	79			
坊山, 小森, 四渡, 湯ノ岱	84ウ	1.50		24	24	0,700	16	4,100	98	4,800	114	222	108	67	74			
湯ノ岱, 坊山	80ろ	0.66	4	7	11	0,700	7	4,100	45	4,800	52	102	50	31	34			
摩當, 大澤, 李岱	98ろへ	4.70	18	124	142	0,700	99	4,500	639	5,200	738	1,315	577	435	479			
摩當, 大澤, 李岱	104ろ	2.81	10	67	77	0,700	53	4,500	347	5,200	400	713	313	236	260			
小摩當	88にへ	1.45		9	9	0,700	6	4,500	41	5,200	47	83	36	28	31			
豫定外	仙湯岩	戸内目	63ウ	860	860	0,600	516	4,400	3,784	5,000	4,300	7,964	3,664	2,580	2,838			
				95	95	0,700	66	4,100	390	4,800	456	880	424	266	293			
				147	147	0,700	102	4,200	617	4,900	719	1,362	643	421	463			
		20ウろ		315	315	0,800	252	4,100	1,292	4,900	1,544	2,917	1,373	881	969			
			41.24	211	2,277	2,488	0,641	1,595	4,328	10,768	4,969	12,363	9,260	23,041	4,292	10,678	7,342	8,078
村別再掲																		
村			176	1,782	1,958		1,226		8,486		9,712		18,132		8,420	5,786	6,365	
村			4	126	130		89		533		622		1,204		582	364	401	
村			28	200	228		158		1,027		1,185		2,111		926	699	770	
村			3	169	172		122		722		844		1,594		750	493	542	

種類	製作費 m ³ 當リ				販賣 m ³ 當リ				摘要
	資材	製作	處理	計	單價	荷造	運賃	計	
苹果ノ妻板	9,260	3,420	0,360	13,040	14,940	0,180	1,080	16,200	賣先①
マグロ魚箱	9,260	3,420	0,360	13,040	14,940	0,180	6,480	21,600	②
普通板	12,860	3,090	0,180	16,130	21,600	—	—	21,600	③

- ① 碓ヶ關, 大鰐, 弘前方面主トシテブナ
- ② 函館方面主トシテブナ
- ③ 附近町村主トシテカツラ, ナラ, クリ, サクラ, イタヤ, ハリギリ

第九表

町 村	一ケ年拂下量 (稼用)		
	用材	薪材	總
七日市	1,958	4,783	6,741
澤口	130	1,366	1,496
榮	228	1,189	1,417
西館	172	890	1,062
計	2,488	8,228	10,716

註 1, 用材ハ丸太材積ニシテ
 2, 薪材々積ハ全部製炭ニ
 3, 1m³ニ付木炭15kg入7.7
 4, 1人1日生産高3俵

(鷹表九)

第八表

濶葉樹立

村	字	林小班	面積	處分材積			拂下價額	
				用材	薪材ヨリ向 上セル材積	計	單價	總額
七日市	門ヶ澤	36に	2.25	23	64	87	0,800	6
	下舟木, 吉ヶ澤, 深澤	112り	6.11	55	159	214	0,500	10
	上舟木	115い	11.98	47	229	276	0,500	13
澤口	門ヶ澤	20に	0.26		4	4	0,800	
	七日市, 妹尾館, 根本, 大畑, 中畑, 葛黒, 根本屋敷	39に	4.95	39	93	132	0,700	9
	明又, 松澤, 三ノ渡, 黒森, 與助岱	121に	2.55	12	58	70	0,700	5
西館	小坪澤, 水澤, 白澤	58ほへ	2.02	3	22	25	0,800	2
	坊山, 小森, 四渡, 湯ノ岱	84い	1.50		24	24	0,700	2
榮	湯ノ岱, 坊山	80ろ	0.66	4	7	11	0,700	1
	摩當, 大澤, 李岱	98ろへ	4.70	18	124	142	0,700	9
	摩當, 大澤, 李岱	104ろ	2.81	10	67	77	0,700	5
	小摩當	88にへ	1.45		9	9	0,700	1
計	仙戸石 湯津内 岩ノ目	63い 20いろ			860 95 147 315	860 95 147 315	0,600 0,700 0,700 0,800	5 6 10 2
	計		41.24	211	2,277	2,488	0,641	15

村 別

七日市村	176	1,782	1,958	1,2
澤口村	4	126	130	8
榮村	28	200	228	15
西館村	3	169	172	12

第九表

拂下製炭資材ニヨル製炭計劃調査表

町 村	一ヶ年拂下量 (稼用)			春 (4月—6月)			夏 (7月—8月)			秋 (10月—12月)			冬 (1月—3月)			計			備 考
	用材	薪材	總量	製炭量	從業人夫 延 數	炭俵製作 延 人數	製炭量	從業人夫 延 數	炭俵製作 延 人數	製炭量	從業人夫 延 數	炭俵製作 延 人數	製炭量	從業人夫 延 數	炭俵製作 延 人數	製炭量	從業人夫 延 數	炭俵製作 延 人數	
七日市	1,958	4,783	6,741	6,886 ^俵	2,295	459 ^人	5,165 ^俵	1,722	344	12,050 ^俵	4,017	803	10,329 ^俵	3,443	688	34,430 ^俵	11,477	2,294	1俵ハ15kg入トス
澤 口	130	1,366	1,496	1,967	656	131	1,475	492	98	3,442	1,147	229	2,951	984	197	9,835	3,279	655	炭俵女1人1日15枚
榮	228	1,189	1,417	1,712	571	114	1,284	427	86	2,996	999	200	2,568	856	171	8,560	2,853	571	七日市, 妹尾 木, 大畑, 中畑 根本屋敷
西 館	172	890	1,062	1,280	427	85	960	320	64	2,240	747	149	1,920	640	128	6,400	2,134	426	明又, 松澤, 三 黒森, 與助岱
計	2,488	8,228	10,716	11,845	3,949	789	8,884	2,961	592	20,728	6,910	1,381	17,768	5,923	1,184	59,225	19,743	3,946	

- 註 1, 用材ハ丸太材積ニシテ其末木枝條ハ薪材ニ含メタリ
 2, 薪材々積ハ全部製炭ニ供スルモノトシテ計算セリ
 3, 1m³ニ付木炭15kg入7.2俵生産スルモノトシテ計算ス
 4, 1人1日生産高3俵

(鷹表九)

第八

村	字
七日市	門ヶ澤 下舟木, 吉ヶ澤 上舟木
西 館	七日市, 妹尾 木, 大畑, 中畑 根本屋敷
澤 口	明又, 松澤, 三 黒森, 與助岱 小坪澤, 水澤
榮	坊山, 小森, 四 湯ノ岱 湯ノ岱, 坊山 摩當, 大澤, 摩當, 大澤, 小摩當
計	
七日市村	
澤口村	
榮 村	
西館村	

阿仁合營林署

署長 前田 正治

Faint grid table with approximately 10 columns and 15 rows, likely a ledger or record book.

一、國有林野各種事業實行上考慮スベキ事項

當署管内ハ二町二村ニシテ内國有林野ニ關係アルハ荒瀬、阿仁合前田ノ一町二村ニシテ他ノ米内澤町ハ國有林全ク無ク僅カニ官行造林地百町歩ヲ有スルニ過ギズ、荒瀬、阿仁合、前田ニ至リテハ四萬四千陌ノ國有林ニ關係シ各種國有林ノ事業實行上大ナル關係ヲ有シ之レガ消長ハ直チニ地元民ノ經濟ニ重大ナル影響ヲ與フルモノナリ。

而シテ今餘剩勞力ヲ調査スルニ農山村ニシテ然モ冬季ハ積雪ノ爲メ外業沮マレ何レノ町村モ勞力ニ多大ナル餘剩ヲ來スハ直チニ首肯シ得ル處ニシテ即チ夏秋時勞力ノ不足ヲ來タセル前田村ニ於テハ冬季ハ延二二、一一六ノ過剩トナル、一ケ年ヲ通ジテハ延人員トシテ二、一一六人ノ不足ヲ來タスモ他ノ町村ニ於テモ即チ阿仁合町ニテ六三、六二〇人、荒瀬村ニ於テハ一七七、八四五人ノ多數ガ餘剩勞力ナルコトヲ示セリ。

而シテ春季ハ(四月―六月)山菜ノ採取田植出稼人ノ出入等ノ關係ヨリ各村共ニ餘剩勞力最モ少ナク夏季秋季ト進ムニ從ヒ餘剩ヲ來タセルヲ見ル。

近時多角形農業ノ獎勵或ヒハ農村ノ工業化、副業ノ獎勵等盛ニ叫バレツ、アリ一般民心モ稍自覺シ地方ニ依リ相當ナル成績ヲ擧ゲツ、アルヲ見ルニ至レルハ喜ブベキ現象ナルモ當署管内ノ如キ從來交通頗ル不便ナリシト阿仁鑛山ノ一時休止ニ加フルニ寒冷害ノ爲メ一時ニ勞力ノ汎濫ヲ來タシタルベキ當地方ハ只僅カニ出稼ギテ依リテ一時ニ凌ギ來タリシモノニシテ地方産業ノ勞働力ノ需給關係ハ直チニ勞力ノ過不足ニ影響スルモノトス。

而シテ本餘剩勞力ハ零細ナル勞力ノ集計トモ見ルベキモノニシテ例ヘバ官行斫伐又ハ鑛業ニ於ケル勞働者ノ如キハ平均年齢二十八歳(最高五四最低七歳)ノ男子ナルヲ要スル如キ制限アルガ爲メ假令餘剩勞力ガ附近ニアリトスルモ直チニ利用セラレ難キ實狀ニアリ、爲メニ前田村ノ官行斫伐事業ハ夏冬共ニ不足ヲ來タセル有様ナリ。

故ニ前記餘剩勞力消化ニ就キテハ一段ノ考慮ヲ要スベシ。
今項ヲ新ニシテ之レガ對策ヲ試ミントス。

(一) 常ニ勞力ノ需給關係ヲ查察シ事業ノ割當ニツキ充分ナル注意ヲ怠ラズ、冬季モ努メテ事業ノ實行ヲ割當テ餘剩勞力ヲ利用スル事ニ努ムルコト。

國有林野事業ハ造林、土木、官行斫伐ニシテ之レ等ハソレト、實行ノ時季ニ制限アリ、又功程ノ進行上自由ニ變更ヲ許サザル關係アルモ努メテ前記ノ事業ノ割當ニ注意シ勞働ノ分配ノ適正ヲ期スル見込ナリトス。

(一) 地方産業ヲ援助シ勞力ノ分配ニツキ聯絡ヲ取ルコト

當地方ニ於テ尤モ勞働力ヲ要スルハ昨年ヨリ阿仁鑛山ノ復活採金事業ヲ開始シタルガ爲メ俄カニ勞力ヲ要スルコトトナリ故ニ使用人員四〇五名ニ及ビ一ケ年ヲ通シテ常備人頭數毎月四百人ヲ下ラズ尙増加セラレル如ク從ツテ之レガ興廢ハ阿仁部ノ收入ニ重大ナル影響ヲ來タスガ故ニ出來得レバ一層援助助長シ勞力ノ分配ニ就キテハ常ニ聯絡ヲ取り特ニ同鑛山ハ約四千町歩ノ山林ヲ有シ目下造林中ニシテ未ダ完成セズ優良成林シタルモノ僅少ナルモ將來有望ナル林地ヲ構成シツ、アレバ之レガ撫育ニ一段ノ力ヲ入レツ、アリ勞働者モ營林署ト同一ケ所ヨリ出役セル箇所アルガ故ニ常ニ聯絡ヲ保チツ、アルモ鑛山ノ隆盛ニ從ヒ自然均等ヲ欠ク恐ナシトセザルガ故ニ一層聯絡ヲ固クスル要アリト認ムルモノナリ。

(二) 斫伐事業ハ夏季秋季共ニ不足ヲ來タセル狀況ニアルヲ以テ四季毎ニ事業分量ヲ聯絡分配シ勞働者ノ出入ヲ多カラシメズ勞働者ヲ固定セシムルヲ可トスベシ

前田村製材所完成ノ結果ハ斫伐量倍額トナリ從ツテ之レガ搬出等多大ナル勞働量ヲ要スルコトアリ、今秋ハ前年ニ比シテ少ナクモ五%増(總計約人頭數二〇〇人)ヲ要スベク前田村ノミニテハ二百名餘ニシテ現ニ他ヨリ入稼人約四十七名アルガ故ニ尙五〇餘名ハ募集ヲ要スル有様ナリ、特ニ柚夫ハ不足ニシテ將來ヲ考フル時ハ今ヨリ柚夫ノ養成等ニ考慮ヲ要スルモノナリ。

(四) 前述ノ如ク餘剩勞力ハ最早ヤ他ニ移動セシムル事困難也ト認メラル、ニ依リ出來得レバ勞力所在地ニ事業ヲ起ス様ニシ又地方ノ事業ニハ地方ノ住民ニ從事セシムル様ニ指導スルヲ要ス。

國有林内各種事業勞力割當(十年度分)ハ別表ノ通りトス。

營 林 署	事業別 月 別	收 穫 事 業			計	
		金 額	人頭數	延人員	頭數	延人員
阿 仁 合	4月	49	2	7	239	7,156
	5	32	1	4	280	8,667
	6	39	2	5	335	10,041
	7	84	4	12	680	21,083
	8	99	5	14	656	20,321
	9	136	7	19	582	17,470
	10	193	9	27	547	16,966
	11	66	3	9	542	16,256
	12	39	2	5	206	6,371
	1	35	2	5	150	4,646
	2	45	2	6	173	4,833
	3	21	1	3	103	3,186
合 計		838	3	1,197	321	136,996

備 考 括弧内ハ局
人頭數ハ1日

(阿表1)

昭和十年度各種事業月別人夫使役計畫表 (總括之部) 昭和10年5月調査 阿仁合營林署

營 林 署	事業 月 別	收 穫 事 業			斫 伐 事 業			製 材 事 業			土 木 事 業			經 常 造 林 事 業			官 行 造 林 事 業			合 計		
		金 額	人 頭 數	延 人 員	金 額	人 頭 數	延 人 員	金 額	人 頭 數	延 人 員	金 額	人 頭 數	延 人 員	金 額	人 頭 數	延 人 員	金 額	人 頭 數	延 人 員	金 額	人 頭 數	延 人 員
阿 仁 合	4月	49	2	70	4,713	150	4,500	1,095	50	1,500	—	—	—	350	17	500	410	20	586	6,617	239	7,156
	5	32	1	45	5,452	165	5,100	1,132	50	1,550	420	20	600	915	44	1,308	45	2	64	7,996	280	8,667
	6	39	2	55	3,038	93	2,775	1,666	76	2,280	(882) 1,806	(42) 54	(1,260) 1,620	1,033	49	1,476	402	19	575	8,866	335	10,041
	7	84	4	120	4,558	133	4,110	1,721	76	2,356	(5,250) 3,066	(250) 101	(7,500) 3,030	1,987	91	2,836	792	36	1,131	17,458	680	21,083
	8	99	5	142	3,130	90	2,800	1,492	76	2,042	(7,770) 1,680	(370) 70	(11,100) 2,100	1,066	49	1,523	430	20	614	15,667	656	20,321
	9	136	7	195	5,763	167	5,000	1,666	76	2,280	(6,090) 210	(290) 10	(8,700) 300	677	32	968	19	1	27	14,561	582	17,470
	10	193	9	275	7,407	204	6,325	1,721	76	2,356	(4,830) 147	(230) 7	(6,900) 210	604	28	863	26	1	37	14,928	547	16,966
	11	66	3	95	7,408	211	6,325	1,666	76	2,280	(4,620) 210	(220) 10	(6,600) 300	459	22	656	—	—	—	14,429	542	16,256
	12	39	2	55	4,282	127	3,950	1,721	76	2,356	—	—	—	7	0	10	—	—	—	6,049	206	6,371
	1	35	2	50	3,600	98	3,000	1,166	76	1,596	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4,801	150	4,646
	2	45	2	65	3,168	94	2,640	1,554	76	2,128	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4,767	173	4,833
	3	21	1	30	960	26	800	1,721	76	2,356	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2,702	103	3,186
合 計		838	3	1,197	53,479	130	47,325	18,321	76	25,080	(27,442) 7,539	(230) 38	(42,060) 8,160	7,098	37	10,140	2,124	16	3,034	118,841	321	136,996

(阿表一)

備 考 括弧内ハ局直營ノ土木事業ナリ
人頭數ハ1日平均使用ノ人頭數ナリ

國有林内各種事業勞力割當(十年度分)ハ別表ノ通りトス。

力 調 査 表

勞 力		入 出 稼 勞	
臨 時 的 ノ モ	古河鑛山	出 稼	入
道 木	6,916 1,429	39,705	4,403 古河
	8,345	39,705	4,403
道 木	6,992 3,476	46,000	4,876 古河
	10,468	46,000	4,876
道 木	6,992 3,476	36,800	4,232 新 古河
	10,468	36,800	4,232
道	6,850	31,500	4,410 新 古河
	6,850	31,500	4,410
道 木	27,750 838	154,005	17,921 古河 新
	36,131	154,005	17,921

第 一

町 村	考
荒 瀬 村	兼業トス 長人宿業
	比木工事
	日平均餘

(阿表三)

第一表

餘 剩 勞 力 調 查 表

(昭和十年五月調査)

町 村	總戶數	總人口	季節別	所在勞方	所 要 勞 力				入 出 稼 勞 力		差 引 餘 剩 勞 力	備 考		
					家 業	營 林 局 署	臨 時 的 的 勞 力	古 河 鑛 山	出 稼	入 稼				
荒 瀨 村	652	4,818	春 4—6月 91日	194,467	農業 141,188 林業 1,620 商業 1,638 工業 4,277 大工ヲ含ム 其他 1,092	收穫 30 土木 60 造林 1,260 局土木 60	縣土木 91 村土木 900 學校増築 300	出稼ノ鑛夫記 載全部トス	賣藥 12,194 柚夫 18,746 鐵道工事 91 鑛夫 6,370	ナシ	人頭(50) 4,500	1, 工事ハ鍛冶大工根子兼業トス 2, 家業ノ其他ハ理髮業旅人宿業トス 3, 局土木, 縣土木, 村土木工事ハ見込ヲ以テ計上ス 4, 餘剩勞力ノ人頭ハ一日平均餘勞力ノ人頭ナリ		
			計	194,467	149,815	1,410	1,290		37,401					
			夏 7—9月 92日	196,604	農業 98,110 林業 2,760 商業 1,656 工業 4,324 其他 1,104	收穫 160 土木 3,030 造林 3,130 局土木 19,500	縣土木 3,590 村土木 1,030	(同)	賣藥 1,840 柚夫 9,200 鑛夫 6,900 鐵道工事 920	局土木 13,000 縣村土木 1,530			(586) 53,900	
			計	196,604	107,954	25,820	4,600		18,860	1,4530				
			秋 10—12月 92日	196,604	農業 113,062 林業 3,050 商業 1,656 工業 4,324 其他 1,104	收穫 140 造林 1,033 局土木 9,600	縣土木 1,500	(同)	賣藥 9,755 柚夫 15,660 鑛夫 6,900 鐵道工事 920	局土木 6,400				(373) 34,300
			計	196,604	123,196	10,773	1,500		33,235	6,400				
冬 1—3月 90日	192,330	農業 33,025 林業 8,000 商業 1,620 工業 4,230 其他 1,080	收穫 30		(同)	賣藥 21,000 柚夫 31,500 鑛夫 6,750	ナシ	(946) 85,095						
計	192,330	47,955	30			59,250								
總 括	780,005	農業 385,385 林業 15,430 商業 6,570 工業 17,155 其他 4,380	收穫 360 土木 3,090 造林 5,423 局土木 29,160	縣土木 5,161 村土木 1,930 學校増築 300	(同)	賣藥 44,789 柚夫 75,106 鑛夫 26,920 鐵道工事 1,931	局土木 19,400 縣村土木 1,530		(487) 177,845					
計	780,005	428,920	38,033	7,391		148,746	20,930							

(三) 阿表

町村名	備考
前田	業其他 見込ヲ ノ所要 能ナル 日平均 リ

(阿表五)

餘剩勞力調査表

町村名	總戸數	總人口	季節別	所在勞力	所要勞力				入出稼勞力		差引餘剩勞力	備考
					家業	營林署直營	臨時的ノ	古河鐵山	出稼	入稼		
阿仁合	645	男 1,809 女 1,858 3,667	春 4—6月	174,265	農業 35,040 商業 21,476 工業 3,055 林業 15,652 其他 55,783	收穫 15 造林 762 官造 396	鐵道 6,916 土木 1,429	39,705	4,403	古河 13,013	2,646 人頭(30)	1, 其他ハ交通業其他難業トス 2, 鐵道, 土木工事ハ見込ヲ以テ計上シ鐵道工事ノ所要勞力ハ村民ノ出役出來得ル必要勞力ヲ見込セリ 餘剩勞力ノ人頭ハ一日平均餘剩勞力ノ人頭ナリ
			計	174,265	131,006	1,173	8,345	39,705	4,403	13,013	2,646	
			夏 7—9月	176,180	農業 17,520 商業 21,712 工業 3,099 林業 16,708 其他 56,396	收穫 45 造林 745 官造 641	鐵道 6,992 土木 3,476	46,000	4,876	古河 13,156	11,126 人頭(121)	
			計	176,180	115,435	1,431	10,468	46,000	4,876	13,156	11,126	
			秋 10—12月	176,180	農業 28,032 商業 21,712 工業 3,099 林業 16,708 其他 56,396	收穫 55 斫伐 834 造林 60 官造 37	鐵道 6,992 土木 3,476	36,800	4,232	斫古河 375 13,156	11,278 人頭(123)	
			計	176,180	125,947	986	10,468	36,800	4,232	13,531	11,278	
冬 1—3月	172,350	農業 7,008 商業 21,240 工業 3,042 林業 16,525 其他 55,170	收穫 5 斫伐 1,666	鐵道 6,850	31,500	4,410	斫古河 766 13,870	38,570 人頭(429)				
									計	172,350	102,985	1,671
總括	698,975	農業 87,600 商業 86,140 工業 12,295 林業 65,593 其他 223,745	收穫 120 斫伐 2,500 造林 1,567 官造 1,074	鐵道 27,750 土木 838	154,005	17,921	古河 52,195 斫 1,141	63,620 (175)				
計		698,975	475,373	5,261	36,131	154,005	17,921	53,336	63,620			

(阿表四)

力 調 査 表

臨時のモノ	力 出 入 稼 勞 力				差引	
	出 稼	入 稼	雑業	人頭		
道 系土	4,550 1,820	杣夫 雑業	9,100 4,550	雑業	1,365	人頭
	6,370		13,650		1,365	
道 系土	3,220 940	杣夫 雑業	9,200 4,600	雑業	1,840	日平均
	4,160		13,800		1,840	
道 系土	460 1,300	杣夫 雑業	17,480 4,600	雑業	1,840	リ
	1,760		22,080		1,840	
道 系土	900 1,300	杣夫 雑業	18,000 4,500	雑業	1,800	リ
	900		22,500		1,800	
道 系土	9,130 2,760 1,300	杣夫 雑業	52,780 18,250	雑業	6,845	リ
	13,190		72,030		6,845	

第 三

町 村 名	考
前 田	業其他
	見込ヲ ノ所要 能ナル
	日平均
	リ

(阿表五)

餘 剩 勞

町 村 名	總戸數	總人口	季節別	所在勞力	所 要			
					家 業	營林署直營		
阿 仁 合	645	男 1,809 女 1,858 3,667	春 4—6月	174,265	農業 35,040 商業 21,476 工業 3,055 林業 15,652 其他 55,783	收穫 造林 官造	15 762 396	鐵 土
			計	174,265	131,006	1,173		
			夏 7—9月	176,180	農業 17,520 商業 21,712 工業 3,099 林業 16,708 其他 56,396	收穫 造林 官造	45 745 641	鐵 土
			計	176,180	115,435	1,431		
			秋 10—12月	176,180	農業 28,032 商業 21,712 工業 3,099 林業 16,708 其他 56,396	收穫 斫伐 造林 官造	55 834 60 37	鐵 土
計	176,180	125,947	986					
冬 1—3月	172,350	農業 7,008 商業 21,240 工業 3,042 林業 16,525 其他 55,170	收穫 斫伐	5 1,666	鐵 土			
			計	172,350	102,985	1,671		
總括	698,975	農業 87,600 商業 86,140 工業 12,295 林業 65,593 其他 223,745	收穫 斫伐 造林 官造	120 2,500 1,567 1,074	鐵 土			
計		698,975	475,373	5,261				

第三表

餘剩勞力調査表

町村名	總戶數	總人口	季節別	所在勞力	所要勞力				入出稼勞力		差引餘剩勞力	備考
					家業	營林署直營	臨時的ノモノ	古河鐵山	出稼	入稼		
前田	748	5,796	春 4—6	249,340	農業 176,670 林業 18,200 其他 9,100	收穫 125 斫伐 12,375 土木 2,160 造林 1,262 官造 763 局土木 1,200 製材 5,330	炭 910 鐵道 12,940 縣土木 1,820	2,550	權太 2,400 雜業 8,463	斫 910		1, 家業其他ハ商工交通業其他 雜業トス 2, 臨時的ノ所要勞力ハ見込ヲ 以テ計上シ鐵道工事ノ所要 勞力ハ村民ノ出役可能ナル 勞力ヲ見込タリ 3, 餘剩勞力ノ人頭ハ1日平均 餘剩勞力ノ人頭數ナリ
			計	203,970	23,215	15,670	2,550	10,863	910	-6,018 人頭(66)		
			夏 7—9	252,080	農業 160,762 林業 18,400 其他 9,200	收穫 252 斫伐 11,910 土木 2,400 造林 1,452 官造 937 局土木 7,800 製材 6,678	炭 1,840 鐵道 18,400 縣土木 4,600	5,110	雜業 9,200	斫 1,380		
			計	188,362	31,429	24,840	5,110	9,200	1,380	-5,481 人頭(60)		
			秋 10—12	252,080	農業 171,608 林業 18,400 其他 9,200	收穫 230 斫伐 15,766 土木 510 造林 436 官造 0 局土木 3,900 製材 6,992	炭 1,840 鐵道 18,400 縣土木 4,600	5,110	雜業 9,200	斫 1,380		
			計	199,208	27,834	24,840	5,110	9,200	1,380	-12,732 人頭(139)		
冬 1—3	246,600	農業 143,320 林業 27,000 其他 13,500	收穫 110 斫伐 4,774 製材 6,080	炭 1,800 鐵道 9,000 縣土木 900	900	權太 4,500 雜業 13,500	斫 900					
計	183,820	10,964	11,700	900	18,000	900	22,116 人頭(246)					
總括	1,000,100	農業 652,360 林業 82,000 其他 41,000	收穫 717 斫伐 44,825 土木 5,070 造林 3,150 官造 1,700 局土木 12,900 製材 25,080	炭 6,390 鐵道 58,740 縣土木 11,920	13,670	權太 6,900 雜業 40,363	斫 4,570					
合計		1,000,100	775,360	93,442	77,050	13,670	47,263	4,570	(6) -2,115			

(阿表五)

町村名	總戶數	總人口
阿仁合	645	男 1,809 女 1,858 3,667
計		

第四表

餘 剩 勞 力 調 查 表

町 村 名	總 戶 數	總 人 口	季 節 別	所 在 勞 力	所 要 勞 力			出 入 稼 勞 力			差 引 餘 剩 勞 力	備 考
					固 定 下 認 可 ラ ル ノ モ ノ (家 業)	營 林 署 直 營	臨 時 的 ノ モ ノ	出 稼	入 稼	雜 業		
米 内 澤	855	5,764	春	212,030	農 林 110,611 商 業 26,144 工 業 6,033 其 他 38,211	官 造 66	鐵 道 4,550 縣 土 1,820	杣 夫 9,100 雜 業 4,550	雜 業 1,365		1, 林業ハ副業的ノモノニ付農業ニ含メ タリ 2, 家業ノ其他ハ交通業其他雜業トス 3, 鐵道縣土木工事ハ見込ヲ以テ計上ス 4, 餘剩勞力ノ人頭ハ1日平均餘剩ノ人 頭數ナリ	
			計		180,999	66	6,370	13,650	1,365	人頭 (135) 12,310		
			夏	214,360	農 林 業 94,803 商 業 25,152 工 業 5,804 其 他 46,434	官 造 194	鐵 道 3,220 縣 土 940	杣 夫 9,200 雜 業 4,600	雜 業 1,840			
			計		172,193	官 造 194	4,160	13,800	1,840	(281) 25,853		
			秋	214,360	農 林 業 102,043 商 業 25,152 工 業 9,812 其 他 31,398		鐵 道 460 村 土 1,300	杣 夫 17,480 雜 業 4,600	雜 業 1,840			
			計		168,405		1,760	22,080	1,840	(265) 23,955		
			冬	209,700	農 林 業 80,235 商 業 22,466 工 業 14,442 其 他 19,256		鐵 道 900	杣 夫 18,000 雜 業 4,500	雜 業 1,800			
計		136,399		900	22,500	1,800	(574) 51,701					
總 括		350,450	農 林 業 387,692 商 業 98,914 工 業 36,091 其 他 135,299	官 造 260	鐵 道 9,130 縣 土 2,760 村 土 1,300	杣 夫 52,780 雜 業 18,250	雜 業 6,845	113,819				
計		850,450	657,996	260	13,190	72,030	6,845	(311) 113,819				

(阿表六)

一、國有林野各種制度並ニ施設ニ付キ擴充刷新スベキ事項

一、山村經濟更生ニツキテハ從來擔當區員ヲシテ夫レノ協力指導セシメツ、アルモ、事業ノ繁忙ニ累セラレ徹底ヲ欠ク場合多キヲ思ハシムルニ依リ出來得レバ雇員ニテヨロシキヲ以テ經濟更生及指導ノ專問係ヲ營林署ニモ設置シ指導スルヲ要ス、尙縣ノ更生指導ニ際シテハ努メテ聯絡ヲ取り國有林野ニ關係スル事項ニ付キテハ町村當局ヨリモ報知ヲ得ル様ニ取扱ヒヲナサントスル見込ナリ

二、鬼胡桃及栗ノ天然生ヲ保護シ且ツ増殖ヲ獎勵スルコト

當署管内ニ於テハ國有林ニハ栗ハ殆ンド無キモ民林ニハ相當アリ打當及前山方面及ビ小又森吉邊ニハ一戸當リ五本乃至十本ヲ有シ部落有林ニハ植栽木ヲモ所有セリト云フ、國有林内ノモノハ往時皆伐シタルモノナルベク土地ハ何レモ栗ニ適スルガ故ニ栗ノ新植ヲ獎勵シ又天然生ノモノノ撫育及ビ保護ヲ獎勵セントス。胡桃ハ天然生ノモノ相當ニアリ、前田、荒瀨、阿仁合共ニ國有林ノ内外ニ存在シ其成育相當良好ナルヲ認メラル、ヲ以テ之レガ保護増殖ニ努ムルト共ニ一般民林ニ對シテモ獎勵ノ見込ナリ。

勞 剩 餘

町 村 名	總 戶 數	總 人 口	季 節 別	所 在 勞 力	所 要 勞 務		官 造	林 營 署
					認 定 勞 務 (家業)	認 定 勞 務 (家業)		
米 内 澤	855	5,764	春	212,030	農 林 業 110,611 商 業 26,144 工 業 6,033 其 他 38,211		66	錫 縣
			計		180,999		66	
			夏	214,360	農 林 業 94,803 商 業 25,152 工 業 5,804 其 他 46,434		194	錫 縣
			計		172,193	官 造	194	
			秋	214,360	農 林 業 102,043 商 業 25,152 工 業 9,812 其 他 31,398			錫 村
計		168,405						
冬	209,700	計		農 林 業 80,235 商 業 22,466 工 業 14,442 其 他 19,256			錫	
			計		136,399			
總 括	850,450	387,692	官 造	260	錫 縣 村			
計	850,450	657,996		260				

一、國有林野各種制度並ニ施設ニ付キ擴充刷新スベキ事項

一、山村經濟更生ニツキテハ從來擔當區員ヲシテ夫レ々協力指導セシメツ、アルモ、事業ノ繁忙ニ累セラレ徹底ヲ欠ク場合多キヲ思ハシムルニ依リ出來得レバ雇員ニテヨロシキヲ以テ經濟更生及指導ノ專問係ヲ營林署ニモ設置シ指導スルヲ要ス、尙縣ノ更生指導ニ際シテハ努メテ聯絡ヲ取り國有林野ニ關係スル事項ニ付キテハ町村當局ヨリモ報知ヲ得ル様ニ取扱ヒヲナサントスル見込ナリ

二、鬼胡桃及栗ノ天然生ヲ保護シ且ツ増殖ヲ獎勵スルコト

當署管内ニ於テハ國有林ニハ栗ハ殆ンド無キモ民林ニハ相當アリ打當及前山方面及ビ小又森吉邊ニハ一戸當リ五本乃至十本ヲ有シ部落有林ニハ植栽木ヲモ所有セリト云フ、國有林内ノモノハ往時皆伐シタルモノナルベク土地ハ何レモ栗ニ適スルガ故ニ栗ノ新植ヲ獎勵シ又天然生ノモノノ撫育及ビ保護ヲ獎勵セントス。胡桃ハ天然生ノモノ相當ニアリ、前田、荒瀬、阿仁合共ニ國有林ノ内外ニ存在シ其成育相當良好ナルヲ認メラル、ヲ以テ之レガ保護増殖ニ努ムルト共ニ一般民林ニ對シテモ獎勵ノ見込ナリ。

其他施設ニ付キ考慮セルモノアルモ何レモ經費ヲ伴フモノナルガ故ニ參考事項ニ讓ルコト、セリ。

胡桃ノ生産量ヲ調査スルニ荒瀬村ニテハ官民合計約三、〇〇〇本果實約四石、阿仁合町ニテハ民有林約五〇〇〇本果實ハ六斗、前田村ニテハ官民林内二、五八〇本果實三石三七ヲ得ル見込ナリ、國有林中杉ノ又澤約五ha、小掠澤三〇haハ特ニ優良ナル成育ト認ム

三、地元町村經濟組織ニ適合シ指導助長スベキ農山村工業及副業ニ關スル事項

(一) ゼンマイノ加工

管内ゼンマイハ前田村砂子澤方面及荒瀬村比立内方面ヨリ七〇〇貫、八〇〇貫目、計一、五〇〇貫ノ乾燥品ヲ得ル見込ニシテ本月中旬縣當局ノ斡旋ニ依リ新潟縣ヨリ加工教師ノ派遣ヲ得前田及荒瀬村ニテ品質向上ノ講習ヲ受ケ部落民又熱心習得シタルニ依リ相當優良品ノ移出ヲ見ルベク將來有望ナルヲ認メラル。

(二) ナメコノ罐詰

ナメコハ荒瀬前田共ニ天然生多量ニ生産シ毎年七〇乃至九〇石ヲ下ラズ之レガ罐詰業ハ一昨年來實行ニ着手シタルガ相當收益アリ、本年ハ荒瀬村當局ニテ部落民ニ對シ縣ノ斡旋ニ依リ右講習ヲ實施スル豫定ヲ以テ着々準備中ノ由ニ付キ村産業組合事業トシテ最モ適當ト認ムルニ依リ營林署トシテモ相當授助助長セントスルモノ也。

(三) 其他ノ副業

右二項ハ既ニ實行ニ移シタルモノニシテ尙引キ續ハ竹細工、萱工品、椎茸ノ栽培、等ヲモ獎勵セントスルモ技術的方面ニ適當ナル指導者無ク先ヅ指導者ノ養成ヨリ始ムルヲ要スル有様ニ付キ出來得ベクンバ局ニテ適當ノ指導者ヲ置キ派遣スルカ又ハ縣ヨリ指導者ヲ派遣スル様取扱ハレ度キ希望ナリトス

四、參考事項

- 一、前田村桐内林道ハ前年約四杆ノ牛馬道土工ノ部ハ完成シ部落民ヨリ多大ナル感謝ヲ受ケ居ルモ森吉軌道ニ聯絡スベキ橋梁及途中ノ棧道等未完成ノ爲メ未ダ完全ナル利用ヲ見ズ右完成ヲ熱望セルガ故ニ本年ハ引續キ御實行ヲ願フモノナリ
- 二、豫テ町當局ヨリ懇望セル荒瀬川林道ハ八、二〇〇メートルアルモ萱草以奥館瀧迄約五杆餘ハ目下殆ンド道路無キ有様ニシテ然モ兩岸絶壁ノ箇所多ク小橋梁十數個アリ、國有林産物搬出ノ要路ナルニ依リナルベク至急ニ新設ヲ希望ス
- 三、當署管内ハ阿仁鑛山ノ復活、阿仁合線ノ鐵道工事ノ爲メ昨年來甚ダシキ活氣ヲ呈シ、本年秋ニハ鐵道モ前田村迄延長スベク明年六月頃ニハ阿仁合迄完成豫定ニシテ阿仁鑛山産金高モ昨年ノ三倍ニ及ビ勞力ノ需要急激ニ増加シタル爲メ前田村ハ前記狀況ヲ示シ阿仁鐵道ノ完成ノ上ハ或ヒハ銅ノ産出モ可能ニアラズヤトモ思料セラル、ニ依リ阿仁合町ハ尙一層ノ活況ヲ呈スルニ至ルベク尙比立内方面ニテ金鑛相當ニアルガ如キヲ以テ當署比立内製材所ノ完成スルニ至ラバ勞力需給關係モ一大變革ヲ來タスベキハ明カナルヲ以テ今ヨリ相當計畫ヲ立テ、勞力需給關係ヲ一層明確ニナシ置クベキヲ要ス。

上小阿仁營林署

署長 小 熊 一 義

一、國有林野各種事業實行上考慮スベキ事項

(一) 餘剩勞力ノ檢討

當署部内ノ所在勞力及其季節的配置狀況ヲ見ルニ最モ多キハ十一月六〇、四二五人最小ハ二月ニシテ二九、〇〇二人(男女計)ナリ

之レヲ表ニ示ス如ク春夏秋冬ノ四季別ニ集計シテ勞力ノ分配ヲ見ルニ從來ノ産業及副業等ニ要スルモノヲ差引ク時ハ春六五、七二人夏五五、七〇〇人秋七九、〇九四人冬五五、六九八人ノ殘リヲ生ズ
更ニ之レヨリ當署及七座營林署ガ當署管内ニ於テ實行スル各種勞働者ノ延人員一四八、七四三人ヲ季節別ニ差引クトキハ春二八、一九二人剩餘夏一、四九九人秋四五、九九七人剩餘冬三四、七八五人剩餘計一〇七、四七五人トナリ之レヲ一人一年ノ勞働豫定日數二三〇日トシ換算スレバ約四六七人トナリ當署部内ノ所在勞力者數二、四一七人ニ比スレバ大體一九、三%トナル譯ナリサレド此内ニハ十六歳及六十歳近クノモノモ含マル、ガ故ニ實際ニ於テハ此數字ヨリ幾分緩和サル、コト、ナルベシ

(二) 生活狀態ノ概況

昨年ハ當署部内モ凶作ノタメ一般ニ收穫ヲ減ジ殊ニ國有林ニ關係深キ山間ノ部落ハ一層激甚ノ慘狀ヲ呈セリ之等ニ對シ種々對策ヲ講ジ製炭ノ獎勵農閑期ニ勞働力ヲ消化スル如ク仕組ミ更ニ多額ノ救濟費ノ支出ヲ得ル等ニヨリ無事越冬スルコトヲ得タリ、サレド一般經濟事情ハ春ニ至ルモ緩和サレザルノミナラズ、不足セル飯米ハ春ニ至リテ購入セザル可カラザル場合米價高ヲ來シ其苦痛ノ程同情ニ堪ヘザル處ナリ

部落各戸ノ飯米ノ所有及資産ノ狀態等ニ付調査セルニ大體次表ノ如キ數字ヲ示セリ(米ナキモ資産ヲ有スルモノハ飯米ヲ有スルモノトシテ計算ス)

力 調

—(2)—上

秋		冬			合 計	摘 要
一 月	十 二 月	一 月	二 月	三 月		
309	182	15	15		6,775	
59	53				1,672	
30	31	31	28	31	365	
					2,960	
630	651	651	588	630	7,644	
7,124	3,567	4,835	3,600	3,375	77,873	
481	18	38	165	185	7,251	
1,221	496	496	448	496	11,468	
2,150				1,028	15,296	
9,314	4,927	6,023	4,679	4,532	107,095	
2,690	71	38	165	1,213	24,222	
12,004	4,998	6,066	4,844	5,745	131,317	
12,042			16,655			

種 目	季節別			春			夏			秋			冬			合 計	摘 要
	月 別			四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	十一 月	十二 月	一 月	二 月	三 月		
	四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	十一 月	十二 月	一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	六 月		
所 要 勞 力																	
男	30,420	30,420	28,899	22,815	24,336	28,899	36,504	38,025	33,462	25,857	18,252	31,941	349,830				
女	17,920	17,920	17,024	13,440	14,336	27,024	21,504	22,400	19,712	15,232	10,750	18,816	206,080				
計	48,340	48,340	45,923	36,255	38,672	45,923	58,008	60,425	53,174	41,089	29,002	50,757	555,910				
所 要 勞 力																	
男	16,420	16,420	15,599	12,315	13,136	15,559	19,704	20,525	18,062	13,957	9,852	17,241	188,830				
女	9,640	9,640	9,158	7,230	7,712	9,158	11,568	12,050	10,604	8,194	5,784	10,122	110,860				
計	26,060	26,060	24,757	19,545	20,848	24,757	31,272	32,575	28,666	22,151	15,636	27,363	299,690				
		76,877			65,150			92,513			65,150						
差 引	22,280	22,280	21,166	16,710	17,824	21,166	26,736	27,850	24,508	18,938	13,366	23,394	256,218				
		65,726			55,700			79,094			55,698						
國有林所要勞力																	
男	5,768	11,907	11,387	16,882	8,957	10,845	11,869	12,004	4,927	6,028	46,679	4,532	107,095				
女	505	2,625	2,045	4,702	3,078	3,919	3,171	32,042	71	38	165	1,213	24,222				
計	6,273	14,532	13,432	21,584	12,035	14,764	15,040	12,004	4,988	60,066	4,844	5,745	131,317				
		34,237			48,383			32,042			16,655						
產 物 賣 拂 勞 力																	
計	820		2,477	2,532	3,752	2,532	1,055			820	1,550	1,888	17,426				
	820		2,477	2,532	3,752	2,532	1,055			820	1,550	1,888	107,426				
		3,297			8,816			1,055			4,258						
差 引	15,187	7,748	5,257	(7,406)	2,037	3,870	10,641	15,846	19,510	12,052	6,972	15,761	107,475				
		28,192			(1,499)			45,997			34,785						

南澤	餌刺臺	大鏡	八木澤	萩形	部落名	戸數	五月迄有セザルモノ	七月迄有セザルモノ	九月迄有セザルモノ	備考
三	四	四	三	二六						
一七	二	三	一八	三三						
八一	五〇	七五	八三	八五						
一八	三	四	一八	二四						
八六	七五	一〇〇	八三	九三						
二〇	三	四	一八	二四						
九五	七五	一〇〇	八三	九三						
			同	凶作地						

國有林ニ接近セル部落ノ飯米狀況

二十三部落中國有林ニ接近シ密接ナル關係ニアル部落八十二ヶ所ニシテ村全體ヨリ見レバ七月迄飯米ヲ保タザルモノ六四%九月迄保タザルモノ七四%

(昭和十年度) 國有林所要勞力調

-(2)-上

種目	季節別 月別	春			夏			秋			冬			合計	摘要
		四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月		
		造林	男	528	613	172	2,963	686	622	670	309	182	15		
	女	268	313	92	371	126	210	180	59	53			1,672		
事務費備人		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	365		
委託土木			600	2,360									2,960		
定夫準定夫		630	651	630	651	651	630	651	630	651	651	588	7,644		
斫伐	男	4,100	8,556	7,285	11,889	6,548	8,038	8,966	7,124	3,567	4,835	3,600	77,873		
	女	237	291	665	1,886	1,448	1,351	486	481	18	38	165	7,251		
七座	男	480	1,456	910	1,348	1,041	1,525	1,551	1,221	496	496	448	11,468		
	女		2,021	1,288	2,445	1,504	2,358	2,505	2,150			1,028	15,296		
男女計		5,768	11,907	11,138	16,882	8,957	10,845	11,869	9,314	4,927	6,023	4,679	107,095		
		505	2,625	2,045	4,702	3,078	3,919	3,171	2,690	71	38	165	24,222		
		6,273	14,532	13,432	21,584	12,035	14,764	15,040	12,004	4,998	6,066	4,844	131,317		
			34,237			48,383			32,042		16,655				

大	小	中	不	南	餌	大	八	萩	部
林	田	茂	動	澤	刺	鏡	木	形	落
六	瀨	茂	羅	澤	臺	鏡	澤	形	名
六三	二〇	一一	一四	二二	四	四	三	二六	戶數
二九	七	一〇	一三	一七	二	三	一八	二三	五月迄有セザルモノ
四六	三五	九一	九三	八一	五〇	七五	八二	八五	%
四三	一五	一〇	一四	一八	三	四	一八	二四	七月迄有セザルモノ
六八	七五	九一	一〇〇	八六	七五	一〇〇	八二	九二	%
五三	一五	一〇	一四	二〇	三	四	一八	二四	九月迄有セザルモノ
八四	七五	九一	一〇〇	九五	七五	一〇〇	八二	九二	%
		凶作地					同	凶作地	備考

國有林ニ接近セル部落ノ飯米狀況

二十三部落中國有林ニ接近シ密接ナル關係ニアル部落ハ十二ヶ所ニシテ村全體ヨリ見レバ七月迄飯米ヲ保タザルモノ六四%九月迄保タザルモノ七四%

(昭和十年度) 國有林所要勞

種目	季節別 月別	春			夏			
		四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月
造林	男	528	613	172	2,963	686	622	670
	女	268	313	92	371	126	210	180
事務費備人		30	31	30	31	31	30	31
委託土木			600	2,360				
定夫準定夫		630	651	630	651	651	630	651
研伐	男	4,100	8,556	7,285	11,889	6,548	8,038	8,966
	女	237	291	665	1,886	1,448	1,351	486
七座	男	480	1,456	910	1,348	1,041	1,525	1,551
	女		2,021	1,288	2,445	1,504	2,358	2,505
男女計		5,768	11,907	11,138	16,882	8,957	10,845	11,869
		505	2,625	2,045	4,702	3,078	3,919	3,171
		6,273	14,532	13,432	21,584	12,035	14,764	15,040
			34,237			48,383		

沖田面	一五六	七四	四七	一六	七四	一四	七九
小澤田	八〇	一〇	一三	三五	四四	六〇	七五
屋布	二	一三	五七	一五	七二	二〇	九五
五反澤	九二	六六	八四	六六	八四	八四	
計	五三三	二八三	五三	三六一	七二	四三	八一
村全體ノモノ	八三三	三三八	四〇	五二六	六四	六〇五	七四

之ヲ山間部落民ニ就テ見レバ十二部落ノ平均ハ七月迄保タザルモノ七二%九月迄保タザルモノ八一%トナリ、特ニ昨年凶作ノ激シカリシ萩形、八木澤、中茂等ニ就テ見レバ七月迄保タザルモノ已ニ九〇%ニ達シ一家經濟ノ中心勢力ヲ爲ス飯米ハ部落各戸ノ大部分缺乏シ居ルコトヲ示シ、春ノ農繁期ノ生活狀態モ推察スルニ餘リ有リ、五反澤部落ノ如キハ最近部落有財産ヲ以テ米及麥ヲ購入シ貧困者十六戸ニ分配セル事例有リ

右ノ事情ニヨリ諮問事項第一、國有林各野種事業實行上考慮スベキ事項ニ就テ考慮シ來レルコト

(イ) 各種事業共造林ノ植付ノ如キ季節ヲ選ブモノハ止ムヲ得ザルモ季節的ニ緩和シ得ルモノハ成ル可ク各部落勞働ノ需給ニ應ジ計劃ヲ仕組ミタリ

(ロ) 特殊ノ技能ヲ要スル勞働ハ除外サル、モ其他ハ成ル可ク生活狀態ノ不安ナルモノヨリ使役スルコトニ決定人選ヲ爲セルコト殊ニ造林事業ノ如ク各擔當區ニ分配サル、モノハ特ニ此點ヲ重視シ餘剩勞力ノ消化ニ努メシメタリ

(ハ) 物件費ヲ成ル可ク減ジ勞銀ニ仕向クルコト、シ造林費ノ如キ極度ニ低下セリ

(ニ) 本年度ハ造林費ノ大削減ニテ各山村部落ニ平均的ニ事業ヲ分配スルコト能ハザルニ至リタレバ土權製作費四五二圓ヲ生活難最モ甚ダシキ萩形、八木澤、中茂ノ三部落ニ平均ニ分配シ勞銀ヲ得サシムル如ク計劃セリ

(ホ) 勞力ヲ地方的ニ分配ヲ考慮セルコト(事業ニヨリ)村内ノ勞働力ノ季節的分配及地方的分配ヨリ見ル時ハ夏季ニ不足スル位ニシテ冬季著シク餘剩ヲ生ジ又昨年度凶作ニ遭ヒタル萩形、中茂、屋布方面ハ冬季事業全クナク何等勞銀ノ機會ヲ有セザルカ故ニ此爲ニ特ニ次ノ如ク考慮セリ

本年度夏山、手押軌道ニヨリ本年内生産トシテ計劃シ居ル小長瀧澤四、〇五六立方米ノ斫伐事業ヲ冬山ニ變更シ此捻出額一、二〇五圓ノ内五三八圓ヲ以テ冬山トシテ萩形事業區ニ於テ三〇〇立方米ノ斫伐事業ヲ起シ萩形事業區ヲ救濟セントス

所要人夫約六〇〇人ノ豫定
參考トシテ本年度ノ冬山ハ灰内澤二、七五二立方米橋場澤二、四〇六立方米計五、一五八立方米ナレバ小長瀧澤ノ分ヲ入ル、モ九、二一四四立方米トナリテ昨年度九、七〇四立方米ニ比シ大差ナキモノナリ

次ニ初期林分中沖田面事業區54いろ面積二〇、四三陌ハ用材比較的少ナクシテ潤葉樹薪材ナルカ其中更新ヲ要スルスキ林分ノ擇伐ヲナシ三〇〇立方米ノ斫伐ヲ起シ經費ノ都合ニヨリ林地處分ニヨリ此經費一五〇圓所要人夫數一五〇人及之レヲ冬出スル爲拂下後ニ要スル人夫約九〇〇人ノ見込以テ南澤附近ノ人夫ヲ使用ノ計劃ナリ

但シ年度内生産材ノ分量ニ關スルコト故篤ト御協議ノ上實行シ度キ希望ナリ
(ハ) 産物ノ拂下ニヨリ勞働力ヲ地方的ニ分配スル計劃、南澤事業區75ほハ開墾適地トシテ目下貸付方局へ上申中ニシテ此地立木赤松二五五立方米ナラ三四立方米有リ之レヲ指名特賣ニヨリ處分シ伐採セシムレバ佛社部落民延人員四八〇人ヲ使備シ得

沖田面事業區70いろはにニ於ケル造林地ノ間伐ヲ爲シ立木處分ニヨリ一二〇立方米處分スレバ中茂部落民二〇〇人ヲ使用シ得、何レモ實行ノ見込ナリ

(ト) 柚夫ノ勞働統制ヲナシ餘剩力ヲ出稼ニ向クル計劃、當署部内ハ由來柚夫ノ技術優秀ナルヲ以テ知ラル年々當署斫伐事業ニ出役スル柚夫ニテモ一二〇名ニ上リ其數ニ於テモ相當知ラル、所ニシテ昨年度ノ如キ柚夫及準柚夫ニシテ樺太、和歌山縣方面ニ出稼セルモノ一六〇名ニ上リ冬季事業ニハ多少支障ヲ來ス狀態ニアリキ、サレド之レ等出稼ハ種

々事情アリテ止ムヲ得ザル所ナリ、故ニ本年ハ年度初メヨリ寧ロ進ンデ新ニ計劃ヲ樹テ春ヨリ秋ニ至ル間ニ伐木造材並ニ集材事業ヲ出來得ル限リ進シセシメ冬季ニ於テハ比較的技術ノ劣ル人夫ヲ以テ雪上ノ事業ヲ完了スルコト、シ優良ナル技術者及家庭ヲ離レテ出稼シ得ルモノハ成ル可ク進ンデ出稼セシムル如キ方針ニ仕事ヲ仕組ミテ實行中ナリ

出稼ニ關シテハ昨年度ノ状態ハ其成績良否略半ハニシテ著シク不良ナルモノ少ナキ模様ナリ

出稼ニ當リテハ出入ノ度ニ濫費多ク相當ノ賃銀ヲ得テ歸リシモノハ家計膨脹ノ虞アリ、又過勞ニ陥リ病氣ニ罹リ家庭ヲ離ル爲若キ者ハ旅ニ出テ濫費シ思ハザル惡習慣ニ染ム等從來ノ結果ニヨレバ本人ノ精神上ニ又地方風俗上ヨリ餘リ良好ノ結果ヲ示シ居ラザル状態ニ在ルモ地方的事情並ニ一家經濟更生上止ムヲ得ザル所ナレバ寧ロ統制ヲ採リ計劃的ニセシムル方双方ニ特策ナラント思料シ實行ノ豫定ナリ。

二、國有林野各種制度並施設ニツキ擴充刷新スベキ事項

(イ) 森林鐵道ニ關スル件

(一) 森林鐵道ノ運賃中薪材ノ運賃輕減ノ件

現在ニ於ケル鐵道運賃ハ決シテ高率ニ非ラザルモ一立方米當リ一杆機關車〇、〇三〇手押貨車〇、〇一五(民棚ニスレバ〇、一八〇及〇、〇九〇)トナリ當署部内ノ如キ大部分杉ノ枝條ニヨリ近クシテ四杆遠クハ一二杆普通八杆位トナリ遠キ人ハ民棚一棚ニ付二、一六〇ノ納金ヲ要スル所ナリ普通ニ見ルモ一、四四〇ヲ要ス、之レヲ一棚ノ仕上り値段ニ見ルトキハ次ノ如シ

探取費	五人	四圓五〇〇
拂下代金	一立方米ニ付〇、一五	〇、九〇〇
積込及卸シ一人		〇、九〇〇
之レニ鐵道運賃普通ノ場合		計原價六圓三〇〇
遠キ場合		

合 計	一、四四〇	二、一六〇
原價ニ對スル鐵道賃 ^{18.5%}	七、七四〇	八、四六〇
		25.5%

當署拂下數量ヨリ見ルニ杉枝條四三五、雜末木一四二、民棚ニシテ計五七七棚之レヲ中庸ノ料金一圓四四〇トセバ八三〇圓餘トナリ實際ニ於テハ幾分多ク出ズル模様ナリ

遠方ヨリ運搬スルモノハ尙一層ノ負擔トナル故此際自家用薪材ニ對シテ此半額位ニ輕減サレ度キ希望ナリ

手押貨車ヲ利用スレバ現金支拂ヲ輕減スルコト、ナルモ森林鐵道ノ幹線ハ許サザル所ナルト同時ニ假リニ許スコトアルモ軌條ノ太キ關係上遠方ヘノ輸送ハ見込ナキ所ナリ

(二) 民間貨物ニ對スル施設

從來民間貨物ノ輸送ニ對シテハ餘リ注意ヲ拂ハザリシガ今回製材製品ノ輸送ヲ始メテヨリ民間貨物ニ對シ連絡ノ不備ナルヲ悟レリ勿論一般的ノ鐵道トハ異リ専用線ナレバ止ムヲ得ザル所ナリトハ言ヘ已ニ百萬圓以上ノ大資本ヲ投ジ其ノ延長主線ノミニテ四六杆ニ達シ其間數ヶ村ヲ貫ク状態ナレバ出來得ル限リ之レヲ利用セシメ資本ヲ生カス如ク努力スル必要アルモノト認ム

七座營林署ニテ管理セラレ、モノニ對シ注意ガマシキ事ナルモ山奥ニテ其利害恩惠ニ浴スルモノハ上小阿仁村ノ住民ナレバ茲ニ提案スル次第ナリ、即チ主要驛ニ於ケルホーム連絡ノ道路及一時貨物ヲ容ル、上屋ノ如キモノヲ設備スルヲ望ム

(三) 無賃乗車ヲ廢シ有料トシ其收入ニヨリ定期列車ヲ運轉サレ度シ

森林鐵道ノ無賃乗車ハ地方民トシテハ恩典タルニ相異ナキモ其間ニ餘リ用事モアラザルニ地方ニ出テ時間ト金ヲ空費スルハ否ム可カラズ又有料ニセバ施設ト責任大ナリトノ點考慮セラル、モ現在ノ無料ニテモ萬一事故有レバ如何ナル場合モ責ヲ負ハザル可カラザレバ同シ事故此點ハ夫レダケノ心配ナキモノト思料サル

其ノ收益ニヨリ一日一往復ノ定期列車ヲ運轉シ來客ヲ輸送スルト同時ニ民間ノ貨物ヲ比較的ニ敏活ニ輸送サルレバ地方開發上裨益スル處頗ル大ナルモアラント思料セラル、ガ故ニ當局ニ於テ御研究ヲ望ム

(ロ) 八木澤ニ於ケル線外國有林ノ開放ニ關スル件

八木澤部落ノ背後ニアリ昨年來ヨリ整理ニ着手サレタル線外國有林ノ二〇〇陌ハ從來殆ンド民有地ト思料シ生活シ來リタル所ニシテ今此ノ境界確定シ普通ノ取扱ヲ爲サル、ニ於テハヨシ開放サル、モ其料金ニテ倒産セザル可カラザル状態ニ至ル可シ本年ノ萩形事業區ノ檢定ニ際シ御考慮ヲ煩シ大體左ノ如キ恩典ヲ得タシ

- 萱刈場 一〇
- 採草地 七〇
- 放牧地ニ對シテハ一部ニ粟ヲ栽培スルコト 七〇
- 委託林 五〇

不要存置ノ見込個所七町位ハ一時貸付シ漸次賣却ノコト

(ハ) 國有林内ノ貸付水路布ヲ無料使用セシムルノ件

國有林内ニ於テ田布地ノ貸付ヲ受ケテ耕作ヲ爲シ居ルモノハ之レヲ無料トシテ使用セシムルハ時宜ヲ得タル方法ト認メラ

ル
灌溉用水路ハ單ニ局部的灌溉用トノミ考察スルトキハ賛意表シ難キモノアルヤニ認メラル、モ浸潤セル水氣ニヨリ林木育成上其ノ効果大ナルモノアルヲ認メラル、ヲ以テ本件ノ如キ國有林内ノ貸付田布ヘノ灌溉用水路ハ無料ヲ以テ使用セシムルヲ適當ト認ム

此ノ貸付面積〇、〇四五九陌トス

(ニ) 開墾適地貸付ノ件

無立木地個所ニシテ開墾可能ノ處差當リ南澤事業區24い〇、七〇〇〇陌60ぬ〇、一五〇〇陌19に〇、一五〇〇陌ノ三ヶ所ニシテ約一陌ヲ耕地トシテ貸付シ餘剩勞力ヲ消化スルト共ニ經濟更生ノ一助トモ爲サントス

其外ノ開墾適地ニシテ萩形部落ヨリ二軒ヨリナキ近距離ノ所ニアル萩形事業區4ほへハ畑ノ開墾ニ最モ適スル個所ナルニツキ目下之レガ着手ヲ勸誘シツ、アリ

(ホ) 副業係設置ノ件

農山村經濟更生計劃樹立サレ之レガ實行ニ入りテヨリ至ル所ニ増産計劃ハ更ナリ凡テノ點ニ亙リ山野ニ遺利ヲ求メ種々研究サレツ、アリ殊ニ營林局署ニ於テハ山菜加工ニヨリ利用更生ニ努力シ山村民モ之レニ追從シ一意努力シ居ルモ其ノ實際ニ當ルモノモ加工ニ當リ第一ニ心痛スルハ其指導ト販賣ナリトス
此不安ヲ除クタメニハ營林局ニ副業係ヲ置キ各方面ト連絡ヲトリ全般的ノ指導ト販賣ノ統制並ニ市場價格ノ調査ニ努力サル、コト最モ大切ナラント思料セラル切ニ專任者ノ設置ヲ望ム

三、地元市町村經濟組織ニ適合シ指導助長スベキ農山村工業及副業ニ關スル事項

(イ) 産業組合ノ製材事業援助ニ關スル件

本年五月ヨリ當村ニハ三井財團ノ援助ヲ得産業組合ノ事業トシテ簡易製材所ヲ小澤田ニ設置セリ本事業ノ目的トスル所ハ山村工業化ノ前提ヲナス所ニシテ十馬力ノ石油發動機ニヨリ丸鋸ヲ動カスニ止マリ行ク行クハ村有林ヨリ出ル間伐木ノ製材ヲ爲シ其他地方材ノ賃挽ヲ爲スヲ目的トス
然シテ其事業方針ヲ聞クニ積極的ノ經營ヲ廢シ消極的ニ事業ヲ進ムル豫定ナリ、一方國有林ヨリ年々小澤田部落ヲ中心ニ

民間(區域戸數四三六戸)ノ修繕及建築用材トシテ細目及中目丸太ノ限度ニ於テ處分シ居ルモノ七、八十立方メートルヲ常トス、之等ハ今後地方消費トシテ組合製材所ニ處分シ必要ノ人ハ製材所ヨリ購入スルコト、セバ時間上又手數上ニモ便利ヲ得ルコト尠カラザルモノト思料セラル、ガ故ニ斯ク取扱ヒ致シ度ク御指示ヲ望ム
勿論市場外ニ搬出スルコトハ不可ナレバ處分セルモノハ其旨内意ヲ含マシムルコトニ致度シ

(ロ) 木地挽工場施設ニ關スル件

昨年来ヨリノ研究ノ結果部内ノ杉根株及杉枝條ヨリ材料ヲ得テ之レヲ利用シ秋田杉ノ木地ヲ製作スル考案ヲナン收支償フ程度ニ至リタリ故ニ作業場ノ計劃ヲ爲セルニ大體設備費、工場及人工乾燥室等一切ニテ五百圓ヲ要シ動力ハ電氣ニテ目下精米ニ使用スルモノヲ利用セバ一年間ノ資金約壹千六百圓ヲ要シ一年間ノ利益六百九拾五圓位ノ算定トナル、サレド本年ノ事業費ニハ夫レ丈ノ剩餘ナキ故ニ設備ヲ爲シ之レヲ民間ニ貸付シ設備費ノ一割位ノ料金ニテ使用セシメタキ希望ナルガ斯クノ如キハ果シテ許サル、モノナルヤ否ヤ御考慮ヲ煩シ度シ

木地挽工場經費一覽表

種類	内	譯	金額	摘	要
固定資本	2間3間坪數6坪1棟		120,000		
工場	6坪1棟熱氣ニヨルモノ		180,000		
乾燥工場	粗仕上各2臺ツツ二組		200,000		
設備			500,000		機械ハ1臺80圓計320圓新庄ヨリ
計			600,000		動力ハ現在ノ精米所ノモノヨリ取ル
職人	2人	1,000×2=2,000	300日		
	2人	男,700 女,400	1,100×300		
			330,000		

山元木取り	1ヶCO,1石36ヶ1,212角1ヶ0,100 小運搬0,03 運搬0,014	483,840	
蓋切り及整形	1ヶ當リ約0,030	100,800	
金物代等動力費		50,000	
計		39,600	
		1,604,240	平均0,478

現在能代ニ於テハ	本計劃ニヨルトキハ	
木代	仕上ダマダ	0,478
木取り	固定資本利子	50 3,360
		10%トス
木地ノニ	木代	0,100m3當リ 3,600
計		0,950

一ヶ0,800處分トセリ 0,207ノ利益トナル
總体ニ於テ 695,520圓
之ニ要スル資材ハ1ヶ當リ 0,1石 336石トナリ 93,3 m³

(ハ) 郷倉及共同作業場ノ建築用材ニ關スル件

共同作業場ノ必要ナルハ今更説述スルノ要ナキニ至レリ本年度ハ三ヶ所ニテ三棟、一棟ノ坪數二十五坪計七十五坪ニシテ大體六三立方メートル(二二五石)建設ノ豫定ナリ此用材ハ大館營林署ニテ打合せ、ル通り申込アラバ造林地ノ間伐材ニテ供給ノ見込
郷倉ハ部内ニ五ヶ所三十八坪ノ豫定ニテ此資材約七三、三立方メートルヲ要スル由ニ付特ニ便益ヲ計リ申込ニ至ラバ至急調査處分ノ見込ナリ、本件ニ關シテハ大館營林署ニ於テ打合せ、ル通り實行ノ見込ナリ

(ニ) 家庭工業トシテ杉小羽製作ヲ爲サシムル件

杉根株ヲ地元民ニ特賣シテ冬季ノ農閑期ニ家庭ニ於テ杉小羽ノ製作ヲ爲サシメ之レヲ販賣スルモノトス即チ當地方ハ往時ヨリ一般ニ杉小羽ノ製作ニ從事セルモノ多數アルヲ以テ其ノ職業的性能ヲ利用シ更生ノ一助トモ爲サントスルモノナリ主トシテ屋敷部落トス

(ホ) 下駄及櫓ノ製造ノ關スル件

杉根株ヲ利用シ下駄材ノ製作及潤葉樹利用ニヨル下駄及櫓ノ製作ヲ爲サシメ農山村工業ノ資トナシ且ツ又之レガ販賣ノ幹旋ヲ爲サントス
萩形擔當區部内ニ於テ昭和九年中國有林ヨリ資材ヲ拂下ゲ下駄及櫓ノ製造ヲ爲サシメ且ツ之レガ販賣ノ幹旋ヲ爲セルモノ次ノ如シ

品目	資材	拂下		單金	金額	備考
		數量	代金			
下駄素材	サハクルミ ハリギリ	一 ³ 天	七、三〇〇	〇、〇四〇	三、四、〇〇〇	一人一日製作 三〇足
權	ナラ			三、七〇〇	〇、二〇〇	一人一日製作三丁 本資材ハ薪炭材中ヨリ製作セルモノナル故數量 代金計上セズ
計		天	七、三〇〇		四、五、〇〇〇	

(ハ) 藥草栽培ニ關スル件

萩形部落へ藥草ノ栽培ヲ普及セシムルタメ試驗地ヲ萩形事業區⁴と及民有地ノ一部ニ設置セントスルモノニシテ種類ハ主

トシテわうれん、たうき等ヲ試植シ之レガ指導ノ全部ハ營林署ニ於テ爲シ又努力ノ一切ハ部落民ノ奉仕ニヨリテ試驗事業ノ完成ヲ期セントスルモノニシテ之レガ成功ノ曉ニハ國有林ヲ廣ク開放シ益々其ノ効果ヲ擧ゲントスルモノナリ

(ト) 栗樹増殖ニ關スル件

上小阿仁村ハ從來小阿仁くりノ產地ニシテくり栽培ハ副業的價值充分ナルハ既ニ明カナル事實ニシテくり増殖ハ地元町村經濟ニ相當ノ好影響ヲ與ヘルコトハ明カナリ
當署ニ於テハ此ノ目的ヲ以テ既ニ本春四月管内各部落人ヲ集メくりノ割接ヲ指導セリ、而シテ本秋九月尙ホ芽接ヲモ指導獎勵スル見込ニシテ毎年繼續事業トシテ國有林ノミナラズ民有林ノ指導ノ意味ヲ以テくりノ増殖ヲ爲サント計劃中ナリ
而シテ此種ノ接木芽接等ハ何人モ多少ノ好奇心ヲ有スルモノニシテ之レガ普及ハ比較約容易ナリ

(チ) 山菜ノ加工ニ關スル件

ぜんまい、椎茸、なめこ、筍、山わさび、ふき等山菜ノ採取ノ乾燥、防腐、罐詰ノ製造ニ就テハ村當局ト協力シ指導者ヲ招聘シテ技術ノ向上ヲ計ラントスルモノナリ、然シテ本春萩形八木澤部落民ハぜんまいノ乾燥法ニ就テ指導者ヲ招聘シ實地ノ講習ヲ受ケシメ且ツ又ぜんまいノ人工乾燥場ヲモ設置シテ其増産ヲ計リツ、アレバ其ノ効果モ近キ將來ナラント思料ス

今後ハ萩形、八木澤方面ニわさび、菌茸ヲ栽培獎勵セシムル豫定ナリ
以上ニヨリテ得タル生品ハ成ル可ク規格ノ統一、出荷ノ調節、價格ノ適正ヲ期スル爲出荷組合ノ設立ヲ豫定シ居レリ

(リ) カラムシ栽培獎勵ノ件

當地方ハ往時手織機ヲ各家庭毎ニ備付ケ自給自足ノ途ヲ講ジ來リシモ現今ニテハ之レニヨリ自家用織物ヲ爲スモノ僅少トナリタルハ遺憾トスル處ナリ之レガ復活ノタメ村當局ト共同シテカラムシノ栽培ヲ獎勵シ之レニヨリテ得タル糸ヲ以テ織

物ヲ獎勵セントスルモノナリ

四、其他參考事項

(イ) 貯金獎勵ノ件

國有林各種事業ニ從事スルモノハ一口五十錢以上ノ貯金ヲ獎勵シ居リタルモ一般的ニハ之レヲ及ボサザリシ處村内ノ事情ヨリ察知シ村一般ニ貯金ヲ獎勵スルコトヲ最モ重要ナル事項ト考慮シ信用組合ト協議シ其ノ活動ヲ要望シ當署ヨリモ應援シテ一口五錢以上ノ零細ナル貯金ヲナサシメント各部落毎ニ計劃ヲ進メ居レリ已ニ一二部落ハ開始セリ不況ノ折柄デモアリ且ツ勤儉節約ノ美風ヲ涵養スルコトノ一助トモナレバ其ノ効果多カルモノアルベシト考慮セルニヨリ此ノ計劃ヲ進メタリ

(ロ) 潤葉樹工場ノ廢材利用ニ關スル件

潤葉樹工場ニテ注文ニヨリ製材スル時ハ品等區分其他ノ場合廢材及小片ヲ相當ニ出スヲ例トス、之等ノ廢材ノ利用ニ就テハ極力努力シ居ルモ秋田方面ニテハ尙ホ雜木利用ニ馴レザルト資本家ノ此ノ方面ニ著目スル人少キタメ有利ニ處分サレザル状態ニ在リ然シテ之等ノ廢材ハ價格安クシテ取纏メ處分スルモ運搬力伴ハズ之レヲ遠方ニ送りテ加工サレザル有様ナリ故ニ之レヲ利用シテ玩具小箱ノ如キモノヲ造ル方面ニ進出スル必要アリト認ム
依テ營林局ニ於テ利用係ニテ調査製作賣先等ヲ希望者ニ指導セラレ秋田市又ハ能代方面ニテ實行シ得ル様ニ御指導ヲ希望ス

七座營林署

署長 岡

暢

農山村ノ實態ヲ解剖シ現在ノ窮乏ヨリ救出セントスル單ナル認識ヨリノ企畫ヲ是認セラル、ナラバ金山貴重ナル杉ニヨリテ全地ガ全價値化セラレタル當署管内ハ是レヲ基調トシテ直接ニ單一生産工業化セラル、コトニヨリ最モ有力ナル經濟貨物トシテアラユル生産ヲ超越シ一舉ニ狀勢ヲ轉換セシムルコト敢テ難事ニアラズ大工業組織ヲ地方ニ分解シ小工場乃至ハ家庭工業ニ分散セシムル所謂フォード式工業化ニヨリテモ其目的ノ大半ヲ達成シ得ベシ

然レドモ農山村ノ現實ヨリ其純情ヲ破壊シ原始産業ヲ無視シ其主體タル農林生産ノ分野ヲ浸阻スルガ如キ漫然タル工業組織化ハ寧ロ將來ニ大ナル經濟危機ヲ招來スルノ虞レアリ

茲ニ農山村救出ノ要旨ハ都市遊資ト農村勞働トノ相互交流ヲ計ルヲ理想トシ是レニヨリ所謂農村ノ過剩勞力ヲ消化シ現金收入ノ途ヲ擴充シ此理想ヲ想定スルコトニヨリ農村各機構ノ團體的結合組織化ガ具體的ニ考慮セラレ協力的組織結成ノ見透シノ下ニ初メテ地方的ニ適正ナル個々ノ對策ヲ出生セシムルニ至ルモノナリ、斯クノ如クシテ農山村ニ新シキ生活上ト新ラシキ經濟力トヲ與フ、徒ラニ其對策ニヨリ利潤ヲ高メ又ハ之ヲ造成スルニアラズシテ眞ニ其地方ノ有スル特異性ヲ伸張擴大セシメ新シキ製産物ヲ創出シ農村生活中ニ織リ込マシタル原始工業ヲ更ニ改新セラレタル形態ニ組織シ生活内容ヲ豐富ニシテ而モ現金支出ヲ減少シ將來ヘノ飛躍ニ彈力性ヲ與フルヲ重點トセザルベカラズ。

此意味ニ於テ管内ノ實情ニ即セル實行可能ノ各種事業案ヲ案配調査セリ、徒ラニ未知ノ經濟貨物ヲ探索シ投機的企業ヲ畫セルガ如キハ絕對ニ之ヲ執ラズ實在ニ對シ新シキ技術ト新シキ組織トニ依ツテ生産シ多量ノ餘剩勞力ヲ消化シ生産品ノ販賣ヲ統制シテ以テ地方福利ノ増進ヲ圖ランコトヲ主眼トセリ、以下各項ニ涉リ御諮問ニ答フル處次ノ如シ。

一、國有林野各種事業實行上考慮スベキ事項

(一) 冬季事業量ノ擴大ヲ圖リ餘剩勞力ヲ適當案配スルコト

製材樽丸其他ノ資材供給上斫伐事業ハ現行施業仕組ヲ強行シツ、アルモ冬季積雪ヲ利用セル運搬施設ニ依ルトキハ夏秋季ニ於ケル土橋又ハ林内軌道等ニヨルモノニ比シ遙カニ經濟的ニシテ多數ノ棚道材又ハ枕木等ノ消費ヲ免カレ林地ノ保安森林更新ノ安全ヲ期シ得ル外餘剩勞力ノ案配適正ヲ圖リ得テ地方勞力經濟ノ利用緩和ニ資スル處大ナリ、而シテ資材供給ノ

調節ハ一舉ニ叙上仕組ヲ變更スルコト能ハザルヲ以テ各署協定ニヨリ漸進ノ方針ヲ採リ供給ノ圓滑ヲ期スレバ大ナル不便ヲ生ズルコトナカラン、但當署ニ於テハ本年度斫伐量三〇、二〇〇立方米ノ内一三、二八八立方米ハ冬季積雪利用運材ニヨル事業量ニシテ本年度分ハ改變不可能ナルモ明年度以降ニ於テモ相當本方法ハ大ナル考慮ヲ拂フ價値アル問題ナリト信ズ

(一) 近距離ノ動力運材ヲ一部暫定的ニ手押トシテ實行ノコト

近距離動力運材ハ概シテ手押ニ比シ多額ノ經費ヲ要スルヲ常例トス今日ノ場合全運搬並販賣計畫上支障ナキモノハ一兩年間暫定的ニ手押ト爲サバ相當餘剩勞力ヲ消化スルニ好都合ナラン。
當署管小澤田線ノ運材四千餘立方米ハ當分ノレヲ手押トナシ更ニ羽根山線運材モ一部手押ト爲シ得ルモ積換ヘノ爲却ツテ動力ニ比シ經費ヲ要スルヲ以テ本年度ハ實行不可能ナリ。

(二) 斫伐事業個所ノ變更

管内下大野村ハ先年ノ冷害ノ爲相當被害ヲ蒙リ困憊見ルニ忍ビザルモノアリ、然ルニ國有林關係事業ハ保線及造林ニ僅少ノ額ヲ有スルニ過ギズ、一方下小阿仁村地内ニハ下大内澤及孫七澤ノ兩斫伐事業アリテ孫七澤ノ如キハ一里餘ノ雪櫃運材事業ヲ有セルヲ以テ本業ヲ左記ノ通り分割シ更ニ羽根山澤内ニ於ケル造林間伐斫伐事業ヲモ變更シテ共ニ下大野村地内ニ事業ヲ移シ該村ノ勞力消化ヲ計ラントス
計畫左記ノ通り

下大野村救済ノタメ事業個所變更ニヨル面積材積經費並ニ勞働關係

種別	村名	國有林名	林小班	樹種	主伐別	豫定及實行		面積	生産材積		經費	人夫數
						當初次案	變更		ha	m ³		
同	下小阿仁	孫七澤	5-1-ろ	杉	主	當初次案	變更	7.7	2,500	6,973	7,700	
同	同	同	同	同	同	同	同	1,500	4,185	4,650	同	

種別	村名	國有林名	林小班	樹種	主伐別	豫定及實行		面積	生産材積		經費	人夫數
						當初次案	變更		ha	m ³		
同	下大野	增澤	6-い	杉	主	追加	差引増(減)	6.5	1,000	3,000	3,333	同
						同	同	同	同	同	同	同
同	計	計	計	計	計	當初次案	差引増(減)	23.2	2,940	7,975	8,922	同
						不實行及	不實行	4.7	1,500	4,185	4,650	同
同	計	計	計	計	計	當初次案	差引増(減)	15.7	4,400	11,970	13,774	同
						不實行及	不實行	0	0	0	0	同
同	計	計	計	計	計	當初次案	差引増(減)	31.1	7,400	21,945	24,746	同
						不實行及	不實行	0	0	0	0	同
同	計	計	計	計	計	當初次案	差引増(減)	49.1	11,000	33,965	38,496	同
						不實行及	不實行	0	0	0	0	同
同	計	計	計	計	計	當初次案	差引増(減)	100	22,000	66,930	77,242	同
						不實行及	不實行	0	0	0	0	同
同	計	計	計	計	計	當初次案	差引増(減)	150	33,000	100,890	115,488	同
						不實行及	不實行	0	0	0	0	同
同	計	計	計	計	計	當初次案	差引増(減)	241	55,000	168,825	192,934	同
						不實行及	不實行	0	0	0	0	同
同	計	計	計	計	計	當初次案	差引増(減)	332	77,000	241,755	278,422	同
						不實行及	不實行	0	0	0	0	同

右不足額二六三圓ハ配賦豫算中ヨリ捻出シ得ル見込

二、國有林野各種制度並施設ニ付擴充刷新スベキ事項

(一) 購買部擴張

餘剩勞力消化ニ直接の效果ナシト雖モ多數從業員ノ生活費負擔ヲ輕減シ從ツテ扶養家族ノ生活ノ安定ト餘裕トヲ招來シ安ンジテ他ノ生産ニ從事シ得ルコト、ナリ工夫、創造の方面ニモ効果ナシトセズ。
當署ハ購買部資金トシテ共濟組合ヨリ壹千圓ノ貸付ヲ得アルモ今後飯米ノ供給ヲ爲シ一層輕減ヲ計ラントス、依ツテ之ニ要スル資金壹千圓ヲ更ニ貸付ラレシコトヲ希望ス、而シテ現在米商ヨリ供給セシメツ、アル從業員ノミノ所要量ハ六百石内外ニシテ漸次製米機ノ据付ヲモ爲シ一段ト輕減ヲ計ラントス。

(二) 林内放牧

管内落合村ニ於テハ放牧地ヲ有セズ馬產政策上甚ダ不利ナル状態ニアリ、產馬事業ハ國家的見地ヨリシテモ將來相當考慮スベキ事業ニシテ林業ヲ敵視セル從來ノ觀念ヲ一掃シ兩者兩立ノ方策ヲ考究スルノ要アリ、斯ル見地ヨリ將タ又更新促進上ノ試案トシテ一定年度ヲ期シ擇伐後地ニ飼馬ノ放牧ヲ認容セントス。
羽根山澤國有34、35、36、37林班面積一九〇ha中造林地三三ha以外ハ比較的近年ノ擇伐跡地ニシテ杉現實林ノ過去ニ於ケル放牧地トシテ利用セルモノ、現在美林ノ沿革ハ既往ニ於ケル放牧ト關連セルモノ各所ニ散見セラル、事實ニ照シ前記一九〇ha(但シ造林地ノ最少年十四年ニ付放牧スルモ何等害ナシ)個所ニ對シ三年間ヲ期シ放牧ヲ認容シ更新上ノ過程ヲ究メ度是レニヨリ落合村現在馬數一四四頭中約六十頭ヲ限度トシテ放馬ヲ認容セバ產馬事業ノ改新上裨益スル處甚ダ大ニシテ農山村ノ更生及勞力轉換上重大ナル意義ヲ有スルモノト思料スルヲ以テ一時的使用ヲ承認スル新制度ヲ設クルコトヲ認メラレケン。
而シテ防畜設備費ハ延長二千米、一米二錢トシテ四〇〇圓ヲ要スルニ過ギズト認ム。

(三) 森林鐵道、軌道敷地ノ一部ニ萩及楮栽培

森林鐵道軌道敷地ハ路面敷地ノ外ハ全ク休閑ノ状態ニアリ、而シテ總延長實ニ百二十軒ニ垂ントセルモノ、内約二十軒ニ渉ル法面其他ノ餘剩地アリ、之ニ對シ夫々適地ヲ求メ萩及楮ヲ約半數宛栽培セシメントス、萩ハ初年產量少キモ逐次増量シ三年目頃ヨリ乾草トシテ三千貫約五百圓、楮ハ一三、二〇〇本植栽翌年ヨリ收入アルモ三年目ニ至レバ一本ヨリ一貫目生産單價八錢ニ付約一、〇五六圓ノ收益アリ且ツ兩者ノ收穫ハ根刈リヲ爲スモノニ付土地崩壞等ノ虞ナク却ツテ土砂扞止上有効ナリ。而シテ之ニヨリ消化セラル、勞力ハ主トシテ女使用トシテ總延人員三、八四〇人ヲ要ス。

(四) 動力線ト雖モ運材休止中ハ支障ナキ限リ手押貨車ノ運行ヲ許可スルコト

動力ニヨル使用料金高額ナル爲メ一般ニ民間貨物ノ輸送ヲ農閑期其他家業ノ都合ヲ見計ヒ手押ニテ許可ヲ得ントス。惟フニ動力路線ニ對シテ手押ヲ許可セザル方針ハ災害ノ防止ト路線ノ保全トヲ主點トス、而シテ災害ハ臨時列車ノ運行ニ原因スルモノニ付之ガ運行ニ當リ充分手押貨車トノ連絡ヲ執リ得バ防止不可能ニアラズ又路線ノ保全ハ運材休止中ハ保線ヲモ中止スル爲幾多ノ都合ヲ生ズルニ至ルモノナルヲ以テ斯ノ如キハ地方產業助長ノ爲ニ署ニ於テモ或程度ノ犠牲ヲ拂ハザルベカラズ、斯クシテ官民ノ協調融和ヲ計リ旁々國有林產物及民間貨ヲ加ヘ約三千九百人ニ相當スル男女勞力ノ消化ル圖リ得ベシ。

(五) 林道使用料金ノ減免

鐵道軌道ニ對スル使用料金ヲ低減スルコトハ既ニ土地貸付料金ニ對シ執リタルト同様意味ニ於テ速カニ實施スベキモノナリ、殊ニ上小阿仁署管ヨリノ輸送ハ長距離ニ渉ル爲メ高額ナル料金ヲ要シ奥部產物ノ利用上甚シキ不利アリ、此際國有鐵道ノ執レル距離ニ應ジタル累減率制ハ勿論一般ニ低減ヲ計ルハ地方產業ノ助長ニ資スルノミナラズ勢ヒ各種事業ノ振張ヲ見勞力消化上大ナル効果アリ。

實ニ萩形方面ヨリノ林產物ハ天神迄素材ニ於テ立方米當リ丸太(機關車一圓九三五手押一圓〇七五)薪材官棚當リ(機關車三圓八七〇手押一、九三五)木炭ハ八貫俵當リ(機關車〇・〇八六手押〇・〇四三)トナリ到底積極的ニ利用ヲ開發スルコト困